

Title	蒙古語訳『普賢行願讃』の研究
Author(s)	樋口, 康一
Citation	神戸市外国語大学外国学研究. 18 p.1-p.157
Issue Date	1988-03
oaire:version	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/15704">https://hdl.handle.net/11094/15704</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

# 蒙古語訳『普賢行願讃』の研究

樋 口 康 一

## は じ め に

本稿でとりあげる Bhadracaryāpraṇidhānarāja（以下ではわが国における通称にしたがい『普賢行願讃』とよぶ）はかなり早い時期に蒙古語に翻訳され、また広く蒙古人に親しまれた仏典の一つとして有名である。トゥルファン出土文書の中には14世紀のものと推定される『普賢行願讃』の刊本断片が2葉含まれており、一方例えば Pozdneev は蒙古の仏僧の間に最も普及している讃頌として『普賢行願讃』の名をあげている<sup>(1)</sup>し、世界各地の蒙古語文書のコレクションのいずれをとりあげてみても必ずと言っていいほど『普賢行願讃』が所蔵されている。

しかし『普賢行願讃』はこのような文化史的な資料としての重要性もさることながら、今まではあまり注目されていなかったが、実は蒙古語史の資料としても大きな価値を有しているのである。本稿の目的は『普賢行願讃』のもつこの意味における資料的価値を論じるところにある。

蒙古語の歴史は、口語の歴史と文語の歴史に大別して考える必要がある。

口語の歴史は N. Poppe の見解にしたがえば、12世紀までの古代蒙古語 (Ancient Mongolian)、13世紀から16世紀末までの中期蒙古語 (Middle Mongolian)、これ以降の近代蒙古語 (Modern Mongolian) の三段階に分けることができる<sup>(2)</sup>。

古代蒙古語は文献以前の段階の蒙古語の謂である。中期蒙古語に関しては『元朝秘史』に代表される漢字による音写をとまなう資料、バクバ文字資料、Mukaddimat al-Adab 等のアラビア文字による音写をとまなう資料等があり、

その全容も次第に明らかにされつつはあるが、反面、これ以降現代の諸方言に至るまでのプロセスはほとんど未解明である。

一方、文語の歴史も13世紀から17世紀初頭までの先古典期蒙古語 (Pre-classical Written Mongolian), 17世紀中葉から20世紀初頭までの古典期蒙古文語 (Classical Written Mongolian), これ以降の近代蒙古文語 (Modern Written Mongolian) の三段階に分けられる。蒙古文語は基本的には古代蒙古語にその骨格を負うものと推定されているが、時間の経過にともなって口語との遊離が次第に進み、特に古典期蒙古文語の段階に至って、表記や文法の整備と規範化が著しく進み、口語との距離は決定的に大きなものとなってしまった。これが前記の研究の遅滞の主因である。

これに対し、先古典期蒙古文語は中期蒙古語の時代のいわば未完成の書写語であって、表記や文法等の面で未だ規範化が完成せず、随所に当時の口語である中期蒙古語が反映した言語であり、この意味で口語の歴史の解明に貢献し得るものと考えられている。

ところが、古典期蒙古文語資料に比べて先古典期のものは著しく数が少なく、その全容は不明に近かった。しかし、各国に将来された碑文や文書の研究が近年著しく進展しようやくこれが明らかにされつつある。そして、これら碑文や文書と比肩し得る資料として蒙古仏典が注目を集めるようになったのである。

元代には仏典の蒙古語訳がさかんに行なわれたと伝えられているが、当時の刊本、写本はほとんどが散佚し今日には伝わっていない。現存の蒙古仏典はほとんど全てが清代に開版、書写されたものであり、開版、書写の時期から推してその言語は前述の古典期蒙古文語であると考えられ、資料的価値はないものとされていた。ところが、研究の進展にしたがい、開版、書写の時代は新しいとしても、その行文は紛れもなく先古典期蒙古文語の諸特徴をよく保存しているものが少なからず存在することが明らかになっており、その資料的価値が認識されつつある。

もっともその資料的価値はたやすく定まるものではない。種々の異本を校合

し、字句の異同の性格を吟味しつつ定本を決定するという文献学的作業を経なければならぬ。蒙古語学の現状では、特に仏典に関する限り、この種の作業はまだ端緒についたばかりである。これを経ることで資料的価値が定まった蒙古語仏典の数は意外に少ない。Poppe, Ligeti, Heissig 等の業績は、この意味でまことに貴重であると言えよう。

筆者は16種の『普賢行願讃』の蒙古語訳テキストを検討した結果、このうちのいくつかのものには先古典期蒙古文語特有の注目すべき式が保存されていることを発見し、この意味で『普賢行願讃』がつとに注目を集めている『金剛般若経』、『普曜経』、『入菩提行論』、Subhāṣitaratnanidhi 等に匹敵するすぐれた資料的価値を有するとの結論を得た。<sup>(3)</sup>

以下を二部に分かつ。第一部においては解題、今回利用し得た蒙古語訳テキスト各種の紹介とその分類ならびに注目すべき言語特徴の記述を試み、今後の課題にふれる。第二部においては分類した各テキストの行文を翻訳と註を添えて紹介する。なお語彙については別稿にゆずる所存である。

#### 註

- (1) Pozdneev 1887, p.315 (Krueger 編1978, pp. 412~417)。
- (2) Poppe 1954, pp. 1~3, Poppe 1955, pp. 14~16を参照。
- (3) 蒙古仏典の研究略史とこれらの仏典については樋口 1980, pp.175~177を参照。

# 第 一 部

## 1. 解 題

『普賢行願讃』は、いわゆる華嚴経類に含まれる仏典のひとつで、62頌から成る讃頌である。「古来略華嚴経であるといふ伝説がある位で、大乘行者の生活を顕示して余蘊なく」、「要するに大乘仏教の信条を遺憾なく表現したもの」であると言われている。<sup>(1)</sup>

梵文、藏文のテキストについては単行の仏典として各種の異本が伝えられている。<sup>(2)</sup> 漢訳については、単行の形式をとるものとして仏陀跋陀羅訳『文殊師利発願経』（大正296）、不空訳『普賢菩薩行願讃』（大正297）があるが、いわゆる『六十華嚴』（大正278）や『八十華嚴』（大正279）には収められていない。しかし、後二者の「入法界品」の章に相当する『四十華嚴』（大正293）の末尾にはこの讃頌が置かれている。<sup>(3)</sup> 梵、藏、漢訳のほか、さらにウィグル語訳、コータン語訳も断片ながら存在しており、この仏典の広い流行を物語っている。<sup>(4)</sup>

## 2. 『普賢行願讃』の蒙古語訳とその分類

現在、所在が明らかな『普賢行願讃』の蒙古語訳は18種ある。諸般の事情から本稿で対象とするのはこのうちの17種である。その内訳は写本4種<sup>(1)</sup>、影印本<sup>(2)</sup>の出版されている版本4種<sup>(3)</sup>、影印本は出版されていないが利用可能な版本9種である。

(1) 『普賢行願讃』がすでに14世紀には蒙古語訳されていたと推定されていることは前述の通りである。トゥルファン出土文書中の2葉の断片のうち一方（T II T662）は第1頌第1句から第4句（以下1(a)~(d)と表わす。他のものも同様である）、他方（TM8）は32(c)~33(b)に該当する。<sup>(5)</sup>

ユベーンハーゲンの王立文書館には製作年代不明の『五種願讃』（Tabun Irü-

ger, 『普賢行願讃』や『仏説弥勒菩薩発願王偈』等5種の願讃を集めたもの)の写本断片があり、これに『普賢行願讃』が収められている。<sup>(6)</sup>これは冒頭～11(c), 20(b)～29(b), 32(c)～37(d)を欠く。以下では同館の整理番号にしたがい Mong 382 と略称する。

大阪外国語大学石浜文庫にも『五種願讃』に類する仏典集の写本があり、ここにも『普賢行願讃』が収められている。<sup>(7)</sup>これは完本である。以下では石浜写本もしくはIと略称する。

龍谷大学図書館にも『五種願讃』に類する仏典集の写本があり、ここにも『普賢行願讃』が収められている。<sup>(8)</sup>これも完本である。以下では龍谷写本もしくはRと略称する。

今回利用し得たのは以上4点である。ほかにダブリンの Chester Beatty 文書館にも17世紀のものと推定される『五種願讃』写本がある旨報告されている。これには Ligdan Qan 治下でカンジュール翻訳に従事した訳官の一人 Dayičin Tayiji が翻訳した旨の奥書があるという。<sup>(9)</sup>

(2) 現行の蒙古大蔵經の經部、いわゆるカンジュールには3点の『普賢行願讃』が収められている。すなわち Ligeti 1942-4 の整理番号にしたがえば No. 731 (以下ではK731と略称する、他も同様), No. 848, および No. 1144 である。<sup>(10)</sup>K848は華嚴部の最終巻に置かれてはいるものの、形式上は『華嚴經』(K847)とは独立したものという体裁をとっている。なお『普賢行願讃』を3点収めているという点では西蔵大蔵經と平行している。

また International Academy of Indian Culture には漢蔵滿蒙対訳の『普賢行願讃』版本が所蔵されており、これは Lokesh Chandra 1979 に収録されている。<sup>(11)</sup>以下では同 Academy の整理番号にしたがい Mong 06.45 と略称する。

(3) 清代到北京で開版された木版仏典に関する包括的な研究書 Heissig 1954 によれば、17世紀以降に2点の『普賢行願讃』が開版されている：同書の配列番号にしたがえば 142 (以下ではPLB 142と略称する、他も同様) Qutuγ-tu

sayin yabudal-un irüger orusiba,<sup>(12)</sup> および 183 Qutuγ-tu tabun irüger-ün neretü sudur<sup>(13)</sup> がそれである。

またその他の仏典集については1707年刊行の PLB 13 Tarnis-un quriyan-gγui,<sup>(14)</sup> 1718年刊行の PLB 49 Qutuγ-tu tarnis-un quriyangγui zungdui kemegdekü yeke kölgen sudur orusiba,<sup>(15)</sup> 1720年刊行の PLB 67 Sung dui terigün/nögüge bölüg orusiba,<sup>(16)</sup> 1729 年刊行の PLB 72 Zungdui terigün/nögüge bölüg orusiba<sup>(17)</sup> に各々『普賢行願讃』が収録されている。なお P L B 13, 67, 72の三者は全く同一の内容であり、奥書にはすでにこれらに先き立って（おそらくは元代と推定される）<sup>(18)</sup> 成立していた原典に対して、Ligdan Qan の時代の翻訳家 Sürüm が改訂を加えたテキストにこれが依拠している旨の記載がある。以下では P L B 72所収の『普賢行願讃』のテキストによって三者を代表させる。一方 P L B 49は前三者とは内容に異同がある。Heissig はこれが清朝による蒙古大蔵経刊行に際するいわば副産物であり官製版に採られなかった異本の集大成であるという可能性を示唆している。<sup>(19)</sup> 成立の過程にはなお不明な点があるにせよ、これらの資料的価値は高いと考えてよい。

これら以外にさらに 2 種の北京木版本の仏典集 PLB 66 Dbus-yin nom-un ayimaγ yeke baγa nuγud-tur nomlaγsan-u nom-un yabudal-un jerge sayin qubitan-u qoγulai-yin čimeg kemegdekü orusiba,<sup>(20)</sup> および PLB 149 Öljei badaraγsan süme-yin qural-un aman ungsilγa nom-un yabudal masi todorqai gegen oyutan-u qoγulai-yin čimeg čindamani erike kemegdekü orusiba<sup>(21)</sup> にも『普賢行願讃』が収録されている。

東洋文庫所蔵の木版仏典集の中には『普賢行願讃』を収録したものが 7 点ある。Poppe, Hurvitz, Okada 1964の配列順序にしたがうなら 11（以下では T11 と略称する、他も同様）、63, 72, 75, 97, 99, 100がそれである。このうちの 4 点 T11, 63, 72, 99は各々 P L B 72, 49, 183, 66に該当するが、残る 3 点については Heissig 1954 には直接に該当するものは見当たらない。T75は「ラシルンボ法会念誦經」,<sup>(22)</sup> T97は「婦依經」という帙題をもつが、ともに奥

書がなく、製作年代の詳細は不明であるが、字体等から18世紀以降の開版と推定できる。<sup>(23)</sup> T100 Tegüs čoytu bka-a ese lhun powa-yin yeke qural-un čiyulγan-u naiman ungsilya-yin nom-un yabudal sayitur todoqayγan kemegdekü orosiba は「ラシルンボ法会の際念誦する諸經」という帙題をもち、<sup>(24)</sup> 1736年に開版されたものである。

これらの写本、版本が代表する『普賢行願讃』の蒙古語訳の四章句を以って一頌を構成するという形式を踏まえているという点では全て共通している。しかし行文に観察できる言語上の特徴の有無や字句の異同にてらして、さらに下位分類が可能である。

まず、トゥルフアン断片を除き、他は先古典期蒙古文語特有の形式 <sup>(25)</sup> bügsen を行文中に保存するか否かで二種に大別できる。保存する I, R, Mong 382, K731, 848, 1144, PLB 49, 72, 142, 183, Mong 06.45 を便宜的に「旧訳」と称し、残る PLB 66, 149, T75, 97, 100 を同じく「新訳」と称することにする。

次に字句の異同という観点を導入すると、次のように新旧いずれも各3種、計6種に分類できる可能性が大きい。

A (=旧訳1) I, R, Mong 382, K731

B (=旧訳2) K848

C (=旧訳3) K1144, PLB 49, 72, 142, 183, Mong 06.45

D (=新訳1) T75

E (=新訳2) PLB 66, T97, 100

F (=新訳3) PLB 149

Aの4者の間の異同はほとんどが正書法上の差異として処理し得るか、もしくは誤記の類と見なし得るものである。これらは同一の底本に依拠した可能性が濃厚と見てよいだろう。

BCについては、PLB 49, 72, 142, 183, Mong 06.45の5者は同一の底本に依拠したものと推定できるが、K 1144をこれに含めてよいか、K848をこれ



らと系統を異にすると見なし得るか否かについてはなお多分に検討の余地がある。ここではカンジュール所載の3者が各々別系統の異本を代表するとの可能性もふまえ、このような分類を選んだ。

新訳3種のうちEの3者は一部の書記法上の差異を除けば行文そのものは完全に一致している。一方T75は新訳とはいいながらも、行文そのものは旧訳のいずれかと類似もしくは一致することが少なくない。敢えて言うなら「中間的」な性格を示すと言える。逆にPLB 149はほとんどの行文において新旧訳の他のものとの一致や類似が観察できない。おそらくは全く異なる発想で新たに翻訳されたものと見なし得る。

またトゥルフエン断片の行文はA～Fのいずれにも完全に合致しないものの、旧訳のどれかとの関わりが深いと推測できる。しかし文字通りあまりにも断片的すぎて結論は下せない。

なおA～Fの順序は各々のテキストが製作された年代に平行するものではない。また、旧訳1や新訳1といっても、あくまで便宜的なものであり、対応関係を前提としたものではない。A～F間の関係は、蒙古語訳テキストのみを見て議論できる性質のものではない。これについては後にふれる。

### 3. 新旧訳各種の言語の特徴

#### A. 旧訳に関して

以下では旧訳各テキスト中に保存されている先古典期蒙古文語を特徴づける形式のうち注目すべきものを、適宜新訳各種の形式と対比させつつ紹介したい。綴字の面では各々は文語の規範に忠実であるため、見るべきものは形態、語彙の面に限られる。

##### (1) 与・位格語尾 -dur-i / -dür-i

これは先古典期蒙古文語特有の形式であり、その機能、用法についてはなお検討すべき点が少なからずあるが、一応通常の与・位格語尾に三人称単数の人称代名詞<sup>(27)</sup>iが後置されたものと考えられている。

この形式の用例は新訳では皆無であるのに対して、旧訳ではBを除く各テキストに数列出現する。その状況を表示すれば次のようになる。

16(c)	R, Mong 382, K731
27(a)	I, R
28(c)	I
32(a)	I, Mong 382
34(d)	I
57(a)	I, R, Mong 382, K1144, PLB 49, 72, 142, 183
59(a)	Mong 382, K731, 1144, PLB 49, 72, 142, 183

これは例えば16(c)ではR, Mong 382, K731の3種にこの形式が出現することとを示す。ここでは57(a)の例をあげる：<sup>(28)</sup>

57 (a)

A minu üküküi čaγ boluγsan-dur-i:

「私の死すべき時となった際には」

B kejiy-e ečülküi čaγ minu boluγsan-dur:

C kejiy-e ečüdküi<sup>1)</sup> čaγ minu<sup>2)</sup> boluγsan-dur-i<sup>3)</sup>:

D kejiy-e ečüdküi čaγ minu boluγsan-dur:

E kejiy-e nögčiküi čaγ minu bolqui-dur:

F kej(i)yebi önggereküi čaγ-tur-ıyan kürbesü:

1) K1144 üküküi, Mong 06.45 nögčiküi 2) K1144 manu

3) Mong 06.45 boluγsan-dur

(2) 奪格語尾 -ča/-če

古典期蒙古文語の通常の奪格語尾は -ača / -eče であるが、これは二次的な発展形式であって、与・位格語尾 -\*a/-e に本来の奪格語尾 \*-ča/-če が接続したもの<sup>(29)</sup>と推定されている。この -ča/-če の用例は次に掲げる1362年の漢蒙対訳碑文のような先古典期の資料中に若干例が確認されている。

beler-če uiγud-un qan inu

「いにしえよりウィグル王は」

この -ča/-če がAの石浜写本では20(a)において使用されている：

20 (a)

A jayaγan kiged nisvanis-un simnus-un<sup>1)</sup> üilesče<sup>2)</sup>：

趣と煩惱の惡鬼の所業から、

1) Mong 382 simlu-yin, K 731 simnu-yin 2) 他は üiles-eče

B jayaγan kiged nisvanis-un simnus-un üiles-eče：

C jayaγan-u nisvanis kiged simnu-yin üiles-nügüd-eče：<sup>1)</sup>

D jayaγan kiged nisvanis-un simnu-yin üiles-nügüd-eče

E üile kiged nisvanis ba simnu-yin üiles-nügüd-eče<sup>2)</sup>

F üile kiged nisvanis ba simnu-yin qamuγ üiles-i：

1) Mong 06.45 ø 2) PLB 66：

(3) 数の一致

修飾語・被修飾語間の数の一致の現象は、先古典期蒙古文語に顕著な傾向で  
ある。<sup>(30)</sup> Tを除く新訳各種では皆無のこの現象が、旧訳では次の5(c)を初めとし  
て数箇所で見られる：

5(c)

A degedü jula kiged<sup>1)</sup> sayin önür-ten küjis-iyer：

「最上の燈明と良き薫りの香によって」

1) 他は ø

B = A :

C +<sup>1)</sup> jula kiged /sayin önür-ten/<sup>2)</sup> küjis-iyer：<sup>3)</sup>

D = A :

E degedü<sup>4)</sup> jula kiged degedü küjis-iyer：

F degedüke jula kiged degedüki küji-ber：

1) K1144 degedü 2) K1144 degedü 3) Mong 06.45 ø

#### 4) PLB66 degedü

##### (4) -n による複数形の構成

次に掲げる11(a)ではBの küsegčün がA Cの küsegčid に対応している。後者の -γčid/-gčid は行為者を示す形動詞語尾 -γči/-gči の通常の複数形であるが、前者の -γčün/-gčün は先古典期蒙古文語特有の複数形である：

##### 11 (a)

A aliber<sup>1)</sup> nirvan bolun küsegčid teden-dür:

「あらゆる涅槃あらんことを願うものであるかれらに対して」

1) 他は ali ber

B ken nirvan-i üjügülsügei kemen küsegčün teden-e:

C ken nirvan-i üjügülsügei<sup>1)</sup> +<sup>2)</sup> kemen küsegčid teden-e:<sup>3)</sup>

D = C :

E ken nirvan-i üjügülsügei kemen taγalaγči teden-e:

F nirvan-i üjügülküi taγalaγči teden-dür:

1) PLB142, 183を除き üjügülsügei 2) Mong 06.45:

3) PLB 142, 183 ø

-γčün/-gčün そのものは13(d)でAのK731において boluγčün が出現するのみであるが、このような -n による複数形の構成は上述の5(c)のA～Dにおいて使用されている önür-ten 「薫りのよい」(<önür-tei) 等にも見出される。これは先古典期蒙古文語において生産的に使用された構成法であった。<sup>(31)</sup>

##### (5) Benedictive 語尾 -dqun/-dkün

命令・願望法中の Benedictive 語尾については古典期蒙古文語では -γtun/-gtünあるいは -γtui/-gtüi がもっぱら使用されるようになるが、これは二次的な発展形式で、本来の形式 -dqun/-dkün に metathesis が起こった結果生まれたものである。<sup>(32)</sup> 次に掲げる54(d)ではCにおいてこの形式の用例が観察できる。<sup>(33)</sup>

##### 54 (d)

A degedü<sup>1)</sup> qutuγ-i olqui-dur qoyar sedkil<sup>2)</sup> ülü bariγdaqu buyu:

「無上の菩提を得ることに疑いを抱いてはならないのである」

1) Mong 382 *degedü* 2) I ø

B *degedü bovadhi qutuγ-i olqui-dur qoyar sedkil buu üleddügtün:*

C *degedü qutuγ-i olqui-dur buu<sup>1)</sup> büged saγaradqun::<sup>2)</sup>*

D *degedü bovadhi qutuγ-i olqui-dur qoyar sedkil buu üiledgtün::*

E *degedü-dür sečig<sup>3)</sup> ülü üiledkün::*

F *bodī qutuγ degedü-dür sečig ülü üiledkün::*

1) PLB 142 *bui* 2) Mong 06.45: 3) PLB 66 *sesig*

(6) 準備副動詞 *-run/-rün*

この副動詞は古典期蒙古文語では 接続し得る 動詞語幹 がきわめて限られ、*ügülerün* 「～が言うには」 のような化石化した表現中でのみ 使われるにすぎないが、先古典期蒙古文語ではきわめて生産的に使用され、種々の意味を担い得たと考えられている。<sup>(34)</sup> その一つと見なし得る例が11(b)のBに見出される：

11 (b)

A *qamuγ amitan-i<sup>1)</sup> tusa kiged jirγalang-un tulada:*

「一切衆生に利益と安樂のために」

1) 他は *amitan-a*

B *qamuγ amitan-a tusa kiged jirγalang bolur-un:*

C *qamuγ amitan-a tusa<sup>1)</sup> kiged jirγalang bolγaqu-yin tulada:*

D *qamuγ amitan-a tusa kiged jirγalang bolqu-yin tulada:*

E *qamuγ amitan-a tusa kiged jirγalang-un tula:*

F *amitan-i tusalad jirγ(a)γulquyin tula bi:*

1) BLB 72 ø

(7) 分類副動詞語尾 *-γad/-ged* について

この語尾は本来は形動詞語尾であったと推定されている。先古典期蒙古文語において *ki*-「する」の分離副動詞形 *kiged* に格語尾が接続し、副動詞があたかも実詞であるかのような扱いをうけている用例が見出される。これはこの語尾の形動詞起源を物語る現象と解釈されている。この場合の *kiged* は「……<sup>(35)</sup>

と、……など」の意味をもつ。一方、ki- 以外の動詞の分離副動詞形が実詞的に使用され、格語尾をしたがえている用例はきわめてまれであるが、旧訳テキストのうちのいくつかでは次に掲げる32(d), 58(c)において、動詞 bū- の分離副動詞形 būged に格語尾が接続している用例が見出される：

32 (d)

A nigen gsan-u<sup>1)</sup> qubi būged-iyer /saγun üiledsügei<sup>3)/2)</sup> ::

「一刹那の分にあって坐すべく行じよう」

1) K 731 gšan-u 2) K 731 oron edlesügei 3) R üiledtügei

B nigen gsan-u qubi-dur būged oron yabusuγai ::

C nigen gsan-u<sup>1)</sup> qubi-dur būged oroju üiledsügei ::

D nigen gšan-u qubi-dur būged oron yabusuγai ::

E nigen gšan-u qubi-dur ber oron yabusuγai ::

F nigen agšim qubis-iyar orolduju yabumui ::

1) K 1144, Mong 06.45 gšan-u

cf. TIIT662 nigen gsan-u qubi-du.....üiledsügei

58 (c)

A teden-i qoçurli ügei oγoγata dügürgejü bi :

「それらを余すところなく完璧に成就して、私は」

B teden-i qoçurli ügei teyin būged dügürgejü bi :

C teden-i<sup>1)</sup> /teyin būged-tür/<sup>2)</sup> dügürgejü bi<sup>3)</sup> :

D = B :

E tedeger-i qoçurli ügei biber oγoγata dügürgejü :

F teden-i bi qoçurliügei oγoγata dügürgen :

1) K1144 tedeger-i, PLB142, 183 teden-ü 2) K1144 qoçurli ügei

bi ber oγuγata 3) K 1144 ø

石本写本、K 731のqubi būged-iyer については、būged は実詞的に使用され「……があること」の意味をもち、具格語尾 -iyer は時を表わす機能をに

なっていると解釈するなら、「分際のある間に」と訳出することも可能かと思う。

teyin бүгед「そのようであって」はこれ自体が一つの副詞句であり、仏典では梵語 vi-, チベット語 rnam-par に対する訳語として使用されることが多い。<sup>(36)</sup> PLB 49, 72, 142, 183, Mong 06. 45 においてはこれがもとの実詞としての意味で使用され、与・位格語尾をとまうことが副詞化していると考えたい。

これら二つの例では бүгед は kiged のような特殊化した意味ではなく、形動詞の実詞的用法という一般的な用法で使用されていると推定できるが、その正確な意味や機能の詳細についてはさらに検討を加える必要がある。

bүгед はまた上述 54(d) の C buu бүгед saγaradqun や 32(d) B~D の qubi-dur бүгед では本来の意味、機能を離れ言わば一種の小詞として使用されていると見なし得る。このような用例は中期蒙古語、先古典期蒙古文語では多数報告されているが、<sup>(37)</sup>次に掲げる 59(d) の例をはじめ、旧訳テキストおよび D においてもこの用例を見出すことができる。

59 (d)

A vivangkirid-i<sup>1)</sup> /bi ber/<sup>2)</sup> tende olqu boltuγai::

「授記を私こそそこで得ることになるがよい」

1) R yivangrid-i, Mong 382 viyakirid-i 2) I bi, K 731 ber bi

B vivangkirid-i ber tende olqu minu boltuγai::

C viyangkirid-i<sup>1)</sup> tende бүгед olqu minu botuγai::

D vivangkirid-i bi ber tende бүгед olqu boltuγai::

E = A ::

F vivangkirid ögdeküi-yi tende olqu boltuγai::

1) K 1144, PLB 49, Mong 06.45 vivangkirid-i, PLB 142, 183

yirakirid-i

特に 32(d) の諸例が示すように、この小詞的な бүгед と格語尾をしたがえた бүгед の間には何らかの 関係があることが予想できるが、その詳細の究明は

(38)  
今後の課題である。

(8) bü- の活用

bü-「ある, いる」は古典期文語においてはこれと結合し得る動詞語尾がきわめて限られている, いわゆる欠如的な動詞の一つとなったが, 本来はより自由に活用し得たと考えられている。先古典期の文献資料において, 古典期文語ではこの動詞との接続が許されないはずの動詞語尾をしたがえた bü- の用例が若干数ではあるが, 確認されているからである。その一つに bügsen がある。これは bü- に完了の形動詞語尾 -gsen が接続したものである。この形式は, 現在までに, 14世紀頃に著作, 翻訳されたことが確実な文献資料にわずかに合計9例が見出されているにすぎない。すなわち, 『元朝秘史』, 『金剛般若経』, 『入菩提行論』に各1例およびいわゆる羽田写本に3例, また『宝徳藏般若』に3例である。<sup>(39)</sup>この bügsen が旧訳各テキストの2箇所 (18(c), 50(c)) で見出されるのである。

18 (c)

A qamuγ amitan-u kelen anu kedüi bügsen bügesü:

「一切衆生の言葉はいかようであったにせよ」

B qamuγ amitan-u kelen anu kedüi bügsen bügesü:

C = B :

D qamuγ amitan-u kelen inu kedüi бүкү bügesü:

E qamuγ amitan-u daγun kedüi činegen bügesü:

F amitan-u daγun-nuγud kedüi ausan(*sic*) bügesü:

50 (c)

A samantabadari<sup>1)</sup> tereber<sup>2)</sup> yambar<sup>3)</sup> bügsen bügesü:

「普賢, 彼がいかようであったにせよ」

1) R samantabari, K731 samantabadr-a 2) R, K 731 tere ber

2) R yambarčilan 3) Mong 382 ø

B samanta badr-a bovadhi saduva yambar bügsen bügesü:



C samantabadari<sup>1)</sup> bodisdv<sup>2)</sup> yambar bügsen bügesü :

D samantabadr-a bovadhi saduva yambar metü bügesü :

E samantabadari tere yambar metü bügesü :

F kotu sangbo bodisadu yambar aγsan bügesü :

1) K 1144, PLB49, samantabadr-a 2) K 1144, PLB 49 bovadhi  
saduva

(9) 派生語尾 -jid-

古典期文語においては amurji-「静まる」(<amur「静けさ」), maγujira-「悪化する」(<maγu「悪い」)などにみられる -ji-, -jira-/ -jire- という動詞派生語尾が使用されるが, 先古典期文語ではさらにこれらと機能を同じくする -jid- という動詞派生語尾が使用されていたと推定されている。前二者がその後も生産性を失わず現代語においても使用されているのに対して, -jid- は次に掲げる『入菩提行論』において用例が1例確認されるのみで, これ以降の文献資料には見出され<sup>(40)</sup>ない:

X58(c)

1312 ken-ü ibegen-dür sayijiduγsan bügesü

L6 ken-ü ibegen-dür sayijiduγsan bügesü

K ken-ü ibegen-dür sayijiduγsan bügesü

T 1748 tan-u ibegen-dür sayijiraγsan bügesü

「その恩恵によって向上したのなら」

1312はトウルフエン出土文書中の断片で, 1312年刊行の旨の奥書がある『入菩提行論註釈』版本の行文, L 6 は International Academy of Indian Culture 所蔵の16~7世紀のものと推定される『入菩提行論』写本の行文, Kow は Kowalewskij 校訂の, T 1748 は蒙古大藏經タンジュール(1748年刊行)所蔵の『入菩提行論』の行文である。タンジュールのテキストはそれまでのものに改訂を加えたテキストと考えられているが, そこではもはや -jid- による動詞派生が行なわれていないことに注目されたい。この『入菩提行論』に見出

されるものと同じ形式が『普賢行願讃』50(b)でA～Dにおいて使用されている：

50 (b)

A /ene ber/<sup>1)</sup> jayaγan-dur /tede ber/<sup>2)</sup> sayijiduyu:.<sup>3)</sup>

「この趣においてかれらこそ向上するのだ」

1) I ene ber-e, K 731 tedeger kümün-ü ene 2) R, K 731 ø 3) 他は：

B kümün-ü jayaγan-dur tede sayitur irejü:

C ene ber jayaγan-dur tede sayijiduyu:.<sup>1)</sup>

D ene ču jayaγan-dur tede sayijiduyu:

E kümün-ü ene nasun-dur ber edeger sayitur ireyü:

F ene nasun degere ču tere sayitur iremüi:

1) PLB 142 ø

#### B. 新訳に関して

新訳のうちDは上で引いた11例の文例に限ってみても、(3)の数の一致、(6)の büged の小詞的な用法、(7)の -jid- による派生法に関しては旧訳と軌を一にしており、E Fとはやや異質であることが理解されよう。

Eは先古典期のおもかげをほとんど残さず、古典期蒙古文語の規範に比較的忠実であると言えるのに対し、Fは特に綴字の面で文語の規範を逸脱している例が若干ある。

上述の文例中では57(a)の kej(i)yebi, 11(b)の jiry(a)γulquyin 等がそれである。無論、単なる誤刻と見るのが妥当なものが多いが、何らかの音声学的な事実を反映したと見られるものもある。11(b)の tusalad がそれである。動詞 tusala- の分離副動詞形であるから、文語の規範にしたがうなら tusalaγad となるべきであるが、現代モンゴル語（ハルハ方言）の туслаад を参照するなら、tusalad は母音間の -γ-/-g- の脱落という事実を反映した形式と見ることが可能である。Fでは他に47(a)の kijar「境界」（Mo. kijaγar), 52(b)の ijuur (Mo. ijaγur「根源」, 55(a) batur「英雄」（Mo. baγatur) の形式が

現われる。この現象自体は中期蒙古語においてその萌芽が観察され、Fの開版された時期にはすでに完了していたと考えられるが、<sup>(40)</sup> 仏典類でこの現象を反映した形式が現われることは比較的まれといえる。

形態論の面でも旧訳とは明らかに異質の、より新しい時期の蒙古語の特徴を示す形式が新訳においていくつか観察できる。

上述50(b)のDFに現われる *ču* もその一つである。CDを比較すれば *ču* が *ber* と同義であることは容易に理解できよう。*ču* は古典期蒙古文語の時期になって初めて登場し、それ以前の形式 *ber* と並んで使用されるようになった形式である。<sup>(41)</sup> *ču* は特にFで頻出する。*ču* の用例はCのPLB 49, Dで各1例であるのに対し、Fでは奥書中の2例を含め計8例である。

この *ču* と密切な関係をもつ副動詞語尾が *-baču/ -bečü* である。これは過去の定動詞語尾 *\*-ba/ -be* に *\*ču* が接続したものにその起源を有し、古典期蒙古文語を特徴づける副動詞語尾である。<sup>(42)</sup> 54(b)のFにこの用例がある：

54 (b)

A *baribasü ba ungsibasü ba nekebesü* :

「理解するか誦唱するか開示するなら」

B *baribasü ba nomlabasü ba daki uribasü ba* :

C *baribasü ba +<sup>1)</sup> nomlabasü ba +<sup>1)</sup> uribasü ba<sup>2)</sup>* :

D *baribasü ba nomlabasü ba daki uribasü ber* :

E *bariqu kiged üjegülkü buyu uričü* :

F *bariqu ba üjügülkü ungsiqui-bar bolbaču* :

1) Mong 06.45 : 2) K 1144 *ber*

またこの文例中Eで *buyu* が *ba daki* 「～かあるいはまた」と同義であることは明白である。この形式の起源については疑問文における繫辞として使用され、「～であるのか」を意味する *buyu* との関連のあることが推定できる。いずれにせよ接続詞としての用法が確立されるのは比較的新しく、先古典期蒙古文語には繫辞としての *buyu* しか現われない。

以上、新旧両訳各種の言語的特徴的な形式を紹介した。特に旧訳においては、個々のテキストの具体的な開版、筆写の時期はさておいて、先古典期蒙古文語特有の形式がよく保存されている。これを根拠として旧訳各種の究極的な成立年代を14世紀に求めることは十分に可能であると考えたい。

#### 4. 今後の課題

小論では仮設的ではあるが各種テキストを新旧に大別した上でA～Fの6系統に分類した。今後の課題としては、この分類の可否をさらに検討しつつ、A～C、D～F相互の関係、さらには新旧両訳の関係を明らかにすることがあげられよう。ところがこの問題は単に『普賢行願讃』の蒙古語訳の文献学的な問題であるにとどまらず、実はより大きな問題に発展する可能性を秘めているのである。

蒙古語仏典はどのような経緯を経て今日見たかたちとなったのか、換言すれば、おそらくは蒙古語とは構造を異にしたであろう原典の言語と蒙古語との構造的な差異をいかに調節したのか、さらにそこには何らかの統一的な方針があったのか、またその方針は時代によりいかに変化していったのか等の問題は文化史的に興味深いだけでなく、言語学的な観点から見てもきわめて興味深い。これらの問題を追求していく過程において、蒙古語の構造上の特徴やその変化の歴史を未開拓の新しい視点からとらえなおす契機が提供される可能性が大きいからである。製作年代を異にする複数の異本をもつ蒙古語仏典はこの意味で多大の価値を有するといえる。現在よく知られたものとしては『金剛般若経』<sup>(43)</sup>や『宝徳蔵般若』<sup>(44)</sup>がその代表的な例である。ところがこれらとて異なる翻訳は各々3種にすぎないのであるから、7種のそれが存在する『普賢行願讃』は蒙古語仏典としては異例である。これは『普賢行願讃』がいかに蒙古人に親しまれたかを物語ると同時に、上記の諸問題を検討する好箇の資料となり得ることを示している。

それらの問題を検討するためにはまず『普賢行願讃』の異本A～F間の行文

の異同を詳細に見る必要がある。この予備的作業は完了していない。また、現在までに得た知見を細部にわたって述べる紙数の余裕もないが、いくつかの興味深い問題点が明らかになってきている。

異本の多さで知られ、つまりは広く流行したと考えられる仏典としては『入菩提行論』が最も著名である。1305年作とされる Chos kyi ḥod zer の訳そのものは伝わっていないが、1312年作の註釈書中に引用されている行文をはじめ、言わば旧訳にあたるものが6種あり、また19世紀作の2種の新訳もある。後二者は多分に翻案的な色彩が濃厚であるため、ここではとりあげない。旧訳だけをみても6種の異本が存在するという点で『入菩提行論』は『普賢行願讃』に匹敵しているかの観を与えるが、実はそうではない。一例として『入菩提行論』第9章の62(a)～(d)をとりあげる<sup>(45)</sup>。1312年刊行の註釈書中の行文は第10章の後半部のみであり、一方 M 480は第10章を欠くため、6種全部の行文がそろっている章句はないが、任意にとりあげたこの箇所のみを見ても『入菩提行論』の各テキストの性格は容易に理解できる。

I X-62(a)

- O S        tere бүгед öngge-yi medemü kemebesü.  
L 6        tere бүгед öngge-yi medemüi kemebesü.  
M 480      tere бүгед öngge-yi medemü kemebesü.  
T 1748    tere бүгед öngge-yi medemüi kemebesü.  
K        tere бүгед öngge-yi medemü kemebesü.

「それが色を知ると言うのなら」

(b)

- O S        tere чай-tur sonosqu ber yakin ügei.  
L 6        tere чай-tur sonosqu ber yakin ügei.  
M 480      tere чай-tur sonosqu ber yakin ügei.  
T 1748    tere чай-tur sonosqu ber yakin ügei.  
K        tere чай-tur sonosqu ber yakin ügei.

「その時に（同時に）聞くことがなぜないのか」

(c)

O S        ker be da<sub>7</sub>un oyir-a ügei-yin tulada kemebesü.

L 6        ker be da<sub>7</sub>un oyira ügeyin tulada kemebesü.

M 480      ker be da<sub>7</sub>un oyir-a ügei-yin tulada kemebesü.

T 1748    ker be da<sub>7</sub>un oyira ügei-yin tulada kemebesü.

K        ker be da<sub>7</sub>un oyir-a ügei-yin tulada kemebesü.

「もし声がないからだと言うのなら」

(d)

O S        tegüber tegünü bilig ber ügei.

L 6        tegüber tegün-ü bilig ber ügei.

M 480      tegüber tegünü bilig ber ügei.

T 1748    tegüber tegün-ü bilig ber ügei.

K        tegüber tegün-ü bilig ber ügei.

「そのため、その声の知覚もない」

これらの字句の異同は書記法上の方針の相違というレベルで処理できる。もちろんここに掲げなかった章句には単にそれにはとどまらず、訳語の選択の差異という観点から見る必要のあるものも若干は現われる。しかし、いずれにせよ言わば些細な違いであり、6種のテキストは結局は1305年作の Chos kyi hōd zer の翻訳に帰着させることができる。これらには『普賢行願讃』の場合でいうなら、例えばCに属する6種のテキストの字句の異同に相当するものでしかない。

一方『普賢行願讃』の蒙古語訳A～Fの各行文を比較対照してみると、その相違は、特にBCについては『入菩提行論』の場合と同様に書記法上の方針の相違として処理できるものも少くないが、全く性質を異にするものもかなりあることがただちに明らかとなる。いま一例として31(a)～(d)をとりあげる：

31 (a)

A    γurban čay-un<sup>1)</sup> qamuγ ilay-uγsad +<sup>2)</sup>

「三時の一切諸仏（すなわち）」

1) K 731 čaγ-tur iregsen 2) Mong 382, 3) K 731 ber :

B γurban čaγ-un qamuγ ilaγuγsad bügüdeger :

C = B :

D γurban čaγ-tur açıraγsan qamuγ ilaγuγsad bügüdeger :

E γurban čaγ-tur iregsen ilaγuγsad bügüde :

F γurban čaγ-tur ĵalaraγči ilaγuγsad bügüde :

(b)

A nom-un kürdün-i sayitur orčiγuluγsan :

「法輪をたくみに転じたるものである」

B nom-un kürdün-ü yosun-i sayitur orčiγuluγsan-iyar :

C olan jül nom-un kürdün-i orčiγuluγsan

D nom-un kürdün-ü yosun-i sayitur orčiγuluγsan :

E kürd-ün-ü yosun-nuγud-i sayitur erkigülügsen :

F kürdü-yin yosu-nuγud-i ču masi erkigülügči :

(c)

A teden-ü barasi ügei /ĵarilγ-un egesig-tür/<sup>1)</sup> anu<sup>2)</sup> +<sup>3)</sup>

「かれらの無尽の音声の一節一節にこそ」

1) I egesig-ün ĵarliγ 2) Mong 382 inu, K 731 ø 3) 他は :

B teden-i ber barasi ügei ĵarliγ daγun-dur anu :

C teden-e be :<sup>1)</sup> barasi ügei ĵarliγ daγun-dur anu :<sup>1)</sup>

D teden-ü barasi ügei ĵarliγ daγun-dur anu

E tedeger-ün barasi ügei ĵarliγ egesig-tür :

F tedeger-ün ĵarliγ inis baraγdasi ügei-dür :

1) PLB 142 ø

(d)

A oyun-u küčün-iyer biber<sup>1)</sup> ülemji oroldusuγai::

「知恵の力により私は次第に没入したい」

1) 他は bi ber

B oyun-u kücün-iyer bi ber maγad oroldusuγai::

C oyun-u kücün-iyer +<sup>1)</sup> /bi ber/<sup>2)</sup> maγad oroldusuγai::

D = C ::

E oyun-u kücün-iyer biber sayitur orosuγai::

F biber oyin-u kücün-iyer oγuγata oromui::

1) Mong 06.45 : 2) K 1144, PLB 49, Mong 06.45 biber

なお、一つの蒙古語仏典とこれに対応する梵語仏典、蔵語仏典との字句の異同に関する精密な比較対照は、蒙古語仏典の成立の経緯を考える上できわめて重要な価値をもつ作業と考えられるにもかかわらず、また蔵本が蒙古本の原典であるとの想定に基づく研究者が多いにもかかわらず、ほとんど行なわれていない。最大の理由としては梵、蔵、蒙のそれぞれにいくつもの異本があった場合、その相互のテキストの系譜関係が容易には決定し難いことがあげられよう。『普賢行願讃』の場合も梵本、蔵本に関する文献学上の諸問題は少なからずあると容易に想像し得るが、幸いにも泉1929には梵文の校訂テキストがあり、また蒙満蔵漢の四言語対照のテキスト（その蒙文が本稿の Mong 06. 45 である）の蔵文がある。もちろんこれらが現在見られる蒙古本各種の底本となったと考えることは安直にすぎよう。しかし、前述の諸問題を考察する過程で、あるいはこれに至る予備的作業の段階で直面する問題のいくつかは、梵本、蔵本あるいは漢訳を参照することで、その性格が把握できる。その意味で、敢えて以下にこれに対応する梵文、蔵文および漢訳を掲げる。<sup>(46)</sup>

teṣu ca akṣaya-ghoṣa-ruteṣu  
sarva-triyadhva-gatāna jinānām  
cakra-nayaṃ parivartaya-māno  
buddhi-balena ahaṃ praviśeyam



dus gsum gshegs pa hi rgyal ba thams cad dag  
 ḥkhor lo hi tshul rnam rab tu bskor ba yis  
 de dag gi yang gsung dbyangs mi zad la  
 blo yi stobs kyis bdag kyang rab tu ḥjug

於彼無尽音声中

一切三也諸如來

常轉理趣妙輪時

於我慧力普能入

A～Fの字句の相違は単なる書記法上のもものでは到底あり得ず、また訳語の選択というレベルですらとらえられないものであることは一見して明白であろう。そのいくつかを逐条的に列挙する。

(1) (a)ではAの *γurban čaγ-un*, Dの *γurban čaγ-tur ačiraγ-san*, Eの *γurban čaγ-tur iregsen*, Fの *γurban čaγ-tur jal(a)r(a)γči* は全て梵 *triya dhvagaṭāna*, 藏 *dus gsum gshegs pa* に相当する。D～Fは梵 *gaṭāna*, 藏 *gshegs pa hi* にあたる部分を、D *ačiraγ-san* のように正確に訳出しており、要はその訳語の選択の相違と見なし得るのに対して、A～Cはこれに相当する部分が完全に欠落し、むしろ漢訳に平行するかのような印象を与える。またこの「三世」に相当する表現は他に 1(b), 41(a), 56(a)でも見られるが、梵、藏は全て共通の字句であるにもかかわらず、A～Fの各々の内部においてもその訳語は必ずしも一定していない。試みに *γurban čaγ-un* をタイプⅠ, *γurban čaγ-tur ačira-* をⅡ, *γurban čaγ-tur ire-* をⅢ, *γurban čaγ-tur jalara-* をⅣとし、A～Fがこの4句においてどのタイプの形式を使用しているかを表示する。

	1 (b)	31(a)	41(a)	56(a)
A	I	I	I	I
B	I	I	I	II
C	I	I	I	II
D	I	III	I	II
E	II	III	III	III
F	IV	IV	IV	IV

一貫して同一の形式を使用しているA Fを除いたものの中では、どのような原理に基づき I ~ III の3種の形式が使い分けられているのかは今のところ明らかではない。また、A Fにしても、この例のように梵語、蔵語の形式が一對一で対応している場合はむしろ例外的である。

(2) やはり(a)についてAの *qamuγ*, EF の *bügüde* は梵語 *sarva*, 蔵語 *thams cad* に相当しており、この相違は訳語の選択というレベルでとらえることが可能であるが、B~Dで *qamuγ* と *bügüdeger* が共存していることは梵文や蔵文にてらして説明することはできない。

(3) (b)の *kürdün*, *kürd-ün*, *kürdü* はいずれも梵語 *cakra*, 蔵語 *ḥkor lo* に相当するものであるが、A~Dに見られる *nom-un* は梵、蔵文のいずれにも見出せない。「(法) 輪」に相当する形式はこのほか10(d), 35(b), 53(c)にも見られ梵語、蔵語の形式は一定しているのに対し、*nom-un* の有無は必ずしも一定ではない。試みに *nom-un* を有する場合を+、有さない場合を-としてその状況を表示する。

A Eでは *nom-un* の有無は一貫しているが、他のものではどのような原理に基づいてその有無が決定できるのかは今のところ明らかではない。

(4) B, D~Fでは*kürdün*, *kürd-ün*, *kürdü* に後続して *yosun* ~ *yosun* が現われる。これは梵語 *nayaṃ*, 蔵語 *tshul* に相当するが、A Cにはこれに対応するものがない。

	10(d)	31(b)	35(b)	53(c)
A	+	+	+	+
B	+	+	—	—
C	+	+	—	+
D	+	+	—	+
E	—	—	—	—
F	+	—	+	+

(5) また蔵本では *tshul rnam*s で「理趣」が複数であることを示しているが、これに平行しているのはE FのみでB Dでは単数形の *yosun* が使用されている。ここでは詳述しないが、一般に蒙古本における複数形を示す語尾の出入は梵、蔵本における単複の区別とは平行しない場合が多い。

(6) (b)のA B, D Eに見られる *sayitur* あるいはFの *masi* は蔵語 *rab-tu* に対応するもので、これらは梵語の接頭辞 *vi-*, *pari-*, *pra-* の訳語であり、文の実質的な意味にはあまり関わりをもたない。Cはこれを欠く点で特異である。

蔵語 *rab tu* は(d)にも現われるが、これに対応する蒙古語の形式は A *ülemji*, B~D *maṛad*, F *oṛoṛata* でE以外は(b)とは一貫しない。

ちなみに(b)の *sayitur*, *masi* は梵語の接頭辞 *pari-* に、(d)の *ülemji*, *maṛad*, *oṛoṛata*, *sayitur* は同じく *pra-* に対応すると見てよい。むしろ梵語形式との対応関係がこれらの形式の分布を決定しているという可能性もありそうだが、これもないと見てよい。例えば *pra-* については32(b)にも *aḥaṃ pravīṣeyam* という31(d)と全く同一の形式が現われる。蔵本は31(d)と異なり *bdag kyang hjug par bgyi* と *pra-*を訳出しないが、蒙古本はこれと完全に平行して *sayitur* 等の形式を一切使用していない。したがって、*sayitur* をはじめとする一連の形式の分布、あるいは有無そのものは梵本、蔵本のいずれを参照しても一義的に決定することは必ずしも容易ではないと考えられる。

(7) *ču* は *ber* とともに蔵語 *yang* に、*anu* は *inu* とともに蔵語 *ni* に相当する傾向があるが、(b)ではFの *ču*, (c)ではA~Dの句末の *anu* はどちらも

梵本、藏本のいずれにも対応する形式が見出せない。

(8) 語順に関して言うなら、(c)ではFの *baraḡdasi ügei-dür* のみが藏本の *mi zad la* と平行し、逆に言えば蒙古語本来の語順を崩していると見てよい。一方(d)ではF以外は全て *bi ber* は *küün-iyer* に後続し、これは藏本の語順と平行しているのに、Fのみ *biber* が語頭に立っている。

以上はこの31(a)～(d)において看取できる問題の全てではなく、言わば任意に取り上げたものにすぎないが、これだけを見てもA～F間の字句の異同がはらむ問題がいかに複雑であるかが理解できるはずである。語順の問題は別にして、総体としての蒙古本と藏本（あるいは梵本）の間の形式の対応関係のみを見るにしても、1対1、1対ゼロ、ゼロ対1、1対多、多対1、多対多と種々の可能性をはらんでいる。また、A～Fの内部においても一定の蔵語あるいは梵語の形式に常に一定の蒙古語形式が対応しているわけでもない。

これらの異同は部分的には、例えばDはCの行文に依拠し一部を改めたというような相互の依存関係を設定することあるいは説明可能かも知れない。しかしそれだけで全てが解決できるとは考えられない。

筆者はさらに、二つの方向からこの問題を考えることができると思う。

一つは蒙古語訳の性格に関わるものである。従来仏典の蒙古語訳は蔵語原典の機械的な逐語訳と見なされてきた。その代表的な見解は Poppe 1971 の Introduction pp. 5～7に見られる。Poppe の論じた『金剛般若経』と、ここで論じる『普賢行願讃』は散文と讃頌という点で少なくとも原典の言語の性格を異にしていることは事実としては認めなければならないし、その差異が訳文の蒙古語にも反映している可能性はあり得る。しかし、Poppe のいう「逐語訳」(verbatim translation) が、仏典の古典西藏語訳のように一定の対応規則を適用すれば、機械的に還梵が可能であるという類の逐語訳を意味したものとするなら、『普賢行願讃』に関する限り筆者は Poppe の見解には与し難い。たしかに、仏教用語の中にはそのままでは蒙古語としては理解しにくいものもある。しかし、行文全体を見ればA～Fのいずれにおいても程度の差こそあれ、

それなりの翻訳技法上の工夫が観察できる。前述の例でいうなら、(3)の *nom-un* の有無、(4)の単複両形の使い分け、(7)の *ču*, *anu* 等の小詞の有無、(8)の語順の相違等は、それぞれの相違に対応した形式上の差異をもつ、現在は未発見の原典の存在——存在するとすればその数は莫大なものになるはずである——を想定するよりは、むしろ種々の翻訳技法が駆使された結果と見なすべきだと考えたい。その詳細を見定めること、さらに時代や地域等にかかわる差違を明らかにすることが今後の研究の課題となろう。

いま一つは原典の複数性である。上述の蒙古語訳の性格を考慮にいたにしても、蒙古語の形式と蔵語もしくは梵語の形式との対応関係の全てを説明することは不可能である。(1)のAの *γurban čay-un* は現状では漢訳を参照することではじめて説明できるし、また(2)の *yosun* の有無は意味内容に大きく関わるだけに、単に翻訳の方針の相違に由来を求めるよりも依拠した原典の相違に由来を求める方が自然であろう。

換言すればA～F間の字句の異同は、原典が複数であったと想定することで はじめて説明できる部分がかなりあると考えたい。この場合複数性とは蔵本なら蔵本の内部で複数の原典が存在したことのみを意味するものではない。筆者は少なくとも旧訳に関する限りは、蒙古本は単に蔵本にのみ依拠したものとは考えない。たしかに16世紀以降のいわゆる第二次仏教導入期にあっては、蒙古における仏典の翻訳事業についてはその原典を蔵本に求めることも諸般の歴史的事情から見ても肯けるものではある。しかし、それが14世紀においてもそのままではまるとは考えにくい。『普賢行願讃』の旧訳はその言語面での諸特徴から見て14世紀のものと推定できる。この時期における仏典の翻訳事業の詳細は不明であるが、単に蔵本にのみ依拠した可能性は少ないと見てよいだろう。<sup>(47)</sup> 例えば(1)の *A γurban čay-un* は現状では漢語を参照してはじめて説明できる形式であること等は、種々の条件をつける必要はあるにせよ、その証左となり得るかも知れない。筆者は梵蔵漢さらにはこれら以外の言語によるものを含め、複数の典拠に基づきつつ蒙古語訳が製作されたと想定する方が、今後の研究の

より有効な指針となると考える。

A～F間の字句の異同をとらえ得る三つの視点を述べた。残念ながら個々の異同がこの三者のうちのいずれからとらえ得るかについては現状では詳述できない。三つの可能性が分かち難く一体化した事例も少なからずあることも想像できる。全ては今後の研究にまつほかないが、それが進むべき方向は提示し得たと考えている。

註

- (1) 引用は泉1929, pp. 372～3。
- (2) 泉1929, pp. 372～4, 山田1959, pp. 91～2を参照。
- (3) 泉1929, pp. 375～8を参照。
- (4) 山田1959, p. 194を参照。
- (5) Haenisch 1959 の p. 18にTM8, p. 21 にTII T662 の写真が掲載されている。両断片は Altangerel, Cerensodnom 両氏によって『普賢行願讃』の一部であることが明らかにされた。Altangerel, Cerensodnom 1967を参照。
- (6) Heissig-Bawden 1971, p. 244を参照。
- (7) 同文庫には Tabun irüger-ün sudur (五つの願讃の経) という題名の貝葉型の写本 (9.2 cm×24.2cm) が収められている22葉45面から成り各面18～9行の行文をもつこの写本には単行の六種の願讃が収録されているが、これは実はより大部の写本の一部であると推定できる。この写本の冒頭第1面には34という通し番号で帳数が示されており、一方同文庫にはこれと同一の筆跡による336を最終面とする写本が収められているからである。収録されている仏典は次の通りである。
  - 1) Čoytu čindan sudur (聖梅檀經)〔1～7b〕
  - 2) Kilinče namančilaqui (断煩惱)〔8a～9b〕(表題はなく欄外にこの名が記されている)
  - 3) Qamuγ nigül-nügüd-i namančilaqui neretü sudur (一切の罪を断つという名の経)〔10a～21b〕表題は Altan kijaγayur-un sudur (黄金の刃の経)
  - 4) Ĵayuratu qabčayai-ača tonilyaγči sudur (深き谷間より救い出す経)〔22a～33b〕これ以降がTabun irüger-ün sudur である。
  - 5) Sayin yabudal-un irüger-ün qaγan (普賢行願王)〔34a～45a〕これ以後は表題がなくいずれも欄外に経名を記してある。
  - 6) Mayidari-yin irüger (弥勒願讃)〔45b～49a〕
  - 7) Buyan-u irüger (功德願讃)〔49b～54a〕
  - 8) Niyuča-yin irüger (秘密願讃)〔55a～61a〕
  - 9) Sükeveti-yin irüger (極樂願讃)〔62b～71b〕
  - 10) Abida-yin irüger (阿弥陀願讃)〔72a～75a〕

このうち5)が『普賢行願讃』である。

巻末には奥書があり、そこではこの写本全体をさして Arban ekitü kölgen sudur (十根源乗経)とよんでいる。qar-a taulai jil (壬卯の年)に書写された旨が記されているが、これが西暦の何年にあたるかは特定できない。また、訳者が書写に関係した人物の名もあげられていない。

奥書は75b9行目から始まる。

Arban ekitü kölgen sudur-i: qara taulai jil-un jün-ü terigün sara-yin babai(?)-yin ğurban doluğan-u eki arban-a ekilen: ğurban doluğan-u segül arban dörben-e bičijü tegüsbei :: : ::

未詳の語や表現はあるが、大意は『十根源乗経』を壬卯の年の夏の初めの月の10日に始め14日に書き終えた旨であると推定できる。この壬卯の年は不詳である。

なお、いわゆる『五種願讃』は Qutuğ-tu sayin yabudal-un irügel-ün qağan (『普賢行願讃』), Mayidari-yin irüger (『仏説弥勒菩薩發願王偈』), Čary-a avatara-yin irüger, Terigün dumda ečüs ğurban-u irüger, Sukavati-yin irüger の五種の願讃(順序は不同)から構成されるもので、ここでふれたものとは構成を異にしている。

- (8) Heissig 1964, p.86 を参照。この写本は Irügel-ün qağan (『願王』)という表題をもつが、内容は『五種願讃』であり、註(7)で紹介した5種の願讃を収めている。奥書には製作年月日の記載はないが、Heissig は16~17世紀と推定している。
- (9) Heissig 1962, pp. 20~21, Snellgrove & Bawden 1969, p. 96, No. 1922 の記述を参照。
- (10) K731と K1144は単行の仏典として各々「秘密経」の部第24巻(通巻第24巻) 332r~336v, 「律師戒行経」の部第16巻(通巻第59巻) 279r~302r に収められている。K848は華嚴経の最終巻である「華嚴経」の部第6巻(通巻第108巻) 250r~254r に収められている。いずれにも奥書はない。
- (11) Lokesh Chandra 1979, pp. 404~416。なおこの版本に採られた漢訳は不空訳である。
- (12) Heissig 1954, pp. 131~2を参照。
- (13) Heissig 1954, p. 157を参照。
- (14) Heissig 1954, pp. 22~3を参照。
- (15) Heissig 1954, p. 58 を参照。
- (16) Heissig 1954, p. 61 を参照。
- (17) Heissig 1954, pp. 44~7 を参照。
- (18) Heissig 1954, p. 22 を参照。
- (19) Heissig 1954, p. 44 を参照。
- (20) Heissig 1954, pp. 55~8 を参照。
- (21) Heissig 1954, p. 139 を参照。
- (22) Poppe, Hurvitz, Okada 1964, pp. 62~64 を参照。
- (23) Poppe, Hurvitz, Okada 1964, pp. 79~86 を参照。なお Heissig は PLB 60 ğirüken-ü tolta sudur orusiba と内容的に重複する部分のあることを指摘している。Heissig 1964, pp. 54~63を参照。
- (24) Poppe, Hurvitz, Okada 1964, pp. 96~101 を参照。なお Heissig はこれと PLB85 Blama-yin takil-un ğang üile sayin čiyulğan-u rasiyan qural-i bağulğačĳi kemegdeki orusiba が内容的に重複する部分の多いことを指摘している。Heissig 1964, pp. 54~63 を参

照。

- (25) この形式はきわめてまれなもので、行文の相対的な年代決定に十分貢献し得る。詳しくは後述3のA(8)を参照。
- (26) 一部の外来語の表記には各々のテキストの特徴が現われている。例えば梵語 bodhi「菩提」、bodhisattva「菩薩」に対して、I, R, Mong 382, PLB 72, 142, 183, Mong 06. 45 では各々 bodi, bodisdv といわばウィグル的な表記を採っているのに対し、K731, 848, 1144, PLB49では各々 bovadhi, bovadhi saduva という表記を採っている。しかしこのような傾向は全ての外来語に共通しているわけではなく、そこに何らかの体系性を見出すことは困難である。また個別的には若干の興味深い事例もあるが、それらについては第二部の註でとりあげる。
- (27) 樋口1980, pp.186~7 を参照。
- (28) 以下の引用は全て第二部で採った方式に基づく。個々のテキストの行文における問題点については第二部の註を参照されたい。
- (29) Poppe 1955, pp. 200~1 を参照。
- (30) 樋口 1980, p. 192 を参照。
- (31) 樋口 1980, pp. 191~2 を参照。
- (32) 樋口 1980, p. 193 を参照。
- (33) -d- は動詞語幹 tüled- の一部であるから、EF の tüledkün はこの語尾を含んだ形式と認定できるか否かは疑問である。ただし haplology の可能性もある。さらに検討したい。
- (34) 樋口 1980, pp. 196~7 を参照。
- (35) 樋口 1980, pp. 197~8 を参照。
- (36) Lessing 1982, pp. 1185~6 を参照。
- (37) 小沢 1984, pp. 103~4, Bosson 1969, p. 25 を参照。
- (38) 小詞的な büged の用例はさておいて、このように格語尾をしたがえた用例は報告されていないようである。管見の及ぶ限りではこの用例は仏典にのみ観察できる。『普賢行願讃』とともに『五種願讃』に収録されている『仏説弥勒菩薩發願王偈』のテキストのうち 言わば旧訳にあたるものの中に1例ある。さらにいまカンジュールの Eldeb (『諸品経』) の部に収録されているものから任意にとりあげてみると、『解深密経』(K 861) に1例、『悲華経』(K 866) に2例、『般舟三昧経』(K890) に3例、さらに『法華経』(K868) に至っては90例が確認でき、必ずしもまれとは言い得ない。『法華経』における büged の用例については、第23回野尻湖クリルタイにおいてその意味する問題のいくつかを指摘した。別稿にて詳述する予定である。
- (39) 樋口 1980, pp.198~9, 樋口 1987, pp. 013~5を参照。
- (39) Cleaves 1954, p. 117 の註293を参照。なお疑問詞 ken はここでは文殊師利を修飾する一種の関係代名詞として機能している。また行文は Heissig 1976, p. 235 の字句の異同の図表に基づいて再構成したものである。
- (40) この現象についてはPoppe 1955, pp. 59~73 を参照。
- (41) 樋口 1987, pp. 018~9 を参照。
- (42) 樋口 1980, p. 190, 樋口 1987, pp.018~9を参照。
- (43) Poppe 1971 にはオイラト語訳を含む3種の校訂テキストを掲載する。他に Sárközi 1972 がとりあげた Toyin Guuši 訳のテキストもある。以下の議論にはオイラト語訳を含めない。



- (44) 樋口 1987, pp. 01~5 を参照。
- (45) OS~K は Heissig 1976 で採られた略称である。行文はHeissig 1964, p. 128 から引用。  
訳文は拙訳。
- (46) 漢訳はMong 06. 45 とともに掲げられている不空訳のものである。
- (47) 13~4 世紀における仏典の蒙古語訳の事業については、金岡 1980, pp. 152~69において概観されている。

## 第 二 部

以下に各テキストの行文を紹介する。

A～Fの分類は第一部で述べたものに基づく。

これらのうちAは石浜写本，Cは PLB 72，EはT97/100を底本とする。各々，文脈から見て誤記，誤刻あるいは脱落と断言し得る箇所は他のものの形式によって補っている。

各行文中の：は dabqur čeg，::は dörbeljin čeg，・は čeg をさす。なお Mong 06. 45 は一貫して čeg と dabqur čeg（各々他本の dabqur čeg，dörbeljin čeg に相当する）のみを使用しているが，機能上の平行性に着目し，以下では各々を：と::に置き換えてある。

語句の異同は各句毎に註記する。行文中の+は，この箇所には底本には何もないが，異本には何らかの形式が存在する箇所を示す。註の中の∅はこの異本には底本の当該形式が存在しないことを示す。

各句の逐語訳は無用の重複を避けるためAにのみ与え，B以下の各本でAと大きく表現が異なり訳文にかなりの差異が生じる場合には特に註記する。

別に各頌ごとに総訳を付し，蒙古語の行文の解釈として許容できる範囲で自由訳を試みる。また参考のため不空訳の訳文を添える。

なお註は，煩雑を避けるため頌単位で一括して与える。註の中で梵本，藏本とあるのは各々泉 1929 所載の 梵文校訂テキスト，Multi Lingual Buddhist Text 1 所収の四言語合璧本の 藏文テキスト（この蒙古語テキストが Mong 06. 45である）の謂である。もとより，あくまでも一つの参考としてこれらに言及するものである。

転写の方式は一つの便法として，原則的に Poppe-Mostaert のものに依る。ただし，文字 daleth の語中形で母音間の td を表記している場合は各々 td によって転写する。また，独立形式の語頭に文字 daleth の語頭形を使用して d を表記している場合には d によって転写する。

なお梵語、西藏語の表記、特に題名の表記については、ギリック字を一切使用せず蒙古文字のみを使用するテキストと、ギリック字を全面的にもしくは部分的に使用するテキストとがある。後者、特にギリック字と蒙古文字を混用した表記をいかに転写するかは問題で、Poppe は全て 蒙古文字と見なし転写し(例えばギリック字の o は ova と転写する), Ligeti のカンジュールのカタログではこの表記から想定される梵語、西藏語を再現する方針をとる等、一定の依るべき明確な方針は確立されていない。ギリック字の使用が不徹底な上に不正確であることが最大な原因である。本稿では、特に題名の表記に限ってはギリック字による表記と見なし得るものについては下線を付し、もとの梵語、西藏語の体系にしたがって転写し、不正確なものもそのまま再現する。したがって、例えば同じく o で転写しても、もとの字形は下線の有無に応じて異なる。一方、行文中で蒙古文字と混用されているギリック字のうち蒙古文字と見なし得るものは蒙古文字として転写する。例えば梵語 bodhi のギリック字による表記は bovadhi と転写する。なお不統一とのそしりは免れ難いが、一つの便法である。

A /namo bubay-a :: namo darmay-a :: namo sanggay-a ::/<sup>1)</sup>

南無仏

南無法

南無僧

1) R namova buddha-y-a :: namova dharmay-a :: namaḥ sangghay-a ::

K731 namova buddhay-a :: namova dharmay-a :: namaḥ sangghay-a ::

B namova buddhay-a :: namova dharmay-a :: namaḥ sangghay-a ::

C namova buddhay-a :: namova dharmay-a :: namaḥ<sup>1)</sup> sangghay-a ::

D = B :: B :: B ::

E = B :: B :: B ::

F namova buddha-a ya :: namova dharmay-a ya :: namaḥ sanggha-a ya ::

1) PLB 183 namo

A enedkeg-ün<sup>1)</sup> keleber : /ariy-a badr-a čary-a brani raja :/<sup>2)</sup>

印度の言葉で Ārya-bhadra-carya-praṇidhāna-rāja

1) R hindkeg-ün 2) R ariy-a bada čaray-a brani dan-a raja :, K 731  
a-a ry-a bhadra ca-a ry-a brani dha-a na ra-a ja ::

B enedkeg-ün keleber : a-a ry-a badr-a cary-a brani dan-a raaja :

C enedkeg-ün keleber : /ariy-a badir-a cariy-a brani dan-a raaja ::/<sup>1)</sup>

D enedkeg-ün keleber : ary-a bhadra cary-a phr-a nai dha-a na  
ra-a ja :

E enedkeg-ün keleber : a-a ry-a bha dr-a ca ry-a pr-a ni dhaa  
na raa ja :

F enedkeg-ün keleber : a-a ry-a bhadra ca-a ry-a brani dha-a na  
ra-a ja :

1) K 1144 aa ry-a badr-a cary-a brani dhaana raa jaa ::, PLB 49 aa  
ry-a bha dr-a cagry-a (sic) pr-a ni dhaa na raa ja ::, PLB 142 ariy-a  
badir-a cariy-a brani dan-a raja ::, PLB 183 ariy-a badir-a čariy-a  
brani dar-a (sic) rajia ::, Mong 06. 45 ariy-a badr-a cariy-a brani dan-a  
raaja :

A töbed-ün keleber : /bagsba bsangbo bcodbai smon lam ci ircularbo ::/<sup>1)</sup>

西藏の言葉で hphags pa bzang po spyod paḥi smon lam gyi rgyal po

1) R bagsba bsang bo isbodbai ismolam yi ircularbo :

K 731 hphagspa bzang po sbyod pai smon lam gyi rgyal po :

B töbed-ün keleber : hbagsba zangbo spyodbi smonlam gyi  
rgyalbo :

C töbed-ün keleber : /hbagsba bjangpho sbyodbai smon lams  
gyi rgyalbo ::/<sup>1)</sup>

D töbed-ün keleber : hpagspa bzangbo spyod bat smon lam gyi  
rgyal po ::

E töbed-ün keleber : hphags pa bjang po spyod pa smon lam gyi rgyal po ::

F töbed-ün keleber : gpagsba bzangbo spyodba smoam (sic) gyi rgyal bo :

1) K1144 hphagspa bjangpo spyod bai smolam gyi rgyalpo ::, PLB 49 phagspa bzang po spyod ba smon lam gyi rgyal po ::, PLB 142 basba bsangbo sjodbai smon lam gyi rjal bo ::, PLB 183 pagsba bzangbo sbyodbai smon lam gyi rgyalbo ::, Mong 06.45 baṅba sangbo jodbai : molamgi jalbo :

A /mongṣol-un keleber/<sup>1)</sup> :<sup>2)</sup> qutuṭ-tu sayin yabudal-un :<sup>3)</sup> irüger-ün qaṅan +<sup>3)</sup>

蒙古の言葉で「聖なる普賢行の、願の王」

1) R, K 731 mongṣolcilabasu 2) R ø 3) R, K 731 ø 4) R : , K 731 ::

B mongṣolcilabasu : qutuṭ-tu sayin yabudal-un irüger-ün qaṅan neretü :

C mongṣol-un keleber : qutuṭ-tu sayin yabudal-un irüger-ün<sup>1)</sup> qaṅan :<sup>2)</sup>

D mongṣol-un keleber : qutuṭ-tu sayin yabudal-un irüger-ün qaṅan :

E mongṣol-un keleber : qutuṭ-tu sayin yabudal-un irügel-ün qaṅan :

F mongṣol-un keleber : qutuṭ-tu sayin yabudal-tu irügel-ün qan ::

1) Mong 06.45 irügel-ün 2) PLB 183 ::

A ori boluṣsan qutuṭ-tu jalaṭu manjusiri-dur<sup>1)</sup> mörgümü ::

無二の聖なる童子文殊師利に敬礼する。

1) K 731 mañjuśri-dur

B qutuṭ-tu ori boluṣsan mañjuśri-dur mörgümü ::

C ori boluṣsan manjusiri-dur<sup>1)</sup> mörgümü bi<sup>2)</sup> ::<sup>3)</sup>

D qutuṭ-tu ori boluṣsan mañjuśri-dur mörgümü bi ::

E qutuγtu jalaγu boluγsan mañjušrīi-dur mörgümü :

F ori mañjusiri qutuγ-tu-dur mörgümü ::

1) K 1144, PLB 49 mañjušrī-dur, PLB 183, Mong 06.45 man-  
juširi-dur, 2) K 1144, Mong 06.45 ø 3) Mong 06.45 :

1 (a)

A kedüi бүкүй алиба<sup>1)</sup> arban жүг-үн yirtinčü-dür

およそありとあらゆる十方の世間において

1) R, K 731 ali ba

B ked ba kedüi бүкүн arban жүг-үн yirtinčü-dür :

C = B :

D ked ba kedüi бүкүн arban жүг-үн yertinčü-dür :

E kedbe kedüi бүкү arban жүг-үн yirtinčü-dür :

F kedbe kedüi arban жүг-үн yirtinčüs-үн oron-a :

cf. THIT 662 kedüi бүкүн arban жүг-үн.....

(b)

A γurban čaγ-un sayibar oduγsan kümün-ü arslan-nuγud<sup>1)</sup> :

三世の善逝, 人の獅子ら,

1) K 731 arslan-nuγud-i

B γurban čaγ-un kümün-ü arslan sayibar oduγsan-i :

C γurban čaγ-un kümün-ü arslan sayibar oduγsan :<sup>1)</sup>

D = C :

E γurban čaγ-tur açaraγsan kümün-ü arslan бүкүн :

F γurban čaγ-tur jalaraqui qamuγ burqan baγsi-nar :

1) K1144, Mong 06.45 ø

cf. THIT662 γurban čaγ-un kümün.....oduγsad

(c)

A biber<sup>1)</sup> qoçurli ügei tede бүгүдөдүр<sup>2)</sup> :

私は余すところなくかれら全てに対して,

1) 他は bi ber 2) 他は бүгүдө-дүр

B qoçurli ügei tede бүгүдө-дүр bi :

C +<sup>1)</sup> qoçurli ügei tede ele бүгүдө-дүр +<sup>2)</sup> bi :<sup>3)</sup>

D = B

E qoçurli<sup>3)</sup> ügei tede бүгүдө-дүр bi :

F qoçurli ügei tende ele бүгүдө-дүр inu bi :

1) K 1144 бүгүдө-дүр 2) K1144: 3) K1144, PLB 183, Mong

06.45 0 3) PLB 66 qoçurli-i

cf. TIIT662 qoçurli ügei.....бүгүдө-дүр bi

(d)

A bey-e kelen sedkil-iyer bisiren mörgümü ::

身体, 言語, 心によって崇め敬礼する。

B = A ::

C = A ::

D = A ::

E = A ::

F bey-e kelen sedkiliyer süsülüged mörgümü :

cf. TIIT662 bey-.....büsiren sögüdümü

「ありとあらゆる十方の世界において, 私は過去, 現在, 未来の善逝であり, 人中の獅子たる諸仏全てに対して余すところなく, 身体, 言語, 精神を通じて崇め敬礼する。」

不空訳 所有十方世界中 一切三世人師子

我今礼彼尽無余 皆以清淨身口意

2(a)

A sayin yabudal-un irüger-ün küçün-iyer :

良き行いの請願の力によって,

B sayin yabudal-un irüger-ün küçün-nügüd-iyer :

C = sayin yabudal-un<sup>1)</sup> irüger-ün küčün-iyer :

D = A :

E = A :

F bodisadu-yin irügel-ün küčün-nügüd-iyer bi :

1) PLB 72 yabudal

(b)

A qamuγ ilaγuγsad-i sedkil-ün ilete<sup>1)</sup> bolγaju :

一切諸仏を心の只中にあらしめて,

1) K731 ilede

B qamuγ ilaγuγsad-ta sedkil-ün ilede bolγaju :

C qamuγ ilaγuγsad-i sedkil-ün ilete<sup>1)</sup> bolγaju :

D = C :

E qamuγ ilaγuγsad-i sedkil-iyer ilete bolγaju :

F ilaγuγsad bügüde-yi sedkildegen iledden :

1) K 1144 ile, PLB 49 ilede

(c)

A ulusun<sup>1)</sup> toγosun-u toγ-a-bar :<sup>2)</sup> beyeben<sup>3)</sup> ülemji bököyiged +<sup>4)</sup>

刹土の塵の数だけ、己が身体を大いに折り曲げて

1) R ulus-un, K 731 orod-un 2) 他は ø 3) 他は bey-e-ben 4) 他は :

B oron-u toγosun toγ-a-bar bey-e-ben bököyiged :

C ulus-un<sup>1)</sup> toγosun-u toγabar<sup>2)</sup> beyeben<sup>3)</sup> +<sup>4)</sup> bökeyiged<sup>5)</sup> +<sup>6)</sup>

D orod-un toγosun-u toγabar bey-e-ben sayitur bököyiged :

E orod-un toγosun-u toγ-a-bar bey-e-ben sayitur bököyiged :

F orod-taki toγosun-u toγ-a kürküi beyeben : sayitur bököyin

1) K 1144 orod-un 2) Mong 06.45 toγobar, 他は toγ-a-bar

3) K 1144, PLB142 bey-e-ben, 4) K1144, Mong 06.45 sayitur

5) PLB 49, 142, 183 bököyiged 6) Mong 06.45 を除き :

(d)



A qamuγ ilaγuγsad-i<sup>1)</sup> masida mörgümü ::

一切諸仏を大いに敬礼する。

1) R ilaγuγsad-a, K 731 ilaγuγsad-ta

B qamuγ ilaγuγsad-ta masida mörgümü ::

C qamuγ ilaγuγsad-a<sup>1)</sup> masida mörgümü ::

D = C ::

E = C ::

F ilaγuγsad bögüde-de mörgümü :

1) K 1144, PLB 142, 183, Mong 06.45 ilaγuγsad-ta

「普賢行の願力により、一切諸仏と我が心中にて対面し、刹土の塵の数にも等しい無限の回数だけ、身体を大いに折り曲げて、一切諸仏に大いに敬礼する。」

不空訳 身如刹土微塵数 一切如来我悉礼

我以心意対諸仏 以此普賢行願力

3 (a)

A nigen toγosun-u deger-e toγosun-u<sup>1)</sup> toγ-a-bar<sup>2)</sup> burqan-nuγud :<sup>3)</sup>

一塵の上に塵の数だけ諸仏が、

1) I ø 2) R toγobar 3) K 731 ø

B nigen toγosun-u deger-e toγosun-u toγ-a-bar burqan-nuγud :

C nigen toγosun-u deger-e toγosun-u toγabar<sup>1)</sup> :<sup>2)</sup> burqan-nuγud +<sup>3)</sup>

D nigen toγosun-u deger-e toγosun-u toγ-a-bar : burqan-nuγud

E nigen toγosun-u degere toγosun-u toγ-a-bar : burqan-nuγud

F nige nige toγosun-dur toγosun-u toγatan : burqan-nuγud

1) K 1144, PLB 49, 142 toγ-a-bar 2) K 1144 ø 3) K 1144 :

(b)

A bodisdv-nar-un<sup>1)</sup> dumda saγuγsad ba :

菩薩の只中に坐していること、

1) K 731 bovadhi saduva-nar-un

B bovadhi saduva-nar-un dumda saγuγu bükün :

- C bodisdv-narun<sup>1)</sup> dumda saγuγu бүкүн :<sup>2)</sup>
- D bovadhi saduva-nar-un dumda saγuγu бүкүн :
- E bodisadu-a-narun<sup>3)</sup> dumda saγuγsan-nuγud :
- F bodisadu-yin dumda inu saγuγsad :

1) K 1144, PLB 49 bovadhi saduva-nar-un, PLB 142, 183 bodisdv-nar-un, Mong 06.45 bodi sadu-nar-un 2) PLB 183 ø 3) PLB 66 bodisadu-a-nar-un

(c)

A tere metü nom-un činar-nuγud qočurli ügegüi-e :

そのように法の本性が余すところなく,

- B tere metü nom-un ile činar бүгүде qočurli ügegüi-e :
- C teyimü nom-un<sup>1)</sup> ele činar бүгүде qočurli ügegüi-e +<sup>2)</sup>
- D tere metü nom-nu činar-nuγud-i qočurli ügegüi-e :
- E tere metü nom-un töb-nuγud-i<sup>3)</sup> qočurli ügegüi-e :
- F tere metü nom-un činar qočurliügei

1) Mong 06.45 nom 2) 他は : 3) PLB 66 töb-nügüd-i

(d)

A бүгүdede<sup>1)</sup> ilaγuγsad-iyar dügürgen küsemüi ::

全てにおいて諸仏によって満ちんことを願う。

- 1) 他は бүгүde-de
- B qamuγ ilaγuγsad-iyar dügürčü бүкү-yi küsemüi ::
- C qamuγ ilaγuγsad-iyar dügürčü бүкү-yi<sup>1)</sup> küsemüi<sup>2)</sup> ::
- D qamuγ ilaγuγsad-iyar dügürčü бүкү-yi küsemü ::
- E qamuγ ilaγuγsad-iyar dügürküi<sup>3)</sup> küsemüi bi ::
- F бүгүde ilaγuγsad-nuγud-iyar dügürküi küsemüi ::

1) PLB 142, 183 бүкүyi, Mong 06. 45 бүкү-yi 2) PLB 142, 183 küsemü 3) PLB 66 dügürküyi

「無数にある塵の一粒一粒の上にさらに塵の数にも等しい無数の諸仏が菩薩の

只中に坐しているように、法界が余すところなく、仏で満ち満ちていることを願う。」

不空訳 於一塵端如塵仏 諸仏仏子坐其中  
如是法界尽無余 我信諸仏悉充滿

4 (a)

A tedeger maγtaγdaqui barasi ügei dalai-nuγud-i :

それら讃えるべき無尽の大海を、

B teden-ü barasi ügei sayisiyaγulqui dalai-nuγud-i :

C tede<sup>1)</sup> barasi ügei sayisiyaγdaqui dalai-nuγud :<sup>2)</sup>

D tede barasi ügei sayisiyaγdaqu dalai-nuγud-i :

E tedeger-ün barasi ügei sayisiyaγdaqui dalai-nuγud-i :

F tedeger-ün sayisiyaqui barasi ügei dalai-yi :

1) K 1144, Mong 06.45 tende 2) PLB 183 ø

(b)

A dalai<sup>1)</sup> metü egesig-ün üyes-tü<sup>2)</sup> daγun-nuγud-iyar<sup>3)</sup> :

大海のような音の調べをもつ声によって、

1) R dalai 2) R üyes-tür 3) R toγosun-nuγud-iyar

B dalai metü egesig-ün qamuγ üyes-ün daγun-iyar :

C /daγulaqui ayimaγ/<sup>1)</sup> dalai metü daγun-iyar :<sup>2)</sup>

D dalai metü egegig-ün qamγ üyes-ün daγun-iyar :

E egesig-ün gesigün-ü dalai metü daγun бүкүн-iyer :

F dalai metü egesigün gesigütü daγu-bar :

1) K 1144 egesig-ün üyes 2) K 1144 ø

(c)

A qamuγ ilaγuγsad-un erdem-üd-i<sup>1)</sup> sayitur ügüleged :

一切諸仏の功德をたくみに語って、

1) R, K731 erdem-i

B = A :

C +<sup>1)</sup> ila<sub>7</sub>u<sub>7</sub>sad-un erdem-üd-i sayitur ügüleged

D = A :

E = A :

F ila<sub>7</sub>u<sub>7</sub>sad ele bögüde erdem-üd-i ügülen :

1) K 1144 qotala

(d)

A qamu<sub>7</sub> sayibar odu<sub>7</sub>sad-i ma<sub>7</sub>tamui bi ::

一切善逝を讃える、私は。

B qamu<sub>7</sub> sayibar odu<sub>7</sub>san bögüde-yi ma<sub>7</sub>tamui bi ::

C qamu<sub>7</sub> sayibar odu<sub>7</sub>sad bögüde-yi ma<sub>7</sub>tamui bi<sup>1)</sup> ::

D = C ::

E = A ::

F qamu<sub>7</sub> sayibar odu<sub>7</sub>sad-i üges-iyer ma<sub>7</sub>tamu ::

1) Mong 06.45 ø

「海潮にも似た吼声を発して、無尽の大海にも似たそれら賞讃すべき一切諸仏の功德を説いて、一切善逝たる仏を私は讃える。」

不空訳 於彼無尽功德海 以諸音声功德海

闡揚如来功德時 我常讚嘆諸善逝

5 (a)

A degedü sečeg<sup>1)</sup> kiged degedü erikes-i ber + <sup>2)</sup>

最上の花と最上の華鬘をば、

1) K731 čečeg 2) K731:

B degedü sayin čecëg-üd kiged erikes-i ber :

C degedü /sayin čecëg-üd/<sup>1)</sup> kiged /erikes-i ber/<sup>2)</sup> :<sup>3)</sup>

D degedü sayin čecëg-üd kiged degedü.....ba :

E degedü čečeg kiged degedü erike ba :

F degedü čecig-lüge degedü erke :

1) K 1144 čečeg 2) K 1144 erikes ba, PLB 142, 183 eriken-i ber

3) Mong 06.45 ø

(b)

A činggiljaqui kiged sürčiküi degedü /sikür-e ber/<sup>1)</sup> :

鳴り物と塗香, 最上の傘蓋をこそ,

1) R sigüderi ba, K731 sikür-i ba

B sonosqu metü čanggiljaqui kiged sürčiküi-lüge : degedü sikür

C /sonosqui metü/<sup>1)</sup> činggiljaqui<sup>2)</sup> kiged sürčiküi-lüge +<sup>3)</sup> sikür :<sup>4)</sup>

D sonosqui metü činggiljaqui kiged sürčiküi-lüge : degedü sikür  
ba :

E čanggiljaqui-nuγud kiged sürčiküi-lüge degedü sikür ba :

F degedüki kögjim-nügüd sikür-lüge sürčilge :

1) K 1144 ø 2) PLB 49, Mong 06.45 čanggiljaqui, PLB 142  
činggaljaqui 3) K 1144 degedü 4) PLB 49 ø

(c)

A degedü jula kiged<sup>1)</sup> sayin önür-ten küjis-iyer :

最上の燈明と良き薫りの香によって,

1) 他は ø

B = A :

C +<sup>1)</sup> jula kiged /sayin önür-ten/<sup>2)</sup> küjis-iyer :<sup>3)</sup>

D = A :

E degedü<sup>4)</sup> jula kiged degedü küjis-iyer :

F degedüke jula kiged degedüki küji-ber :

1) K 1144 degedü 2) K 1144 degedü 3) Mong 06.45 ø 4) PLB 66  
degedü

(d)

A tedeger ilaγuγsad-i ber takimui ::<sup>1)</sup>

それら諸仏にこそ供養する。

1) R :

B tede ele ilaγuγsad bügüde-dür takimui ::

C tede ilaγuγsad bügüde-dür takimui ::<sup>1)</sup>

D = C ::

E tedeger ilaγuγsad-tur takimui ::

F tede qamuγ ilaγuγsad bügüde-yi takimui ::

1) Mong 06.45 :

「最上の花と華鬘，音楽と塗香と傘蓋，燈明とかぐわしい薫香をそなえて，それら諸仏に供養する。」

不空訳 以勝華鬘及塗香 及以伎樂勝傘蓋

一切嚴具皆殊勝 我悉供養諸如来

6 (a)

A sayin takil-lüge degedü /önüd-i ber/<sup>1)</sup> +<sup>2)</sup>

良き供物とともに最上の香をば

1) K 731 önüd kiged 2) 他は :

B sayin debel-lüge nigen-e degedü sayin önüd-i ber :

C sayin<sup>1)</sup> takil-lüge<sup>2)</sup> nigen-e<sup>3)</sup> degedü sayin<sup>4)</sup> /önüd-i ber/<sup>5)</sup> :

D sayin debel-lüge nigen-e degedü sayin önüd ber :

E degedü qubčid kiged degedü önür ba :

F degedüki qubčad-luγ-a degedüki önür ba :

1) K 1144 degedü 2) K 1144, PLB 142, 183, Mong 06.45 takil-

luγ-a 3) K 1144 ø 4) K 1144, Mong 45 ø 06. 5) K 1144 önüd kiged

(b)

A sümbür<sup>1)</sup> aγula-luγ-a<sup>2)</sup> sača čambuljaγui-bar<sup>3)</sup> :

須弥山と同じ程もある垂飾によって、

1) K 731 sümir 2) R aγula-lüge 3) R čambuljaui-bar

B sümir aγula-luγ-a sača čambuljaγui-bar :

C sümir aγula-luγ-a sača küčütü<sup>1)</sup> čambuljaγuli-bar<sup>2)</sup> :<sup>3)</sup>

D šümir aγula-luγ-a sačaγu čambuljaγuli ba :

E sümber aγula-luγ-a sača önggömel kiged :

F jambuljaγui čimeg anu sümbür-lüge sačuγu :

1) K 1144 ø 2) K 1144 čambuljaγul-i, PLB 142 čambuljaγul-i-bar,  
PLB 183 čambuljaqui-bar 3) PLB 49, Mong 06.45 ø

(c)

A ülemji ketürkei-e nayiraγuluγsan-u<sup>1)</sup> degedü bükün-iyer<sup>2)</sup> :

殊のほかすぐれた飾り物の最上のもの全てによって、

1) R nayiraγuluγsan K 731 jokiyaγsan 2) R bükün ber

B qamuγ nayiraγuluγsan ele bügüde-yin degedüs čimeg-iyer :

C qamuγ nayiraγuluγsan ele bügüde-yin degedüs-iyer :<sup>1)</sup>

D qamuγ nayiraγuluγsan bügüde-yin degedü čimeg-iyer :

E jokiyaγ ilangγui-a ülemji degedü bükün-iyer :

F jokisqui ilangγui-a ülemji-dü erkim ber :

1) Mong 06.45 ø

(d)

A tedeger ilaγuγsad-i ber takimui ::

それら諸仏にこそ供養する。

B tede ele ilaγuγsad-tur ber takimui ::

C tede<sup>1)</sup> ele ilaγuγsad-tur ber takimui ::

D tede ilaγuγsad-tur ber takimui ::

E tedeger ilaγuγsad-tur ber takimui ::

F tede qamuγ ilaγuγsad bügüde-yi takimui ::

1) K 1144 tende

「良き供物と最上の香をささげ、須弥山ほどもある広大な垂飾をたれ、莊嚴  
のうちでもきわめつけのもので飾りたてて、それら諸仏に供養する。」

不空訳 所有無上広供養 我悉勝解諸如来

以普賢行勝解力 我礼供養諸如来

7 (a)

A tengsel<sup>1)</sup> ügei aγui yeke tedeger ali takil-nuγud-i<sup>2)</sup> :

無類の広大なそれらの供養を,

1) K 731 deger-e 2) R takil-nuγud

B ali tere deger-e ügegü aγui yeke takil-nuγud :

C ali tere deger-e ügegü aγui<sup>1)</sup> yeke takil-nügüd<sup>2)</sup> :<sup>3)</sup>

D ali tere degere ügegü jaγui yeke takil-nuγud :

E ali mad degere ügei aγui yeke takil-nuγud :

F ali takil tengsel ügei aγui yeke tegüber :

1) K 1144, Mong 06.45 anu 2) K 1144, PLB 142, 183, Mong  
06.45 takil-nuγud 3) Mong 06.45 ø

(b)

A qamuγ ilaγuγsad-tur ber öggün küsemüi :

一切諸仏にこそ与えようと望む。

B teden-i ber qamuγ ilaγuγsad-tur öggün küsemüi :

C teden-i ber qamuγ ilaγuγsad-tur öggün küsemüi<sup>1)</sup> :

D = B :

E tedeger qamuγ ilaγuγsad-tur takiqi-a küsemüi :

F ilaγuγsad bügüde-yi takiqi-a küsemü :

1) K 1144, Mong 06.45 küseküi

(c)

A sayin /yabudal-un irüger-ün qaγan-dur/<sup>1)</sup> süsülküi küçün-iyer ber :

普賢行の請願の王に対し信仰する力によってこそ,

1) K 731 yabudal-dur

B sayin yabudal-i süsülküi küçün-nügüd-iyer

C sayin yabudal-tu<sup>1)</sup> süsülküi küçün-nügüd-iyer<sup>2)</sup> :<sup>3)</sup>

D sayin yabudal-dur süsülküi küçün-nügüd-iyer :

E sayin yabudal-dur süsülküi-yin küçün-nügüd-iyer :



F bodisadu-yin süsülüküi küčün-nügüd-iyer bi :

1) PLB 142 yabudaltu 2) Mong 06.45 küčün-nuγud-iyar 3) K1144 ø

(d)

A qamuγ ilaγuγsad-tur mörgün takimui ::

一切諸仏に敬礼し供養する。

B qamuγ ilaγuγsad-ta mörgüged takimui ::

C ilaγuγsad ele bügüde-de<sup>1)</sup> mörgüged :<sup>2)</sup> takimui ::

D ilaγuγsad bügüde-de mörgüged takimui ::

E = D ::

F ilaγuγsad bügüde-de mörgül-iyer takimui ::

1) K 1144 bügüdede 2) 他は ø

「それらの無類で広大な供養を一切諸仏にささげんことを望む。普賢行願王に対する信仰の力によって一切諸仏に敬礼し供養する。」

不空訳 所有無上広供養 我悉勝解諸如来

以普賢行勝解力 我礼供養諸如来

8(a)

A tačiyangγui urin mungqaγ-un erkeber<sup>1)</sup> :

貪欲, 怒り, 無知のゆえに,

1) K 731 erke-ber

B tačiyangγui kiged urin mungqaγ-un erke-ber :

C tačiyangγui kiged urin mungqaγ-un erkeber<sup>1)</sup> :

D = B :

E tačiyangγui urin mungqaγ-un erke-ber :

F tačiyangγui urin mungqaγ γurban qour-a-yin erke-ber :

1) K 1144, PLB 142 erke-ber

(b)

A bey-e kelen kiged tegüncilen sedkil-iyer :<sup>1)</sup>

1) K731 ø

身体, 言語とまた同様に心によって

B bey-e kelen kiged tegünçilen sedkil-iyer ber :

C = A :

D = A :

E = A :

F bey-e kelen tegünçilen sedkil-nügüd-iyer bi :

(c)

A minu aliber<sup>1)</sup> üiledügsen nigül kilinçe-nu,ud<sup>2)</sup> :

私の犯した罪過,

1) 他は ali ber 2) K 731 kilinçe-nügüd

B ab ali minu üiledügsed nigül kilinçe :

C ab ali minu üiledügsen nigül kiged<sup>1)</sup> :<sup>2)</sup>

D ab ali minu üiledügsen nigül kilinçe :

E kilinçe-yi biber üiledügsen kedüi bükün :

F kilinçe-yi üiledügsen kedüi bükü

1) 他は kilinçe 2) PLB 142 ø

(d)

B tedeger бүгүдөй<sup>1)</sup> бибери<sup>2)</sup> өбөр-е өбөр-е namançilamui ::

それら全てを私は一つ一つ懺悔する。

1) 他は бүгүдөй-йи 2) R bi ber, K 731 ber

B tedeger бүгүдөй-йи өбөр-е өбөр-е arı,an namançilamu bi ::

C tede бүгүдөй-йиген +<sup>1)</sup> өбөр-е өбөр-е arı,an öcümüi bi<sup>2)</sup> ::<sup>3)</sup>

D tedeger бүгүдөй-йиген өбөр-е өбөр-е arı,an namançilamui bi ::

E tedeger бүгүдөй-йи өбөр-е өбөр-е namançilamui bi ::

F tedeger : бүгүдөй-йи бибери sayitur namançilan üjemü ::

1) PLB 49: 2) Mong 06.45 ø 3) Mong 06.45 :

「貪欲, 怒り, 無知が原因で私が犯した身体, 言語, 心の罪過全てを私は一

一つ一つ懺悔する。」

不空訳 我會所作衆罪業 皆由貪欲瞋恚癡  
由身口意亦如是 我皆陳説於一切

9 (a)

A arban jüg-ün qamuγ ilaγuγsad kiged bodisdv-nar<sup>1)</sup> ba :<sup>2)</sup>

十方の一切諸仏と諸菩薩や、

1) K 731 bovadhi saduva-nar 2) R ø

B arban jüg-ün бүкү ilaγuγsad kiged bovadhi saduva-nar ba :

C arban jüg-ün ilaγuγsad kiged bodisdv-narun<sup>1)</sup> ba :

D = B :

E arban jüg-ün бүкү ilaγuγsad kiged bodisadu-a-nar ba :

F arban jüg-ün qamuγ burqan bodisadu-nuγud ba :

1) K 1144, PLB49 bovadhi saduva-nar-un, PLB 142, 183  
bodisdv-nar-un

(b)

B bradikabud kiged surqun ülü surqun ba :

辟支仏と有学、無学や、

B bradikabud kiged surqun ülü surqun :

C bradikabud surqun ülü surqun siravag-nuγud ba :

D = A :

E = A :

F bradikabud surqun-luγ-a ülü surqun-nuγud ba :

(c)

A qamuγ amitan-u aliber<sup>1)</sup> buyan-nuγud-tur ber :

一切衆生のあらゆる福德にこそ、

1) 他は ali ber

B qamuγ amitan-u ali ba buyan-nuγud-tur ber :

C qamuγ amitan-u /ali ber/<sup>1)</sup> buyan-nuγud-a<sup>2)</sup> ber :<sup>3)</sup>

D = B :

E qamuγ amitan-u aliba buyan-dur ber :

F qamuγ ele amitan-u buyan ali bügesü :

1) PLB 142, Mong 06.45 aliber 2) K 1144, PLB 142, 183, Mong  
06, 45 buyan-nuγud-ta 3) PLB 49 ø

(d)

A tedeγer bögüde-de daγan<sup>1)</sup> bayasulčamui bi ::

それら全てに随喜する、私は。

1) 他は daγan

B tede bögüde-dür daγan bayasun nököčemüi bi ::

C tede bögüde-dür daγan<sup>1)</sup> bayasun nököčemüi bi<sup>2)</sup> ::

D tede bögüde-dür daγan bayasun nököčemüi bi ::

E tede bögüde-dür daγan bayasulčimui bi ::

F tede ele bögüde-de bayasulčin daγamu ::

1) K1144, PLB 183 daγan 2) Mong 06.45 ø

「あらゆる空間にいる仏、菩薩、縁覚、有学、無学等の一切の衆生の福德を  
私はともどもに喜ぶ。」

不空訳 所有十方群生福 有学無学辟支仏

及諸仏子諸如来 我皆随喜咸一切

10 (a)

A aliba<sup>1)</sup> arban jüg-ün yirtinčüs-ün jula-nuγud :

あらゆる一方の世間の燈明、

1) 他は ali ba 2) R, K 731 :

B ked ba arban jüg-ün yirtinčüs-ün jula-nuγud :

C ked ba artan jüg-ün yirtinčüs-ün jula-nuγud ba :

D ked ba arban jüg-ün yirtinčü-yin jula-nuγud :

E alimad arban jüg-ün yirtinčü-yin jula-nuγud :

F ali tere arban jüg-ün yirti(n)čüs-ün oron-dur :

(b)

A bodi<sup>1)</sup> jergeber<sup>2)</sup> burqan bolju +<sup>3)</sup> tačiyangγui ügei-yi<sup>4)</sup> oluγsan<sup>5)</sup> :

菩提次第で成仏し無着を得た、

1) K 731 bovadhi 2) 他は jerge-ber 3) K 731 : 4) R ügey-e

5) R olu<sub>7</sub>sad

B bovadhi jerge-ber burqan bolju tačiyang<sub>7</sub>ui ügei-yi olu<sub>7</sub>san :

C bodi<sup>1)</sup> jergeber<sup>2)</sup> burqan bolju tačiyang<sub>7</sub>ui ügei<sup>3)</sup> : <sup>4)</sup> olu<sub>7</sub>sad + <sup>5)</sup>

D bovadhi-dur jerge-ber burqan bolju tačiyang<sub>7</sub>ui ügei-yi olu<sub>7</sub>sad :

E bovadhi-dur teyin burqan bolju torqu ügei-yi olu<sub>7</sub>san :

F bodi-yin jerge burqan bolju ülü torqui olu<sub>7</sub>san :

1) K 1144, PLB 49 bovadhi 2) K 1144, PLB 49, Mong 06.45

gerge-ber 3) K 1144 ügei-yi 4) K 1144, PLB 142, Mong 06.45 ø

5) K 1144, Mong 06.45 :

(c)

A tede<sub>7</sub>ger itegel-e<sup>1)</sup> biber<sup>2)</sup> qamu<sub>7</sub>-tur<sup>3)</sup> + <sup>4)</sup>

かれら救世尊に私は一切に対して

1) I itegel-i 2) 他は bi ber 3) K 731 qamu<sub>7</sub>-a 4) R :

B biber itegel-nügüd bügüde-dür :

C tede ele itegel-nügüd bügüde-de + <sup>1)</sup> :

D bi ber tede itegel-nügüd bügüde-de :

E tede itegel bügüde-dür : biber

F geyigülügci tere qamu<sub>7</sub> itegel-dür anu bi :

1) K 1144, Mong 06.45 bi

(d)

A tengsel<sup>1)</sup> ügei nom-un kürdün-i<sup>2)</sup> orči<sub>7</sub>ulun<sup>3)</sup> duradumui<sup>4)</sup> :

1) K 731 deger-e 2) K 731 kürdün-ü 3) K 731 orči<sub>7</sub>ulura 4) R duradumui

B deger-e ügei nom-un kürdün-i orči<sub>7</sub>ul-un duradumui ::

C deger-e<sup>1)</sup> ügegü nom-un kürdün-i orči<sub>7</sub>ulun<sup>2)</sup> duradumui<sup>3)</sup> :: <sup>4)</sup>

D degere ügei nom-un kürdün-i orči<sub>7</sub>ul<sub>7</sub>an duradumui ::

E degere<sup>5)</sup> ügei kürdün-i erkigülküi-e duradqamui ::

F tengsel ügei nom-un kürdü duradqaju γuyumui ::

1) PLB 49 degere 2) PLB 49, 142, 183 orčiγul-un 3) PLB 183

を除き duraddumui 4) Mong 06.45: 5) PLB 66 deger-e

無上の法輪を転じんことを勧請する。

「十方世間を照らす燈明にして、菩提次第にのっとり成仏し無着を得たものであり、一切の救世尊である仏に対し私は無上の法輪を転じ法を説かんことを勧請する。」

不空訳 所有十方世間燈 以證菩提得無染

我皆勧請諸世尊 転於無上妙法輪

11 (a)

A aliber<sup>1)</sup> nirvan bolun küsegčid teden-dür :

あらゆる涅槃あらんことを願うものであるかれらに対して、

1) 他は ali ber

B ken nirvan-i üjügülsügei kemen küsegčün teden-e :

C ken nirvan-i üjegülsügei<sup>1)</sup> +<sup>2)</sup> kemen küsegčid teden-e :<sup>3)</sup>

D = C :

E ken nirvan üjegülsügei kemen taγalaγči teden-e :

F nirvan-i üjügülküi taγalaγči teden-dür :

1) PLB 142, 183 を除き üjügülsügei, 2) Mong 06.45: 3) PLB 142, 183 ø

(b)

A qamuγ amitan-i<sup>1)</sup> tusa kiged jirγalang-un tulada :

一切衆生に利益と安樂のために、

1) 他は amitan-a

B qamuγ amitan-a tusa kiged jirγalang bolur-un :

C qamuγ amitan-a tusa<sup>1)</sup> kiged jirγalang bolγaqu-yin tulada :

D qamuγ amitan-a tusa kiged jirγalang bolqu-yin tulada :

E qamuγ amitan-a tusa kiged jirγalang-un tula :

F amitan-i tusalad jirγ(a)γulquyin tula bi :

1) PLB 72 ø

(c)

A yirtinčü ulus-un<sup>1)</sup> toγosun-u toγatan galab-tur saγun soyurqa<sup>2)</sup> :<sup>3)</sup>

世間国土の塵の数の劫にとどまりたまえ、

1) K 731 orod-un 2) R, K 731 soyurq-a 3) K 731 ø

B oron-u toγosun-u toγ-a-tan galab-tur kürtele saγun soyurq-a :

C /yirtinčü ulus-un/<sup>1)</sup> toγosun-u toγatan /galab-tur kürtele :<sup>3)</sup>  
saγun soyurqa/<sup>2)</sup> +<sup>4)</sup>

D oron-u toγosun-u toγatan galab-tur kürtele : saγun soyurq-a

E orod-un toγosun-u toγatan galab-tur saγun soyurq-a :

F toγosun-u toγ-a kürküi galab-ud-i kürtele : saγu

1) K 1144 galab-un orod-un 2) K 1144 saγuγsan-dur ber

3) PLB 142, 183, Mong 06.45 ø 4) K 1144, Mong 06.45 :

(d)

A kemen<sup>1)</sup> alaγaban<sup>2)</sup> masida<sup>3)</sup> qamtudqan jalbarimui bi<sup>4)</sup> ::<sup>5)</sup>

と自らの掌を大いに合わせて請う、私は。

1) Mong 382 ø 2) Mong 382 はここから始まる。K 731 alaγ-a-ban

3) R, Mong 382 ø 4) I ø 5) R :

B kemen alaγaban sayitur qamtudqan öčimüi bi ::

C kemen<sup>1)</sup> +<sup>2)</sup> alaγaban qamtudqan öčimüi ::

D kemen alaγaban sayitur qamtudqan jalbarin öčimüi bi ::

E kemen alaγaban sayitur qamtudqan öčimüi bi ::

F kemen alaγaban qabsurγad öčimü ::

1) K 1144 ø 2) K 1144 bi ber, PLB 49 biber

「涅槃を教示しようと望む者、即ち仏に対し、衆生に利益と安樂をもたらすべく、地上の塵の数にも等しい無限に長い間、この世にとどまりたまえと、私は合掌して請う。」

不空訳 所有欲現涅槃者 我皆於彼合掌請  
唯願久住刹塵劫 為諸群生利安樂

12 (a)

A mörgüküi<sup>1)</sup> takiqi<sup>2)</sup> namančilaqui +<sup>3)</sup>

礼拝供養, 懺悔

1) K 731 mörgüged 2) K 731 takin 3) Mong 382 kiged :, 他は :

B mörgüged takiqi kiged namančilaqui ba :

C mörgüged<sup>1)</sup> ba<sup>2)</sup> takiγad /ba :/<sup>3)</sup> gsanti<sup>4)</sup> öčiged :

D mörgüküi kiged takiγad namančilaqui ba

E = D :

F mörgüküi ba takil ergün namančilal üiledün :

1) PLB 183 mörgüküi 2) K 1144 ø, PLB 183 kiged

3) K 1144 ø, PLB 49, 142 ba 4) K 1144, PLB 183 gsanti

(b)

A daγan<sup>1)</sup> bayasun durad-un<sup>2)</sup> jalγbarisan :

随喜し念じ請うたこと

1) R, K731 daγan 2) R, Mong 382 duraddun, K731 duraduns

B bayasun nököčen duradqan jalbariγsan :

C bayasun nököčen<sup>1)</sup> duradqan jalbariγsan-iyar

D daγan bayasun duradqan jalbariγsan-iyar :

E daγan bayasun duradqan jalbariγsan-iyar

F bayasulēin dur(a)duγad jalbaril-i üiledü :

1) PLB 142 nököčēin

(c)

A yambar quriyaγsan minu öčügüken buyan :

何であれ私の積んださやかな福德,

B minu keüdüyiken öčügüken buyan quriyaγsan :

C minu kedüyiken<sup>1)</sup> ba öčügüken<sup>2)</sup> buyan-i quriyaγsad :



D minu kedüyiken ba öčügüken buyan-i quriya<sub>7</sub>san :

E minu buyan öčügüken kedüi quriya<sub>7</sub>san :

F öčügüken buyan kedüi quriya<sub>7</sub>san-ıyan bi :

1) PLB 142 kedüiken 2) K 1144 ø, Mong 06.45:

(d)

A бүгүдеyi<sup>1)</sup> bi bodiçid-un<sup>2)</sup> tulada<sup>3)</sup> irügemüi ::<sup>3)</sup>

全てを私は菩薩のために回向する。

1) R, K 731 бүгүде-yi 2) K 731 bovadhiçid-un 3) K 731 tula-da 4)

R :: : ::

B бүгүде-yügen bovadhi qutu<sub>7</sub>-un tulada jorin irügemüi bi ::

C bodi<sup>1)</sup> qutu<sub>7</sub>-un tulada jorimui bi<sup>2)</sup> ::

D бүгүде-yügen bovadhi qutu<sub>7</sub>-un tulada jorimu bi ::

E бүгүде-yi bodi-yin<sup>3)</sup> tulada jorimui bi ::

F бүгүде-yi minu bodi olqu-yin tula jorimu ::

1) K 1144, PLB 49 bovadhi 2) Mong 06.45 ø

3) PLB 66 bovadhi-yin

「礼拝，供養，懺悔や，隨喜し念じ祈ったことを通じて，いささかなりと私が積んだ福德全てを菩提のために回向する。

不空訳 礼拝供養及陳罪 隨喜功德及勸請

我所積集諸功德 悉皆回向於菩提

13(a)

A nöğçigsen ča<sub>7</sub>-un burqan-nu<sub>7</sub>ud kiged :<sup>1)</sup> arban +<sup>2)</sup> jüg-ün :<sup>3)</sup>

過ぎた時の諸仏と，十方の，

1) R, Mong 382 ø 2) R arban 3) Mong 382, K 731 ø

B nöğçigsen ča<sub>7</sub>-un burqan kiged arban jüg-teki :

C nöğçigsen ča<sub>7</sub>-un burqan kiged arban jüg-teki :<sup>1)</sup>

D nöğçigsen ča<sub>7</sub>-un burqad kiged arban jüg-teki :

E nögčigsen čaγ-un burqad kiged arban jüg-un :

F nögčigsen burqan-luγ-a arban jüg-un

1) PLB 142, 183 ø

(b)

A yirtinčü-dür ali saγuγsad takiγdaqui bolju<sup>1)</sup> :

世間にあらゆる住むものらは供養すべきであり,

1) K 731 boluγsan

B yirtinčü-yin oron-dur ken edüge бүкүн-i takiγad :

C yirtinčü ulus-tur<sup>1)</sup> ken edüge бүкүн-i takiγad :<sup>2)</sup>

D yirtinčü oron-dur ken edüge бүкүн-i takiqu boltuγai ::

E yirtinčü-nuγud-tur<sup>3)</sup> ali saγuγsad-i takiqu boltuγai ::<sup>4)</sup>

F orod-tur ali aγči burqan-nuγud takiγdaqu bolturai (*sic*) :

1) K 1144 oron-dur 2) K 1144, PLB 142, 183, Mong 06.45 ø

3) PLB 66 yirtinčü-nügüd-tür 4) PLB 66 :

(c)

A basa<sup>1)</sup> aliber<sup>2)</sup> irege edüi tedeger ber mön degere<sup>3)</sup> :

またあらゆる未来のかれらもそれ以上に,

1) Mong 382 bas-a 2) R, K 731 ali ber 3) 他は deger-e

B ked ba irege edüi: tedeger burqan-nuγud mön deger-e :

C ked ba ireküi čaγ-un tedeger burqan<sup>1)</sup> mön deger-e :<sup>2)</sup>

D ked ba irege edüi tedeger burqan-nuγud mön degere :

E alin ber irege edüi tedeger masi türge-e :

F ali basa iregedüi tede masi türge-e :

1) K 1144, Mong 06.45 бүкүн 2) K 1144, Mong 06.45 ø

(d)

A sedkil tegüsčü :<sup>1)</sup> bodi<sup>2)</sup> jergeber<sup>3)</sup> burqan bolju<sup>4)</sup> boltuγai ::

思いが満足し、菩提次第にのっとり成仏するがよい。

1) 他は ø 2) K 731 bovadhi 3) R, K 731 jerge-ber 4) K 731 bolu<sub>7</sub>cin

B sedkigsen-iyer dügürčü bovadhi jerge-ber burqan bolu<sub>7</sub>ai ::

C sedkigsen-iyer dügürčü +<sup>1)</sup> bodi<sup>2)</sup> jerge-ber<sup>3)</sup> burqan<sup>4)</sup> bolu<sub>7</sub>ai<sup>5)</sup> ::

D sedkigsen-iyer dügürčü bovadhi jerge-ber burqan bolju ::

E sanal tegüsčü bovadhi-yin<sup>6)</sup> jerge-ber burqan bolu<sub>7</sub>ai ::

F sanal güi<sub>7</sub>cin bodi-yin jerge burqan bolun kürtügei ::

1) K 1144, Mong 06.45 : 2) K 1144, PLB 49 bovadhi 3) PLB 142, Mong 06.45 jergeber 4) K 1144 'wyk'ø' 5) K1144 bolu<sub>7</sub>san 6) PLB 66 bodi-yin

「過去の諸仏、現在のあらゆる方向にいる諸仏は供養されるがよい。また、未来に出現するはずの諸仏もいやまして、思いがかない、菩提次第にのって成仏するがよい。」

不空訳 願我供養過去仏 所有現在十方世

所有未来速願我 意願門滿證菩提

14 (a)

A arban жүг-үн aliba<sup>1)</sup> kedüi бүкүi orod :

十方のありとあらゆる刹土、

1) Iø, R, K 731 ali ba

B kedüi бүкү arban жүг-үн yirtinčü-yin oron-nu<sub>7</sub>ud :

C +<sup>1)</sup> kedüi бүкүн arban жүг-үн yirtinčü-yin ulus-nu<sub>7</sub>ud<sup>2)</sup> ba :<sup>3)</sup>

D kedüi бүкүн arban жүг-үн yirtinčü-yin oron-nu<sub>7</sub>ud :

E kedüi бүкү arban жүг-үн yirtinčü-yin orod ba :

F üsüd tere arban жүг-үн kedüi бүкү orod čöm :

1) K 1144 burqan 2) K 1144 oron-nu<sub>7</sub>ud 3) PLB 49 ø

(b)

A tedeger ber a<sub>7</sub>ui yeke o<sub>7</sub>o<sub>7</sub>ata ari<sub>7</sub>un bolju :

それらも広大にして完成に清浄となり、

B tede bögüde aγui yekede oγoγata arilqu boluγad :

C tede bögüde aγui yekede arilqu<sup>1)</sup> boluγad :

D = B :

E tedeger aγui yekede oγoγata arilqu boluγad :

F aγui yeke oγoγata ariluγsan boltuγai :

1) K 1144 arilγaqu

(c)

A erketü<sup>1)</sup> bodi<sup>2)</sup> modun-u dergede oduγçi ilaγuγsad<sup>3)</sup> kiged :

力ある菩提樹の下におもむく諸仏と、

1) Mong 382 erketü 2) K 731 bovadhi 3) Mong 382, K 731 ilaγuγsan

B erketü bovadhi modud-un dergede oduγçi ilaγuγsad kiged :

C bodi<sup>1)</sup> modun-u qaγan-u dergede oduγçi ilaγuγsad kiged :

D bovadhi modun-u qaγan-u dergede oduγçi ilaγuγsad kiged :

E bodi<sup>2)</sup> modun-u qaγan-u dergede oduγçi ilaγuγsad kiged :

F bodi moduyin qan-u tende jalar(a)γsan burqad ba :

1) K 1144, PLB 49 bovadhi 2) PLB66 bovadhi

(d)

A ilaγuγsad-un köbegün-iyer<sup>1)</sup> sayitur dügürkü boltuγai ::

諸仏の息子により、完全に満ちあふれるがよい。

1) 他は köbegüd

B ilaγuγsad-un köbegüd-iyer sayitur dügürkü boltuγai ::

C ilaγuγsad-un köbegün-iyer<sup>1)</sup> sayitur dügürkü boltuγai ::

D = C ::

E = B ::

F bodisadu-nuγud masi dügürged atuγai ::

1) Mong 06.45 köbegüd-iyer

「あらゆる方向の刹土が全て広大で清浄となり、王にも等しい菩提樹の下におもむこうとする仏と菩薩で埋め尽くされるがよい。」

不空訳 所有十方諸刹土 願我广大咸清淨  
諸仏咸詣覺樹王 諸仏子等皆充滿

15 (a)

A arban jüg-ün kedüi бүкүй ali ber amitan :

十方のありとあらゆる衆生,

B arban jüg-ün kedüi бүкүн ali tedeger amitan :

C arban jüg-ün kedüi бүкүн ali tedeger<sup>1)</sup> amitan :

D = B :

E arban jüg-ün kedüi бүкү alimad amitan :

F ali tere arban jüg-ün kedüi бүкү amitan :

1) PLB 183 tedener

(b)

A tedeger ber nasuda ebečin<sup>1)</sup> ügei jirγalang-tan bolju :

かれらも永久に病が無く安樂となって,

1) Mong 382, K 731 ebedčin

B nasu ürgülji ebedčin ügei jirγalang-tan boluγad :

C nasun ürgülji ebečin<sup>1)</sup> ügei jirγalang-tan boluγad :

D nasun ürgülji ebečin ügei jirγalang-tan boluγad :

E tedeger nasuda ebečin ügei jirγalang-tan boluγad :

F aburida emgeg ügei jirγ(a)lang-tu boltuγai :

1) K 1144, PLB 49 ebedčin

(c)

A qamuγ<sup>1)</sup> /bügüde ber/<sup>2)</sup> nom-un udq-a-luγa<sup>3)</sup> :<sup>4)</sup>

一切の全ては法の義と,

1) R ø 2) K 731 amitan-u 3) K 731 udqas anu 4) K 731 ø

B qamuγ amitan-u nom-un udqas anu :

C qamuγ amitan-u nom-un sayin udqas<sup>1)</sup> anu :<sup>2)</sup>

D qamuγ amitan-u nom-un udqas-nuγud inu :

E qamuγ amitan-u nom-un udq-a-nuγud inu :

F qamuγ ele amitan-u nom-un udq-a bügäde :

1) K 1144, Mong 06.45 udq-a, PLB 142 udaq-a 2) Mong 06.45 ø

(d)

A jokilduqui boluγad eril inu<sup>1)</sup> bütükü boltuγai :<sup>2)</sup>

合致することとなって、その求めは成就するがよい。

1) R, K 731 anu 2) R, K 731 ::

B jokistu boluγad küsel ber anu bütükü boltuγai ::

C jokistu<sup>1)</sup> boluγad küsel ber inu<sup>2)</sup> bütükü boltuγai ::

D jokilduqu bolju küsel ber anu bütükü boltuγai ::

E jokilduqu boluγad küsel ber bütükü boltuγai ::

F neyilelciged egerelju bütügseger atuγai ::

1) PLB 49 jokis-tu 2) PLB 183 anu

「ありとあらゆる方向にいる衆生全てが無病息災で安楽になればよい。一切衆生の法義と合致し、願いがかなうがよい。」

不空訳 所有十方諸衆生 願我安樂無衆愚

一方群生獲法利 願得隨順如意心

16 (a)

A bodi<sup>1)</sup> yabudal-iyar<sup>2)</sup> yabuγad bi ::<sup>3)</sup>

菩提行によって行じて私は、

1) K 731 bovadhi 2) K 731 yabudal-nuγud-iyar 3) 他は :

B bovadhi yabudal-nuγud-iyar sayitur yabuju bi :

C bodi<sup>1)</sup> yabudal-nuγud-iyar sayitur yabuju : bi

D = B :

E bovadhi yabudal-nuγud-iyar yabuju bi :

F biber bodi yabudal-i oγoγata yabuγad :

1) K 1144, PLB 49 bovadhi

(b)

A qamuγ töröl-dür töröl-iyen /duradqui bolju<sup>1)</sup> :

一切趣において己のが生を念ずるものになり,

1) R duradqu boltuγai, Mong 382 duradqui boltuγai

B qamuγ jayaγan-nuγud-tur töröl-iyen medekü boltuγai :

C = B :<sup>1)</sup>

D qamuγ jayaγan-nuγud-tur töröl-iyen duradqu boltuγai :

E amitan бүкүн-дүр töröl-iyen duradqu boluγad :

F yabuqui-dur töröl-iyen duraduγei boltuγai :

1) PLB49, Mong 06.45 ::

(c)

A töröl tutum-dur үкүн<sup>1)</sup> yegüdken töröküi-dür<sup>2)</sup> :

生の各々において死んで移ろい生まれるにあたって,

1) R ügkүн 2) R, K 731 töröküi-dür-i

B töröl tutum-dur үкүн yegüdken töröküi-dür :

C töröl tutum-dur үкүн<sup>1)</sup> yegüdken<sup>2)</sup> töröküi-dür<sup>3)</sup> :

D = B :

E бүкү töröl tutum-dur үкүн yegüdken töröküi-dür :

F töröl tutum бүгүде-de бибер үкүн yegüdken: töröbesü

1) PLB 142 үкүд 2) K 1144 yegüdkeged 3) K 1144 töröl бүри-dür

(d)

A nasuda toyin bolqu minu boltuγai :<sup>1)</sup>

常に私の出家となることがあるがよい。

1) Mong 382, K 731 ::, R :: : ::

B nasuda ger-tečegen maγad γarqu minu boltuγai ::

C nasuda ger-tečegen<sup>1)</sup> maγad<sup>2)</sup> γarqu minu boltuγai ::

D = B ::

E nasuda bi inu maγad γarqu boltuγai ::

F aburida maγad γarun atuγai ::

1) PLB 183 gerte-ečegen 2) K 1144 ø

「私は菩提行によって修行して、輪廻転生する世界の各々において自分が生まれたことを憶念するがよい。そしてその各々において死んで移ろいまた転生する際には常に求法者となるがよい。」

不空訳 我当菩提修行時 於諸趣中憶宿命

若諸生中為生滅 我皆常當為出家

17 (a)

A qamuγ ilaγuγsad-i daγan<sup>1)</sup> surulčaγu :

一切諸仏に随い学んで

1) R, K 731 daγan

B ilaγuγsad-i daγan surulčaqui boluγad :

C qamuγ ilaγuγsad-i daγan<sup>1)</sup> surulčaqu boluγad :

D = qamuγ ilaγuγsad-i daγan surulčaqui boluγad :

E = D :

F ilaγuγsad bögüdeyi jorimaγlaγu surulčan :

1) K1144 daγan

(b)

A sayin yabudal-i oγoγata tegüsken üiledüged :

普賢行を完全に成就しようとして、

B sayin yaubdal-i oγoγata büged tegüskejü :

C sayin yabudal-i teyiken<sup>1)</sup> büged tegüskejü :<sup>2)</sup>

D sayin yabudal-i oγoγata tegüskejü :

E = D :

F buyan üile-yin yabudal-i oγoγata tegüsken :

1) K 1144, PLB 142 teyin, PLB 183, Mong 06.45 teyin ken



2) PLB 142 ø

(c)

A saṣṣabad-un<sup>1)</sup> yabudal gkir<sup>2)</sup> ügegüi-e oṟoṟata ariṟun bolṟu :

戒律の行いは汚れなく完全に清浄となって、

1) R šaṣṣabad 2) R kir

B šaṣṣabad-un yabudal minu gkir ügei oṟoṟata ariṟun boluṟad :

C saṣṣabad-iyar<sup>1)</sup> yabudal minu gkir<sup>2)</sup> ügei ariṟun boluṟad :

D saṣṣabad yabudal minu gkir ügei oṟoṟata ariṟun boluṟad :

E saṣṣabad-un yabudal gkir ügei oṟoṟata ariṟun :

F saṣṣabad-un yaubdal-i aldal ügei ariṟun :

1) PLB 142, 183 saṣṣabad, 他は šaṣṣabad 2) PLB 142 gker

(d)

A nausda ülü ebderen gem ügegüi-e yabuqu boltuṟai ::

永久に壊れず、あやまちなく修行するものとなるがよい。

B nasuda ülü baṟuran gem ügegüi-e yabuqu boltuṟai ::

C nasu ebderesi ügei gem ügegüi-e yabuqu boltuṟai ::

D = B ::

E ülü baṟuran gem ügegüi-e nasuda yabuqu boltuṟai ::

F ülü ebden gem-üd ügei yabuṟsaṟar atuṟai ::

「一切諸仏に随い学んで普賢行を実現し、戒にのっとった行いは無垢清浄でつねに乱れず、あやまちなく修行するがよい。」

不空訳 我随一切如来学 修習普賢円満行

常得出家修浄戒 無垢無欠無穿漏

18 (a)

A tngriš-ün +<sup>1)</sup> kiged luus-un<sup>2)</sup> yagsas-un kelen ba :

諸天の言葉と龍の、夜叉の言葉や、

1) 他は kelen 2) Mong 382 luus-un-luṟ-a

B tngriš-un luus-un čedküđ-ün kelen kiged :

- C tngriš-ün kelen kiged luus-un<sup>1)</sup> čidküđ-ün<sup>2)</sup> kelen :  
 D tngriš-ün kelen kiged gluuš ba yağš-a-yin kelen :  
 E tngriš-ün kelen kiged luus ba yağšas-un kelen :  
 F tngreyin(*sic*) kelen luus-un kelen yağsanar-un kelen ba :

1) PLB 183 luu-yin, 他は PLB 49 を除き luus ba 2) PLB 49,  
 Mong 06.45 yağšas-un

(b)

- A kümbendisün<sup>1)</sup> +<sup>2)</sup> ba<sup>3)</sup> daki<sup>4)</sup> kümün-ü kelen<sup>5)</sup> ba<sup>6)</sup> :

鳩槃荼のあるいはまた人間の言葉や,

1) 他は kümbendis-ün 2) K 731 kelen 3) I ø 4) K 731 ø 5) K 731  
 kelen-nügüd 6) K 731 kiged

B kümbendis-ün ba daki kümün-ü kelen ba :

C kumbandis-un<sup>1)</sup> ba<sup>2)</sup> +<sup>3)</sup> daki<sup>4)</sup> kümün-ü kelen ba :

D kümbendis-ün kelen kiged daki kümün-ü kelen-nügüd ba :

E kümbendis-ün kelen kiged kümün-ü kelen-nuγud<sup>5)</sup> ba :

F kümbedis-ün kelen kiged kümün büri-yin kelen ba :

1) K 1144 kumbandis, PLB49, 183 kümbedis-ün, 他は kümbendis-  
 ün 2) K1144 ø 3) Mong 06.45 : 4) PLB 142, Mong 06.45 を除き  
 daki 5) PLB 66 kelen-nügüd

(c)

- A qamuγ amitan-u kelen anu kedüi bügsen bügesü :

一切衆生の言葉はいかようであつたにせよ,

B qamuγ amitan-u kelen anu kedüi bügsen bügesü :

C = B :

D qamuγ amitan-u kelen inu kedüi бүкү bügesü :

E qamuγ amitan-u daγun kedüi činegen bügesü :

F amitan-u daγun-nuγud kedüi ausan(*sic*) bügesü :

(d)

A qamuγ-un kelen-iyer nom-i nomlasuγ-ai bi ::<sup>1)</sup>

一切の言葉によって法を説きたい、私は。

1) Mong 382:

B = A ::

C = A ::

D = A ::

E qamuγ-un kelen-dür nom-i üjegülsügei bi ::

F biber qamuγ kelen-iyer nom-i üjügülümüi ::

「天であれ龍であれ夜叉であれ鳩槃荼であれあるいはまた人間であれ、一切衆生の言葉が何であつたにせよ、各々の言葉によって私は説法したいものだ。」

不空訳 天語龍語藥叉語 鳩槃荼諸及人語

所有一切群生語 皆為諸音而說法

19 (a)

A maγad<sup>1)</sup> baramid-tur +<sup>2)</sup> kičiyegeḍ :

着実に波羅蜜において精進して、

1) K 731 amurlin 2) 他は sayitur

B amurlingγui boluγad baramid-nuγud-tur kičiyejü :

C = B :

D amurlingγui boluγad baramid-nuγud-tur sayitur kičiyejü :

E nomoγaduγad baramid-tur masi kičiyejü :

F amurliγad baramid-i oγoγata kičiyen :

(b)

A bodiçid<sup>1)</sup> sedkil<sup>2)</sup> kejiy-e ber ülü umurtaqui bolju :

菩提心をいつでも忘れないものとなり、

1) Mong 382 bodiçid-un, K 731 bovadhi çid 2) 他は sedkil-i

B bovadhiçid sedkil-i kejiy-e ber buu umurtasuγai :

C bodiçid<sup>1)</sup> sedkil-i<sup>2)</sup> kejiy-e ber ülü umartaqui<sup>3)</sup> bolju :<sup>4)</sup>

D bovadhiçid sedkil kejiy-e ber ülü umurtaqu bolju :

E bodi sedkil-i kejiy-e ber ülü umurtaqu bolju :

F bodiçid-i kejiy-e çu martal ügei boltuγai :

1) K 1144, PLB 49 bovadhiçid 2) Mong 06.45 sedkil 3) PLB  
142, 183 umartaqu, 他は umurtaqui 4) PLB 49 ø

(c)

A aliber<sup>1)</sup> kilinçe-nuγud-iyar<sup>2)</sup> +<sup>3)</sup> tüidker-tü boluγsan :

あらゆる罪障によって、障礙をもつことになったもの、

1) R, K 731 ali ber 2) K 731 kilinçe-nügüd-iyer 3) R :

B ali tedeger nigül kilinçe tüidügçi boluγsad :

C ali tedeger nigül kilinçe tüidügçi<sup>1)</sup> boluγsad :<sup>2)</sup>

D = C :

E aliba kilinçe tüidügçi boluγsan-nuγud :

F ali tere kilinçe-ber tüidkerlegsen бүгүде :

1) PLB49 tüiddügçi 2) Mong 06.45 ø

(d)

A tedeger ber qoçurli ügegüi-e oγoγata arilqu boltuγai ::

かれらも余すところなく完全に清浄になるがよい。

B qoçurli ügegüi-e teyin бүгед arilqu boltuγai ::

C = B ::

D qoçurli ügegüi-e tede бүгүде arilqu boltuγai ::

E tedeger qoçurli ügegüi-e oγoγata arilqu boltuγai ::

F qoçurli ügei oγoγata ariγudun oduγai ::

「罪を犯したことにより悟りが妨げられたものも、心を鎮め波羅蜜行につとめ菩提心を常に忘れないようにして、余すところなく罪や妨げがなくなるがよい。」

不空訳 妙波羅蜜常加行 不於菩提心生迷

所有衆罪及障礙 悉皆滅尽無有余

20 (a)

A jayaγan kiged nisvanis-un simnus-un<sup>1)</sup> ülesče<sup>2)</sup> :

趣と煩惱の惡鬼の所業から,

1) Mong 382 simlu-yin, K 731 simnu-yin 2) 他は üles-eče

B jayaγan kiged nisvanis-un simnus-un üles-eče :

C jayaγan-u nisvanis kiged simnu-yin üles-nügüd-eče :<sup>1)</sup>

D jayaγan kiged nisvanis-un simnu-yin üles-nügüd-eče

E üile kiged nisvanis ba simnu-yin üles-nügüd-eče +<sup>2)</sup>

F üile kiged nisvanis ba simnu-yin qamuγ üles-i :

1) Mong 06.45 ø 2) PLB 66 :

(b)

A tonilγad yirtinčü<sup>1)</sup> amitan<sup>2)</sup> bögüde-dür ber :

解脱して世間の衆生全てにあっては,

1) Mong 382 yirtinčü-yin 2) Mong 382 は以下29(c)までを欠く。

B tonilju yirtinčü-yin amitan-nuγud-tur ber :

C tonilju yirtinčü-yin amitan bögüde-dür ber :<sup>1)</sup>

D tonilju yirtinčü-yin amitan bögüde-dür :

E tonilju yirtinčüyin<sup>2)</sup> amitan-nuγud-tur ber :

F getülüged yirtinčü-de yabuqui-dur-ıyan bi :

1) PLB 142, 183 ø 2) PLB 66 yirtinčü-yin

(c)

A yambar badm-a lingqu-a<sup>1)</sup> usun-a ülü qaldaqu<sup>2)</sup> metü :

ちょうど蓮華が水につからないように,

1) R linqu-a, 2) R qaldaqui, K 731 qaldaγdaqu

B yambar lingqu-a-dur usun ülü toγtaqu metü ba :

C yambar usun-a ülü qaldaqu lingqu-a<sup>1)</sup> metü :

D yambarçılan usun-a ülü qaldaquı lingqu-a metü :

E yambar metü lingqu-a usun ülü qaldaqu metü :

F yambar badma usun ülü qaldan bükü yosuγar

1) PLB 183 linqu-a

(d)

A naran saran oγtarγui-dur ülü türidküi metü yabuqu boltuγai ::

太陽と月が空で妨げられないように、修行するものとなるがよい。

B oγtarγui-dur naran saran türidkü ügei metü yabuqu boltuγai ::

C oγtarγui-dur naran saran metü türidkel ügei yabusuγai ::<sup>1)</sup>

D = C :

E oγtarγui-dur naran saran dürbel ügei metü yabusuγai ::

F naran saran oγtarγui-bar odqu metü yabumui ::

1) PLB 49 :

「趣と煩惱という悪鬼の所業にも似たものから解脱して、世間の衆生全てに蓮華が水に浮きながらもつからず、また太陽と月が天空を何もののにも妨げられずに運行するように修行するがよい。」

不空訳 於業煩惱及魔境 世間道中得解脱

猶如蓮華不着水 亦如日月不着空

21 (a)

A yirtinčü ulus<sup>1)</sup> aγui<sup>2)</sup> kiged :<sup>3)</sup> kedüi büküi qamuγ jüg-üd-ün :<sup>4)</sup>

世間国土の広大にして、ありとあらゆる一切の方向の、

1) K 731 ulus-un 2) R anu 3) 他は ø 4) R ø

B yirtinčü ulus-un aγui inu kedüi bükü jüg-üd-ün :

C qoçurli ügei ulus-un<sup>1)</sup> eng kedüi bügesü :

D yirtinčü-yin orod-un aγui ba jüg-üd kedüi bükü :

E orod-un aγuu kiged kedüi bükü jüg-üd-ün :

F kedüi bükü orod-lus-a (sic) kedüi bükü jüg-üd-tür :

1) K 1144 orod-un

(b)

A ma<sub>7</sub>ui jaya<sub>7</sub>an-u jobalang-ud-i sayitur amurli<sub>7</sub>ulju :

悪趣の苦しみをたくみに安んじ,

B ɣurban ma<sub>7</sub>ui jaya<sub>7</sub>an-u jobalang-ud-i sayitur amurli<sub>7</sub>ulju :

C = A :

D = A :

E = A :

F ma<sub>7</sub>udu<sub>7</sub>san jobalang-i amurli<sub>7</sub>san bol<sub>7</sub>amui :

(c)

A qamu<sub>7</sub> amitan-i jir<sub>7</sub>alang-dur jokiya<sub>7</sub>ad :

一切衆生を安樂にあらしめて,

B qamu<sub>7</sub> amitan-i jir<sub>7</sub>alang-ud-tur jokiya<sub>7</sub>ad :

C = B ::

D = B ::

E = B ::

F jir<sub>7</sub>alang-dur qamu<sub>7</sub> ele amitan-i jokiyan :

(d)

A qamu<sub>7</sub> amitan-a tusalan yabuqu boltu<sub>7</sub>ai ::

一切衆生に益せんと修行するものになるがよい。

B bügüde amitan-u tusa-yi üiledkü boltu<sub>7</sub>ai :

C amitan bügüde-dür tusalan yabusu<sub>7</sub>ai ::

D = C ::

E = C ::

F qamu<sub>7</sub> ele amitan-dur tusala<sub>7</sub>u yabumui ::

「世間国土の広大なあらゆる方面において、悪趣の苦しみを安んじ、一切衆生を安樂にし、かれらに利益をもたらそうと修行するがよい。」

不空訳 諸惡趣苦願寂靜 一切群生令安樂  
於諸群生行利益 乃至十方諸刹土

22 (a)

A bodi<sup>1)</sup> yabudal-i oꝝoꝝata tegsuken üiledüged<sup>2)</sup> :

菩提行を完全に実現するようふるまって、

1) K 731 bovadhi 2) R üiledügsen

B bovadhi yabudal-i teyin büged tegüskejü bür-ün :

C bodi<sup>1)</sup> yabudal-i<sup>2)</sup> sayitur tegüskejü :

D bovadhi yabudal-i sayitur tegüskejü :

E bovadhi-yin yabudal-i oꝝoꝝata tegüsken üiledüged :

F erkim bodi yabudali oꝝoꝝata tegüsken :

1) K 1144, PLB 49 bovadhi 2) PLB 183 yabudali

(b)

A /amitan-u aburi-luꝝ-a/<sup>1)</sup> jokildun oroꝝu<sup>2)</sup> :

衆生の行状と合致して進み、

1) K 731 amitan-nuꝝud-un yabudal-luꝝ-a 2) R oroyu

B amitan-i aburi-dur inu jokiyān oroꝝuluꝝad :

C amitan bügüde-yin yabudal-luꝝ-a adali oroꝝad :

D amitan bügüde-yin yabudal-luꝝ-a jokildun oroꝝuluꝝad :

E amitan bügüde-yin yabudal-luꝝ-a jokildun oroꝝu :

F amitan-u yabudal-dur jokilduꝝad oromui :

(c)

A sayin yabudal-i ber sayitur üjügülüged :

普賢行をばたくみに教示して、

B sayin yabudal-nuꝝud-i sayitur uqaꝝulju :

C sayin yabudal-nuꝝud-i sayitur üjügüljü<sup>1)</sup> :

D = C :



E sayin yabudal-nu<sub>7</sub>ud-i sayitur üjegülüged :

F buyan üile-yin yabudal-i sayitur üjügülüged :

1) PLB 49, 183 üjegüljü

(d)

A irege edüi /galab-nu<sub>7</sub>ud da<sub>7</sub>ustalaber/<sup>1)</sup> yabuqu boltu<sub>7</sub>ai ::

未来劫が尽きるまでも修行するがよい。

1) 他は galab-nu<sub>7</sub>ud-tur kürtele

B irege edüi galab-ud-tur kürtele yabuqu boltu<sub>7</sub>ai ::

C qoyitu galab-tur qamu<sub>7</sub>-aça yabuqu boltu<sub>7</sub>ai :

D irege edüi galab-ud bükün-dür yabuqu boltu<sub>7</sub>ai ::

E = D :

F arügedüi(*sic*) galab-ud-tur yabun aqu boltu<sub>7</sub>ai ::

「菩提行を實踐し、衆生の行に随順して普賢行を教示し、未来永劫に至るまでも修行するがよい。」

不空訳 常行随順諸衆生 菩提妙行令円満

普賢行願我修行 我於未来劫修行

23 (a)

A minu yabudal-lu<sub>7</sub>-a adali yabu<sub>7</sub>çi ken bügestü :

私の修行と同じように修行するものが誰かいるなら、

B minu yabudal-lu<sub>7</sub>-a adali yabu<sub>7</sub>çi ken bügestü :

C minu yabudal-lu<sub>7</sub>-a adali ken yabu<sub>7</sub>çi bügestü :

D = B :

E minu yabudal-lu<sub>7</sub>-a adali yabu<sub>7</sub>çi ken :

F ali minu yabudal-dur adali-bar yabu<sub>7</sub>çi :

(b)

A tegün-lüge ber nasuda nököçekü boltu<sub>7</sub>ai ::<sup>1)</sup>

かれらとは常に親しくするがよい。

1) K 731 :

B tede-lüge ber nasu aburi-da nököçekü boltu<sub>7</sub>ai :

C tede-lüge ber nasu ürgül<sub>7</sub>ji nököçekü boltu<sub>7</sub>ai :<sup>1)</sup>

D tede-lüge ber nasu ürgül<sub>7</sub>jide nököçekü boltu<sub>7</sub>ai :

E tedeger-lüge nasuda nököçekü boltu<sub>7</sub>ai ::

F tede-lüge aburida nököçilden atu<sub>7</sub>ai :

1) PLB 142, 183, Mong 06.45 :

(C)

A bey-e<sup>1)</sup> kelen<sup>2)</sup> sedkil-iyer ber :

身体, 言葉, 心によってこそ,

1) R beyen 2) K 731 kelen-nügüd kiged

B bey-e kelen sedkil-nügüd-iyer :

C bey-e kelen kiged sedkil-iyer-iyen<sup>1)</sup> ber :

D bey-e kelen kiged sedkil-nügüd-iyer ber :

E bey-e kelen kiged sedkil-nu<sub>7</sub>ud-iyar<sup>2)</sup> ber :

F bey-e-lüge kelen-nügüd sedkil-iyer-iyen çu :

1) K 1144 sedkil-iyeren 2) PLB 66 sedkil-nügüd-iyer

(d)

A yabudal-lu<sub>7</sub>-a +<sup>1)</sup> irüger<sup>2)</sup> nigedken yabuqu boltu<sub>7</sub>ai ::

修行と請願を一体とするよう修行するものとなるがよい。

1) I adali 2) K 731 irüger-i

B yabudal-nu<sub>7</sub>ud kiged irüger-i nigedken yabu<sub>7</sub>u ::

C yabudal irüger minu ber qamtu yabusu<sub>7</sub>ai ::<sup>1)</sup>

D yabudal-nu<sub>7</sub>ud-lu<sub>7</sub>-a irüger-i nigedken yabu<sub>7</sub>u :

E yabudal-nu<sub>7</sub>ud kiged irüger-i nigedken yabusu<sub>7</sub>ai ::

F yabudal ba irügeli nigedke<sub>7</sub>jü yabumui ::

1) PLB 183 ø

「私と同じ修行をするものとは常に親しくするがよい。身体、言葉、心を通じて、修行と請願一致させるがよい。」

不空訳 所有共我同行者 共彼咸得常聚会  
於身口業及意業 同一行願而修習

24 (a)

A nadur tusa kürgen<sup>1)</sup> sedkigçi nököd ba :<sup>2)</sup>

汝に利益を至らせようと思う友達や、

1) I kürgegçi 2) K 731 ø

B nadur tusa kürgen sedkigçi sayin nököd :

C nadur tusa-yi küsegçi +<sup>1)</sup> nököd<sup>2)</sup> ber +<sup>3)</sup>

D nadur tusa-yi küsen nököčegçi nököd ber :

E nadur tusalaqui küsegçi nökör alin :

F ali nadur tusalaqui taγalaγçi baγsinar :

1) Mong 06.45: 2) K 1144 nököd-i 3) PLB 49, 142, Mong 06.45: ,  
PLB 183 .

(b)

A sayin yabudal-i sayitur<sup>1)</sup> üjügülügčid :

善き行いをたくみに教示する者たち、

1) R ø

B sayin yabudal-i maγad-iyar üjügül-ün nomlaγçi :

C sayin yabudal-i sayitur üjegülügčid<sup>1)</sup> :

D sayin yabudal-i sayitur üjügülün nomlaγçi :

E sayin yabudal-i sayitur üjegülügçi :

F bodisadba-yin yabudal-i sayitur üjügülügçi :

1) K 1144, PLB 49, Mong 06.45 üjügülügčid

(c)

A tede-lüge<sup>1)</sup> basa nasuda uçiraqu boltuγai ::<sup>2)</sup>

かれらともつねに親しむことになるがよい。

1) R tede, K 731 teden-lüge 2) R :

B tede-lüge ber nasu aburi-da učiraqu boltuγai ::

C tede-lüge nasu aburida učiraqu<sup>1)</sup> bolju<sup>2)</sup> :<sup>3)</sup>

D tede-lüge nasu aburida učiraqu boltuγai :

E tede-lüge ber nasuda učaraqu bolju :

F tede-lüge aburida učaraldun atuγai :

1) PLB 49 učaraqu 2) K 1144, PLB 49 boltuγai 3) K 1144 :

(d)

A kejiy-e ber /tende bi/<sup>1)</sup> sedkil-i +<sup>2)</sup> buu törögülsügei<sup>3)</sup> ::<sup>4)</sup>

いつもかれらに私は心を生むまい。

1) R tede, K 731 bi teden-ü 2) I bi 3) K 731 čökegöl-ün 4) R, K 731 :

B kejiy-e ber teden-ü sedkil-i buu čökögesügei :

C /kejiy-e ber/<sup>1)</sup> teden-ü<sup>2)</sup> sedkil-i<sup>3)</sup> buu čökögesügei<sup>4)</sup> ::<sup>5)</sup>

D = C ::

E kejiy-e ber teden-ü sedkil-i buu čökögesügei bi ::

F teden bi kejiy-e ču ülü čökegölümüi ::

1) PLB 49 biber kejiy-e ču 2) Mong 06.45 teden-i 3) K 1144 sedkili 4) Mong 06.45 čökegesügei 5) K 1144, Mong 06.45 :

「私に利益を及ぼそうと願う友人や、普賢行を教示してくれる人々とは常に親交を保つがよい。かれらの心を常にそこनावないようにしたいものだ。」

不空訳 所有善友益我者 為我示現普賢行

共彼常得而聚会 於彼皆得無厭心

25 (a)

A bodisdv-nar-iyar<sup>1)</sup> küriyelegülügen<sup>2)</sup> ilaγuγsan<sup>3)</sup> itegel-nuγud<sup>4)</sup> :

菩薩らに囲まれた諸仏救世尊ら、

- 1) K 731 bovadhi saduva-nar iyar 2) 他は küriyelegsen 3) K 731 ø  
4) K 731 itegel-nügüd

B bovadhi saduva-nar-iyar küriyelegsen itegel-nügüd :

C /bodisdv-nar-iyar/<sup>1)</sup> küriyelegsen<sup>2)</sup> itegel-nügüd<sup>3)</sup> : <sup>4)</sup>

D bovadhi saduva-nar-iyar küriyelegsen itegel

E bodisadu-a-nar-iyar küriyelegsen itegel-nuγud<sup>5)</sup> :

F bodisadu-yin küritü ilaγuγsan itegel :

- 1) K 1144, PLB 49 bovadhi saduva-nar-iyar 2) PLB 183 küriye-  
legtülügsen 3) Mong 06.45 itegel-nuγud 4) Mong 06.45 ø 5) PLB  
66 itegel-nügüd

(b)

A nasu<sup>1)</sup> ilete<sup>2)</sup> /namai ber/<sup>3)</sup> üjemüi + <sup>4)</sup>

常に眼前に私をば見る。

- 1) K 731 ø 2) K 731 ilede 3) R namayi ber, K 731 aburida bi ber  
ilaγuγsad-i 4) 他は :

B ilaγuγsad-i nasu ilede üjeγü bi :

C ilaγuγsad-i nasu ilete<sup>1)</sup> + <sup>2)</sup> üjeγü : <sup>3)</sup>

D ilaγuγsad-i : nasuda ilete üjijü bi :

E ilaγuγsad-i nasu ilerkei-e üjeγü bi :

F teden-i bi aburida ilerkei-e üjemüi

- 1) K 1144, PLB 49 ilede 2) PLB 49 bi ber 3) PLB 49 ø

(c)

A irege edüi + <sup>1)</sup> /galab-ud-un daγustalaber/<sup>2)</sup> uyidqar ügegüi-e + <sup>3)</sup>

未来劫の尽きるまで倦むことなく

- 1) R : 2) R galab-ud daγustala ber :, K 731 galab-ud бүкүн-дүр  
3) 他は :

B qoyitus galab-ud-tur kürtele uyidqar ügegüi-e :

C qoyitu galab-ud-tur kürtele +<sup>1)</sup> uyidqar ügegüi-e :<sup>2)</sup>

D irege edüi galab bükün-dür uyidqar ügegüi-e :

E = D :

F irügedüi qamuγ ele galab-ud-tur basa bi : ülü uyid(a)n

1) Mong 06.45 : 2) PLB 183 ø

(d)

A teden-e ber aγui yeke takili<sup>1)</sup> üiledsügei ::

かれらにこそ広大な供養を行いたい。

1) 他は takil-i

B teden-i ber aγui yekede takisuγai ::

C teden-e ber aγui yekede takisuγai :<sup>1)</sup>

D = B ::

E = B ::

F tedeger aγui yeke takimui ::

1) PLB 142 ø, 他は K 1144 を除き ::

「菩薩に囲まれた救世尊たる諸仏を、私は常に眼前に見る。未来永劫に至るまで倦むことなくかれらを広大に供養したいものだ。」

不空訳 常得面見諸如来 与諸仏子共円満

於彼皆興広供養 皆於未来劫無倦

26 (a)

A ilaγuγsad-un degedü nom-i bariγad :

諸仏の最上の法を受持して、

B ilaγuγsad-un degedü nom-i anu bariγad :

C ilaγuγsad-un sayin nom-i anu bariju +<sup>1)</sup>

D ilaγuγsad-un degedü nom-i anu bariju :

E ilaγuγsad-un degedü nom-i bariju :

F ilaγuγsan tedegerün boγda nom-i bariγad :

1) 他は :

(b)(c)

A bodi<sup>1)</sup> yabudal-iyar qamuγ-i geyigülün<sup>2)</sup> üiledcü :

sayin yabudal-i<sup>3)</sup> teyin büged yabuqui-bar<sup>4)</sup> :

菩提行によって一切を輝かそうとつとめ、普賢行を完璧に修行することによって、

1) K 731 bovadhi 2) 他は geyigül-ün 3) I yabudal-iyar 4) 他は bisil/aqui-bar

B bovadhi yabudal-i qamuγ-a geyigülüged :

sayin yabudal-i masida aril/aqui-dur ber :

C bodi<sup>1)</sup> yabudal-i masida bisil/aqui-bar +<sup>2)</sup>  
qamuγ-i geyigülüged +<sup>3)</sup> sayin yabudal-i +<sup>4)</sup>

D bovadhi yabudal-i qamuγ-a geyigülüged :  
sayin yabudal-iyar sayitur yabuqui-dur ber :

E bovadhi-yin<sup>5)</sup> yabudal bükün-i qamuγ-a geyigülüged :  
sayin yabudal-iyar sayitur yabuqui-bar :

F erkem bodi yabudal-i bügüde-de geyigülün :  
buyan üilen basa masi ariγudqal üleben :

1) K 1144, PLB 49 bovadhi 2) PLB 49, 142, 183 3) K 1144 :

4) PLB 49, 183 : 5) PLB 66 bodi-yin

(d)

A irege edüi galab-ud daγustalaber<sup>1)</sup> yabusuγai :<sup>2)</sup>

未来劫の尽きるまでも修行したい。

1) 他は daγustala ber 2) R :

B qoyitus galab-ud-tur yabun üiledsügei ::

C qoyitu galab-ud-tur kürtele üiledsügei ::

D irege ediü galab bükün-dür yabun üiledsügei ::

E = D :

F irügedüi qamuγ ele galab-tur yabumui ::

「仏の最上の法を受持し、菩提行により一切を輝かせ、普賢行にのっとり修行しながら、未来永劫に至るまで修行したいものだ。」

不空訳 常持諸仏微妙法 皆令光顯菩提行

咸皆清淨普賢行 皆於未來劫修行

27 (a)

A sansar tutum-dur orëiqui-dur-i<sup>1)</sup> :

輪廻の各々において流転するときには、

1) K 731 uëiraqui-dur ber

B qamuγ jayaγan-dur ber orëiqui-dur :

C /jayaγan-u ele/<sup>1)</sup> tutum uëiraqui-dur<sup>2)</sup> :

D töröküi töröl tutum orëiqui-dur :

E sansar bügüde-dür ber orëiqui-dur :

F qamuγ töröl abqu büri-yin orëiqui-dur-ıyan bi :

1) K1144 jayaγan 2) PLB 183 orëiqui-dur

(b)

A barasi ügei buyan belge<sup>1)</sup> bilig-i olju :

無尽の福德、智慧を得て、

1) I ø

B barasi ügei buyan belge bilig-i oluγad :

C barasi ügei buyan-u belge bilig-i oluγad :<sup>1)</sup>

D = B :

E = B :

F barasiügei buyan belge bilig-üd-i oltuγai :

1) PLB 183, Mong 06.45 ø

(c)

A arγ-a bilig diyan teyin tonilqui<sup>1)</sup> kiged :



方便, 般若, 禪定, 完全な解脱と,

1) R tonilqu

B ar<sub>γ</sub>-a bilig-ün samadi teyin tonilqui kiged :

C /ar<sub>γ</sub>-a bilig +<sup>2)</sup> teyin<sup>3)/1)</sup> tonilqui kiged :

D ar<sub>γ</sub>-a bilig samadi teyin tonilqui kiged :

E = D :

F ar<sub>γ</sub>-a bilig samadi ba naiman masi tonilqui :

1) PLB 142 ø 2) K 1144, Mong 06.45 diyan 3) Mong 06.45 ø

(d)

A qamu<sub>γ</sub> erdem-üd-iyer<sup>1)</sup> barasi ügei sang-tu boltu<sub>γ</sub>ai ::

一切の諸功德により無尽蔵となるがよい。

1) K 731 erdem-üd-ün

B qamu<sub>γ</sub> erdem-üd-ün barasi ügei sang inu bolqu boltu<sub>γ</sub>ai ::

C erdem-üd-ün olan jül sang-i<sup>1)</sup> inu olqu boltu<sub>γ</sub>ai ::<sup>2)</sup>

D = B :

E qamu<sub>γ</sub> erdem-ün barasi ügei sang inu boltu<sub>γ</sub>ai ::

F barasiügei erd(e)müd-ün yeke sang-tu boltu<sub>γ</sub>ai :

1) Mong 06.45 sang-yi 2) PLB 183:

「輪廻の各段階を流転するときには、無尽の福德と智を得て、方便, 般若, 禪定, 解脱等一切の功德が無尽蔵となるがよい。」

不空訳 於諸有中流転時 福德智慧得無尽

般若方便定解脱 獲得無尽功德蔵

28 (a)

A nigen to<sub>γ</sub>osun-u deger-e to<sub>γ</sub>osun-u<sup>1)</sup> to<sub>γ</sub>-a-bar /ulus<sup>2)</sup> bolju<sup>3)</sup> :

一粒の塵の上に塵の数だけ刹土があり,

1) I ø 2) I olan 3) K 731 oron-nu<sub>γ</sub>ud bolu<sub>γ</sub>ad

B nigen baramanu deger-e baramanus-un to<sub>γ</sub>-a-tan-u to<sub>γ</sub>-a-bar

ulus bolju :

C nigen baramanu<sup>1)</sup> deger-e<sup>2)</sup> baramanus-un toγabar<sup>3)</sup> + <sup>4)</sup> ulus<sup>5)</sup>  
bolju : <sup>6)</sup>

D nigen baram(a)nu-yin degere baraman-u-yin toγatan toγ-a-bar  
oron bolju

E nigen toγosun-u degere toγosun-u toγatan orod bolju :

F toγosun-a toγosun-u toγ-a büküi orod-tur :

1) K 1144, PLB 142 baraman-u 2) PLB 49 degere 3) PLB 142  
toγabar, 他は toγ-a-bar 4) Mong 06.45 : 5) K 1144 oron 6) PLB  
183 ø

(b)

A tede ulus-tur<sup>1)</sup> sedkiyü ülü baraγdaqu burqan-nuγud :

それらの刹土に考えても尽きない諸仏が,

1) K 731 oron-dur

B = A :

C tede ulus-tur<sup>1)</sup> sedkiyü ülü baraγdaqu<sup>2)</sup> burqan-nuγud : <sup>3)</sup>

D tede orod-tur sedkiyu ülü baraγdaqu burqan-nuγud :

E tede orod-tur sedkisi ügei burqan-nuγud :

F orod büri burqan-nuγud sedkisiügei tügemel :

1) K 1144 oron-dur 2) PLB 72 bariγdaqu, K 1144, Mong 06.45  
baraγdaqui 3) K1144, PLB 142, 183 ø

(c)

A bodisdv-nar-un<sup>1)</sup> dumda<sup>2)</sup> saγun büküi-dür-i<sup>3)</sup> : <sup>4)</sup>

菩薩らの只中に坐しているときに,

1) K 731 bovadhi saduva-nar-un 2) I ø 3) 他は büküi-dür 4) R ø

B burqan-u ..s-un<sup>1)</sup> dumda anu saγuγsan-dur

C bodisdv-nar-un<sup>2)</sup> dumda anu saγuju + <sup>3)</sup> bükün-ü ilete<sup>4)</sup>

D bovadhi saduva-nar-un dumda anu saγuγsan-dur :

E bodisadu-a-narun dumda saγuγsan-dur :

F burqad būri bodisadu-yin dumda inu aγsan-a :

1) 判読不能 2) K 1144, PLB 49 bovadhi saduva-nar-un, PLB 142 bodi sadva-nar-un, PLB 183 bodi saduva-nar-un, Mong 06.45 bodisdv-narun 3) K 1144 : 4) K 1144, PLB 49 ilete

(d)

A bodi<sup>1)</sup> yabudal-iyar<sup>2)</sup> yabun üjesügei<sup>3)</sup> ::

菩提行によって修行し、観じたい。

1) K 731 bovadhi 2) I yabudal ken ei 3) K 731 üjisügei

B bovadhi yabudal-iyar yabun üjisügei bi ::

C bodi<sup>1)</sup> yabudal-i bütügen yabuγu üjesügei<sup>2)</sup> bi ::

D bovadhi yabudal-iyar yabuγu üjesügei bi ::

E bovadhi-yin yabudal-iyar yabuγu üjesügei bi ::

F bodiçad-un yabudal-i yabuγsaγar üjemüi ::

1) K 1144, PLB 49 bovadhi 2) K 1144 üjisügei

「一粒の塵の上にまた塵の数にも等しい無数の刹土があり、そこに考えても考え尽くせぬ程の無数の仏が菩薩の只中に坐している様子を、菩提行によって修行して観じたいものだ。」

不空訳 如一塵端如塵仏 彼中仏刹不思議

仏及仏子坐其中 常見菩提勝妙行

29 (a)

A ter-e<sup>1)</sup> metü qoçurli ügei qamuγ jüg-üd-tür<sup>2)</sup> ber :

そのように余すところない一切諸方においても、

1) 他は tere 2) I jüg-üd

B tere metü qoçurli ügei bügüde jüg-tür ber :

C tere metü qoçurli ügei bügüde jüg-tür :<sup>1)</sup>

D = B :

E = B :

F tere metü qoçurlügei qamuγ ele jüg-tür ču :

1) PLB 183 ø

(b)

A kilγasun-u<sup>1)</sup> tedüi aγui-dur :<sup>2)</sup> γurban čaγ-un činegeber<sup>3)</sup> :

毛ほどの大きさにおいて、三世の量にも等しい、

1) R kilγasun-un 2) 他は ø 3) 他は činege-ber

B kilγasan-u tedüi eng-dür γurban čaγ-un činege-ber :

C ker kilγasun-u tedüi eng-dü γurban čaγ-un činege-ber<sup>1)</sup> :<sup>2)</sup>

D = B :

E kilγasun-u tedüi eng-dür γurban čaγ-un kemjiy-e kedüi бүkü :

F kilγasun-u tedüi eng-dür γurban čaγ-un činegen :

1) PLB 72 čwyk'b'r, PLB 49, Mong 06.45 činegeber 3) PLB 142 ø

(c)

A dalai metü<sup>1)</sup> burqan-nuγud dalai metü<sup>1)</sup> ulus<sup>2)</sup> kiged :

大海の如き諸仏、大海の如き刹土と、

1) Mong 382 metü 2) K 731 orod

B dalai metü burqan-nuγud dalai metü ulus-tur :

C dalai metü burqan-nuγud dalai metü ulus-tur<sup>1)</sup> +<sup>2)</sup>

D = B :

E dalai metü burqan kiged dalai metü orod ba :

F dalai metü burqan-luγ-a dalai metü orod ba :

1) K 1144 oron-dur 2) 他は :

(d)

A dalai metü<sup>1)</sup> /galab-ud daγustalaber<sup>2)</sup>/<sup>3)</sup> yabuγad sayitur orosuγai ::

大海の如き劫が尽きるまで修行して、たくみに悟入したい。

1) Mong 382 metü 2) R, Mong 382 daγustala ber 3) K 731 galab-ud-tur

B dalai metü galab-ud-tur kürtele oroldun yabusuγai ::

C dalai metü galab-ud-tur kürtele üiled-ün<sup>1)</sup> yabusuγai ::<sup>2)</sup>

D = B ::

E dalai metü galab-tur yabuγad sayitur orosuγai ::

F dalai metü galab-ud-tur yabun masi oromui ::

1) K 1144 üleddün, 他は PLB 49 を除き üiledün 2) K 1144:

「そのように余すところなく一切諸方において、毫末に至るまでも、過去、現在、未来の三世にわたり、大海のように広大な諸仏、刹土、劫が尽きるまで、修行し没入したいものだ。」

不空訳 如是无尽一切方 於一毛端三世量

仏海及与刹土海 我入修行諸劫海

30 (a)

A γaγča jarliγ-un üyes<sup>1)</sup> dalai metü<sup>2)</sup> keleber<sup>3)</sup> :

ただひとことの節々が大海のようである言葉によって、

1) R üyes 2) Mong 382 metü 3) R kelen ber, K 731 ayaγu-bar

B nigen üge-yin bölüg inu dalai metü daγun-iyar :

C nigen üge-dür-iyen bölüg<sup>1)</sup> inu +<sup>2)</sup> dalai metü daγun-iyar :<sup>3)</sup>

D nigen jarliγ-un gesigün dalai metü daγun-iyar :

E nigen jarliγ-un gesigün dalai metü daγun-iyar :

F nigen jarliγ dalai metü gesigün-ü daγu-bar :

1) K 1144 üyes 2) PLB 183: 3) PLB 142, 183 ø

(b)

A qamuγ ilaγuγsad-un egesig-ün üyes<sup>1)</sup> teyin büged ariluγsan :

一切諸仏の音声の節々が完璧に浄まった、

1) R üyes

B qamuγ ilaγuγsad-un masi ariluγsan egesig-ün gesigün-i :

C qamuγ ilaγuγsad<sup>1)</sup> ariγun daγun-u bölüg-i<sup>2)</sup> :<sup>3)</sup>

D = C

E qamuγ ilaγuγsad-un teyin ariluγsan egesig-ün gesigün-i :

F ilaγsad-un egesig-ün moče masi ariγun :

1) PLB 49 を除き ilaγuγsad-un, 2) K 1144 oyuγ-i, Mong 06.45  
bölüg-yi 3) Mong 06.45 ø

(c)

A qamuγ amitan-u sedkil-ün yosuγar boluγči egesig :

一切衆生の意のままとなる音声である,

B amitan-u sedkil-dür yambar taγalaqui egesig ber :

C amitan-u sedkil-dür yambar<sup>1)</sup> taγalaqui-bar boluγči :<sup>2)</sup>

D amitan-u sedkil-dür yambar taγalaqui egesig-tü :

E qamuγ amitan-u sanal yambarčılan egesig-tü :

F amitan-u sanal yambar yosuγar kü egesig :

1) PLB 142 ø 2) PLB 142 ø

(d)

A burqan-u jarliγ-tur<sup>1)</sup> nasuda oroldusuγai ::

仏の言葉に永久に入りたい。

1) R jarliγ-tu

B = A ::

C = A ::

D = A ::

E burqan-u jarliγ-tur nasuda orosuγai ::

F burqan baγsi-yin jarliγ-ud-tur abur(i)da oromui ::

「ひとことのはしばしまでもが大海のように広大な言葉によって、はしばしまでもが清浄で一切衆生の意のままの声である仏の言葉に永久に没入したいも

のだ。」

不空訳 於一音声功德海 一切如来清浄声  
一切群生音楽声 常皆得入仏弁才

31 (a)

A  $\gamma$ urban ča $\gamma$ -un<sup>1)</sup> qamu $\gamma$  ila $\gamma$ u $\gamma$ sad +<sup>2)</sup>

三世の一切諸仏

1) K 731 ča $\gamma$ -tur iregsen 2) Mong 382, K 731 ber :

B  $\gamma$ urban ča $\gamma$ -un qamu $\gamma$  ila $\gamma$ u $\gamma$ sad бүгүдегер :

C = B :

D  $\gamma$ urban ča $\gamma$ -tur ačira $\gamma$ san qamu $\gamma$  ila $\gamma$ u $\gamma$ sad бүгүдегер :

E  $\gamma$ urban ča $\gamma$ -tur iregsen ila $\gamma$ u $\gamma$ sad бүгүде :

F  $\gamma$ urban ča $\gamma$ -tur jalara $\gamma$ či ila $\gamma$ u $\gamma$ sad бүгүде :

(b)

A nom-un kürdün-i sayitur orči $\gamma$ ulu $\gamma$ san :

法輪をたくみに転じたもの,

B nom-un kürdün-ü yosun-i sayitur orči $\gamma$ ulu $\gamma$ san-iyar :

C olan jüil nom-un kürdün-i orči $\gamma$ ulu $\gamma$ san

D nom-un kürdün-ü yosun-i sayitur orči $\gamma$ ulu $\gamma$ san :

E kürd-ün-ü yosun-nu $\gamma$ ud-i sayitur erkigülügen :

F kürdü-yin yosu-nu $\gamma$ ud-i ču masi erkigülügen :

(c)

A teden-ü barasi ügei /jarli $\gamma$ -un egesig-tür/<sup>1)</sup> anu<sup>2)</sup> +<sup>3)</sup>

かれらの無尽の言葉の音声に,

1) I egesig-ün jarli $\gamma$  2) Mong 382 inu, K 731 ø 3) 他は :

B teden-i ber barasi ügei jarli $\gamma$  da $\gamma$ un-dur anu :

C teden-e be :<sup>1)</sup> barasi ügei jarli $\gamma$  da $\gamma$ un-dur anu :<sup>1)</sup>

D teden-ü barasi ügei jarli $\gamma$  da $\gamma$ un-dur anu

E tedeger-ün barasi ügei jarliγ egesig-tür :

F tedeger-ün jarliγ üyes baraγdasi ügei-dür :

1) PLB 142 ø

(d)

A oyun-u küčün-iyer biber<sup>1)</sup> ülemji oroldusuγai ::

智慧の力によって私はさらに没入したい。

1) 他は bi ber

B oyun-u küčün-iyer bi ber maγad oroldusuγai ::

C oyun-u küčün-iyer +<sup>1)</sup> /bi ber/<sup>2)</sup> maγad oroldusuγai ::

D = B :

E oyun-u küčün-iyer biber sayitur orosuγai ::

F biber oyin-u küčün-iyer oγuγata oromui ::

1) Mong 06.45 : 2) K 1144, PLB 49, Mong 06.45 biber

「過去，現在，未来の三世の一切諸仏が法輪を転じて説法するときのあの尽きぬ言葉の音声の中に，私は智慧の力を通じて一層没入したいものだ。」

不空訳 於彼無尽音声 中 一切三世諸如来

常転理趣妙輪時 於我慧力普能入

32(a)

A irege edüi galab бүгүде-дүр oroqui-dur-i<sup>1)</sup> :

未来劫の全てに入る際には

1) 他は oroqui-dur

B qoyitus galab-ud бүгүде-дүр orolduqui-bar :

C qoyitus galab-ud +<sup>1)</sup> бүгүде-дүр orolduqui-bar :

D irege edüi galab-ud бүгүде-дүр orolduqui-bar :

E irege edüi galab бүкүн-дүр oroqui-bar :

F irügedüi qamuγ galab oroqui-dur-ıyan ɛu :

1) Mong 06.45 :



(b)

A γaγča nigen gsan-u<sup>1)</sup> tedüyiken-iyer<sup>2)</sup> biber<sup>3)</sup> oroldusuγai ::<sup>4)</sup>

一刹那のうちに私は悟入したい。

1) K 731 gšan-u 2) Mong 382 tedüyi ken-iyer 3) R, Mong 382, K 731 bi ber 4) Mong 382, K 731 :

B nigecken gsan-u čaγ-tur bi ber oroldusuγai :

C nigecken gsan-u<sup>1)</sup> čaγ-tur /bi ber/<sup>2)</sup> orosuγai :<sup>3)</sup>

D nigecken gšan-u čaγ-tur bi ber orosuγai :

E nigen gšan nigen-dür biber oroγad :

F biber basa nigen nige agšim-iyar oromui :

1) K 1144, PLB 49, Mong 06.45 gšan-u 2) K 1144, PLB 49, Mong 06.45 biber 3) Mong 06.45::

(c)

A basa aliber<sup>1)</sup> galab-ud<sup>2)</sup> γurban čaγ-un čaγ činege<sup>3)</sup> +<sup>4)</sup> tedeger-i<sup>5)</sup> :<sup>6)</sup>

またあらゆる劫、三世の時の時の量だけのそれらを、

1) R ali ber, K 731 ali ba 2) Mong 382 は以下 37(d) まで欠く。

K 731 galab-ud-un 3) I činegeber 4) I: 5) I tedeger-e 6) I ø

B ali tede γurban čaγ-un galab-un činege-yi :

C = B :

D = B :

E alin ber γurban čaγ-un kemjij-e-tü galab tedeger-tür :

F ali galab γurban čaγ-un kemjijeltü teden-dür

cf. TIIT662 ali tede γurban čaγ-un.....-yi

(d)

A nigen gsan-u<sup>1)</sup> qubi büged-iyer /saγun üiledsügei<sup>3)</sup>/<sup>2)</sup> ::

一刹那の分で坐すべく修行したい。

1) K 731 gšan-u 2) K 731 oron edlesügei 3) R üiledtügei

- B nigen gsan-u qubi-dur büged oron yabusuγai ::
- C nigen gsan-u<sup>1)</sup> qubi-dur büged oroju üiledsügei ::
- D nigen gšan-u qubi-dur büged oron yatusuγai ::
- E nigen gšan-u qubi-dur ber oron yabusuγai ::
- F nigen agšim qubis-iyar orolduju yabumui ::

1) K 1144, Mong 06.45 gšan-u

cf. TIIT662 nigen gsan-u qubi-du.....üiledsügei

「未来劫の全てに悟入する際には一刹那に悟入したいものだ。またあらゆる劫，過去，現在，未来の劫にも一刹那で悟入するよう修行したいものだ。」

不空訳 以一刹那諸如来 我入未来一切劫

三世所有無量劫 刹那能入俱胝劫

33 (a)

A ali γurban čaγ-un sayitur oduγsan :<sup>1)</sup> kümün-ü<sup>2)</sup> arslan +<sup>2)</sup>

三世の善逝にして人の獅子である

1) 他は ø 2) 他は :

- B γurban čaγ-tur açiraγsan ali kümün-ü arslan-nuγud-i :
- C γurban čaγ-un irekün tede kümün-ü arslan-nuγud-i :<sup>1)</sup>
- D γurban čaγ-tur iregsen ali kümün-ü arslan-nuγud :
- E γurban čaγ-tur iregsen kümün-ü arslan alin :
- F γurban čaγ-tur jalar(a)γči burqan baγsi alimad :

1) K 1144, Mong 06.45 ø

cf. TIIT662 γurban čaγ-un.....kümün-ü arslan-nuγud

(b)

A tedeger γaγča nigen gsan-dur<sup>1)</sup> büged /bi ber/<sup>2)</sup> üjeγü<sup>3)</sup> :

かれらを唯の一刹那に私が見て，

1) K731 gšan-dur 2) I namai 3) R üjüjü

B tedeger nigecken gšan-u čaγ-tur : büged üjisügei bi :

C nigeken gsan-u<sup>1)</sup> čaγ-tur büged üjesügei /bi :/<sup>2)</sup>

D tedeger-i nigeken gšan-u čaγ-tur büged üjesügei bi :

E tedeger-i :<sup>3)</sup> nigen gšan nigen-dür biber üjejü :

F teden-i bi nigen nige agšim-iyar üjemüi :

1) K 1144, PLB 49, Mong 06.45 gšan-u 2) Mong 06.45 ::

3) PLB 66 ø

cf. TH1662.....čaγ-tur üjesügei

(c)

A nasuda teden-ü +<sup>1)</sup> visai-dur +<sup>2)</sup>

常にかれらの境地に幻影が生じるのを

1) K 731 yabudal-un 2) R :

B nasuda teden-ü yabuγdaqui orod-tur :

C nasuda teden-i yabuγdaqu činadu orod-tur :

D nasuda tedeger-ün yabuqu orod-tur :

E nasuda tedeger-ün yabudal oron-dur :

F abur(i)da tedeger-ün edlegdekü oron-dur

(d)

A yelvi boluγsan +<sup>1)</sup> teyin tonilqu<sup>2)</sup> küčün-iyer orosuγai ::

完璧に解脱する力によって悟入したい。

1) K 731 : 2) R tonilqu

B yelvi metü-yi medeküi küčün-iyer orosuγai ::

C = B ::

D yelvi metü üjekü teyin tonilqu-yin küčün-iyer orosuγai ::

E yelvi boluγsan teyin tonilqu-yin küčün-iyer orosuγai ::

F yelvi-yin masi toniluγsan küčün-iyer oromui ::

「過去，現在，未来の三世にわたる善逝であり獅子にも等しい諸仏を私は一刹那に見て，幻影が生じるのを解脱する力を通じて，常に仏の境地に没入した

いものだ。』

不空訳 所有三世人師子 以一刹那我威見

於彼境界常得入 如幻解脫行威力

34 (a)

A basa aliber<sup>1)</sup> γurban čaγ-un /oron-i jokiyaγsad/<sup>2)</sup> :

また、三世の世間を莊嚴したもの、

1) R ali ber, K 731 ali ba 2) K 731 orod-un jokiyal-i

B ali tere γurban čaγ-un yirtinčü-yin oron-u jokiyal-i :

C ali tere γurban čaγ-un yirtinčü ulus-un<sup>1)</sup> yosun bügüde-yi :<sup>2)</sup>

D = B

E alin ber γurban čaγ-ud-un oron-u jokiyal-i :

F γurban čaγ-un ali oron jokiyangγui teden-i :

1) K 1144 oron-u 2) PLB 142 ø

(b)

A tedeger nigen toγosun-u<sup>1)</sup> deger-e ilete<sup>2)</sup> bütügeyü<sup>3)</sup> :

それらを一粒の塵の上にはっきりと実現するのである。

1) R toγosun 2) 他は ilede 3) K 731 bütügejü

B tedeger nigen baramad-un deger-e ilede bütügesügei :

C nigen baramanu<sup>1)</sup> deger-e ilete<sup>2)</sup> bütügesügei :

D tedeger nigen baraman-u degere ilete bütügesügei :

E tedeger-i nigen toγosun-u degere ilete bütügejü :

F tere nigen toγosun-dur ilerkei-e bolγamui :

1) PLB 142 baraman-u 2) K 1144, PLB 49 ilede

(c)

A tere metü qočurli ügei qamuγ jüg-üd-tür :

そのように余すところなく一切諸方において、

B tere metü qočurli ügei bügüde jüg-teki :

C tere metü qoçurli ügei bügüde jüg-tekin :

D = B :

E tere metü qoçurli ügei jüg-üd bügüde-de +<sup>1)</sup>

F tere metü qoçurliügei qamuγ ele jüg-üd-tür :

1) PLB66 :

(d)

A ilaγuγsad-un /orod-i jokiyaqui-dur-i<sup>2)</sup>/ <sup>1)</sup> oroldusuγai ::

仏の界に莊嚴しつつ没入したい。

1) K 731 orod-un jokiyal-dur 2) R jokiyaqui-dur

B ilaγuγsad-un oron-i jokiyaqui-dur oroldusuγai ::

C ilaγuγsad-un ulus-i<sup>1)</sup> jokiyaqui-dur<sup>2)</sup> oroldusuγai :: <sup>3)</sup>

D ilaγuγsad-un oron-nuγud-i jokiyaqui-dur oroldusuγai ::

E ilaγuγsad-un oron-nuγud-un jokiyal-dur orosuγai ::

F ilaγsad-un oron-nuγud jokiyal-dur oromui ::

1) K 1144 oron-i 2) PLB 183 jokiyaqui-bar 3) PLB 142 ø

「また、過去、現在、未来の三世にわたる世界を莊嚴したものを一粒の塵の上にも明瞭に実現し、そのように余すところない一切諸方において莊嚴しつつ、仏界に没入したいものだ。」

不空訳 所有三世妙嚴刹 能現出生一塵端

如是無尽諸方所 能入諸仏嚴刹土

35(a)

A bas-a<sup>1)</sup> aliber<sup>2)</sup> irege edüi<sup>3)</sup> ber yirtinčü-yin jula-nuγud<sup>4)</sup> :

また、未来の世間の燈である、

1) 他は basa 2) R ali ber, K 731 ali ba 3) K 731 edügüi

4) I jula-nuγud-i

B ked ber irege edügüi čaγ-taki yirtinčü-yin jula-nuγud :

C ked ba irege edüi čaγ-taki yirtinčü-yin jula-nuγud :<sup>1)</sup>

D = C :

E alin ber irege edüi yirtinčü-yin jula-nuγud :

F ali basa irügedüi yirtinčüs-ün jula-nar :

1) PLB 142 ø

(b)

A tede jergeber<sup>1)</sup> burqan bolju +<sup>2)</sup> nom-un<sup>3)</sup> kürdün-i orčiγuluγad :

かれらが、次第にのっとり成仏し、法輪を転じて、

1) 他は jerge-ber 2) R: 3) 他は ø

B tede jerge-ber burqan bolju kürdün orčiγuluγad :

C tede<sup>1)</sup> jerge-ber<sup>2)</sup> burqan bolju +<sup>3)</sup> kürdün orčiγuluγad :

D = B :

E tede jerge-ber burqan bolju kürdün-i erkigülüged +<sup>4)</sup>

F ulam-iyar burqan bolju nom-un kürdü jokıyan :

1) Mong 06.45 tende 2) PLB 49, 183, Mong 06.45 jergeber

3) PLB 142 : 4) PLB 66:

(c)

A sayitur amurliγsan /ečüs nirvan-i/<sup>1)</sup> +<sup>2)</sup> üjügülügči :

完全に安んじた究竟の涅槃を教示するものである、

1) K 731 nirvan-u kijaγar-i 2) R:

B masida amurliγsan nirvan-u kijaγar-i üjügülügči :

C masida amurliγsan nirvan-u kijaγar-a üjegülügči<sup>1)</sup> :<sup>2)</sup>

D = B :

E masida amurliγsan nirvan-u ečüs-i üjegülügči :

F önggerejü nirvan-u tuyıl-i üjügülügči :

1) K1144, PLB 49 üjügülügči 2) Mong 06.45 ø

(d)

A itegel-nuγud-un<sup>1)</sup> dergede odsuγai<sup>2)</sup> bi ::

救世尊らのもとに私は行きたい。

1) K 731 itegel-nügüd-ün 2) R *bwlwv*<sup>”y</sup>

B itegel-nügüd-ün dergede anu kürgesügei bi ::

C itegel-nügüd-ün dergede anu<sup>1)</sup> kürgesügei bi<sup>2)</sup> ::

D = B ::

E itegel-nügüd-ün dergede odsu<sub>7</sub>ai bi ::

F tere qamu<sub>7</sub> itegel-ün dergede ba<sub>7</sub>udumui

1) K 1144 inu 2) Mong 06.45 ø

「また、未来世間の燈明であり、菩提次第にのっとり成仏し、法輪を転じ説法して、心が安んじた涅槃の極致を教示する救世尊である仏のもとに私は行きたいものだ。」

不空訳 所有未来世間燈 彼皆覺悟轉法輪

示現涅槃究竟寂 我皆往詣於世尊

36 (a)

A qamu<sub>7</sub>-a<sup>1)</sup> türgen ridi qubil<sub>7</sub>an-u küčün kiged :

遍く疾い神通の力と、

1) 他は qamu<sub>7</sub>-ača

B qamu<sub>7</sub>-ača türgen ridi qubil<sub>7</sub>an-u küčün-nügüd :

C qamu<sub>7</sub>-ača ödter ridi küčün-nügüd<sup>1)</sup> :

D qamu<sub>7</sub>-ača ödter ridi qubil<sub>7</sub>an-u küčün-nügüd :

E qamu<sub>7</sub>-a türgen ridi qubil<sub>7</sub>an-u küčün-nügüd kiged :

F qamu<sub>7</sub>-ača türgen ridi qubil<sub>7</sub>an-u küčün ba :

1) Mong 06.45 küčün-nu<sub>7</sub>ud

(b)

A qamu<sub>7</sub>-ača /inu egüden/<sup>1)</sup> bolu<sub>7</sub>san kölgen-ü küčün ba :

遍き門となった乗の力や

1) 他は qa<sub>7</sub>al<sub>7</sub>-a

B qamuγ-ača qaγalγ-a boluγsan kölged-ün küčün ba :

C = B :<sup>1)</sup>

D = B :

E qamuγ-ača qaγalγ-a-yin kölgen-ü küčün-nügüd ba :

F qamuγ-ača egüden-ü kölge-yin küčün-nügüd ba :

1) PLB 142 ø

(c)

A qamuγ-a /erdem-i yabuγuluγči/<sup>1)</sup> küčün-nuγud<sup>2)</sup> ba :<sup>3)</sup>

遍く功德を行ぜしめる力や,

1) K 731 erdem-iyer yabuγči 2) K731 küčün-nügüd 3) R ø

B qamuγ-ača erdem yabuqu-yin küčün-nügüd :

C qamuγ-a<sup>1)</sup> erdem yabuqui küčün-nügüd :<sup>2)</sup>

D qamuγ-a erdem-ün yabuqui küčün-nügüd :

E qamuγ-a erdem-ün yabuqui küčün-nügüd kiged :

F qamuγ-ača erdem бүкүй yabudal-un küčün ba :

1) Mong 06.45 qamuγ 2) PLB 142, Mong 06.45 ø

(d)

A qamuγ-a түгемел болуγsan asaraqui sedkil-ün küčün ba :<sup>1)</sup>

遍く広がった慈の心の力や,

1) R ::

B qamuγ-a түгемел asaraqui-yin küčün-nügüd :

C qamuγ-a күрүгсен asaraqui sedkil-ün küčün-nügüd :<sup>1)</sup>

D = C ::

E qamuγ-a түгегсен asaraqui-yin küčün-nügüd ba :

F qamuγ-ača түгемел-ün asaraqui küčün ba :

1) PLB 49 を除き ::

「即座にどこへでも行ける神通力, 四方に通じた門のように悟りに到達させ



る乗の力、遍く功德を行なわせる力、もれなく広範囲にわたる慈心の力や」

不空訳 以神足力普迅疾 以乘威力普遍門

以行威力等功德 以慈威力普遍門

37 (a)

A qamuγ-ača buyan kesig-ün küčün kiged :

遍き福恩の力と、

B qamuγ-ača sayin buyan-u küčün-nügüd :

C = B : <sup>1)</sup>

D = B :

E qamuγ-ača sayin buyan-u küčün-nügüd kiged :

F qamuγ-ača buyan бүкүй qutuγ kesig küčün ba :

1) Mong 06.45 ø

(b)

A tačiyangγui ügei boluγ-san belge bilig-ün küčün ba :

執着のなくなった智の力や、

B tačiyangγui-ača qaγačaγ-san belge bilig-ün küčün kiged :

C = B : <sup>1)</sup>

D = B

E torqu ügei boluγ-san belge bilig-ün küčün ba :

F torqu ügei boluγ-san-u belge bilig küčün ba :

1) Mong 06.45 ø

(c)

A arγ-a bilig kiged diyan-u küčün-iyer :

方便、般若と三昧の力によって、

B belge bilig arγ-a kiged diyan-u küčün-nügüd-iyer :

C bilig arγ-a kiged + <sup>1)</sup> diyan-u küčün-nügüd-iyer : <sup>2)</sup>

D = C :

E bilig arɣ-a kiged samadi-yin küčün-nügüd-iyer :

F bilig arɣ-a tegünčilen samadis-un küčü-ber :

1) PLB 49, 183 : 2) PLB 142 ø

(d)

A bodičid-un<sup>1)</sup> küčün-nuɣud-i<sup>2)</sup> ünen-iyer<sup>3)</sup> bütügesügei<sup>4)</sup> ::

菩薩の力を真に成就したい。

1) K 731 bovadhičid-un 2) K 731 küčün-nügüd-i 3) K 731 üneker

4) R bütüsügei

B bovadhi küčün-nügüd-i maɣad bütügesügei ::

C bodi<sup>1)</sup> küčün-nügüd-i<sup>2)</sup> maɣad bütügesügei ::

D bovadhi-yin küčün-nügüd-i maɣad bütügesügei ::

E bovadhi-yin küčün-nügüd-i üneker bütügesügei ::

F bodi-yin küčün-nügüd-i bi bütügegei boltuɣai ::

1) K 1144, PLB 49 bovadhi 2) PLB 72 mɯɣyc'-nügüd-i

「遍き福恩の力，無着の智慧の力，方便，般若，禪定の力によって，菩薩の力を成就したいものだ。」

不空訳 以福威力普端嚴 以智威力無着門

般若方便等持力 菩提威力皆積集

38 (a)

A jayaɣan-u küčün-nuɣud-i<sup>1)</sup> oɣoɣata arılɣan üiledüged<sup>2)</sup> :

業の力を完璧に浄めようとして，

1) K 731 küčün-nügüd-i 2) K731 üleddüged

B üiles-ün küčün-nügüd-i oɣoɣata arılɣaju :

C kilinčes-ün<sup>1)</sup> küčün-nügüd-i teyin büged arılɣaju :<sup>2)</sup>

D = B :

E = B :

F üile-yin küčün-nügüd-i bi oɣoɣata arılɣan :

1) K 1144 üile-yin 2) PLB 142 ø

(b)

A nisvanis-un küčün-nügüd-i +<sup>1)</sup> darun üiledcü :

煩惱の力を抑えようとし,

1) K 731 qotala-da

B nisvanis-un küčün-nügüd-i qamuγ-ača daruγad :

C nisvanis-un<sup>1)</sup> küčün-nügüd-i oγoγata daruγad +<sup>2)</sup>

D = B :

E nisvanis-un küčün-nügüd bükün-i daruγad :

F nisvanis-un küčün-i bi qamuγ-ača ebdemüi :

1) PLB72 nisvanis-i 2) 他は :

(c)

A simnus-un<sup>1)</sup> küčün-nügüd-i ülemji küčün ügei bolγaγad :

悪鬼の力を一層無力となして,

1) Mong 382 simlu-sun

B simnus-un küčün-nügüd-i küčün ügei bolγaju :

C = B :<sup>1)</sup>

D = B :

E simnus-un küčün-nügüd-i sayitur küčün ügei bolγaju :

F simnu-yin küčün-nügüd-i bi küčün ügei bolγaγad :

1) PLB 142 ø

(d)

A sayin yabudal-un küčün-i tegüskən<sup>1)</sup> üiledsügei ::

普賢行の力を円満しようとつとめたい。

1) K731 tegüsi

B sayin yabudal-un küčün-i sayitur tegüskesügei ::

C sayin yabudalun<sup>1)</sup> küčün-i tegüskesügei ::

D sayın yatudal-un küčün-i tegüskestügei ::

E = B ::

F sayın-u buyan küčün-i bi bürin tegüs bolıamui ::

1) 他は yabudal-un

「業力を清浄とし、煩惱の力を抑え、悪鬼の力を無力となし、普賢行の力を円満したいものだ。」

不空訳 皆於業力而清浄 我令摧滅煩惱力

悉能降伏魔羅力 円満普賢一切力

39 (a)

A dalai metü<sup>1)</sup> /yirtiñcü ulus-i<sup>2)</sup>/ <sup>2)</sup> teyin büged arılγaγad :

大海のような利土を完全に浄めて、

1) Mong 382 metü 2) K 731 orod-i 3) Mong 382 ulus

B dalai metü yirtinčü ulus-i arılγaγu :

C dalai metü ulus-i arılγaγu +<sup>1)</sup>

D dalai metü yirtinčü-yin orod-i sayitur arılγaγu :

E dalai metü oron-nuγud-i sayitur arılγaγad :

F dalai metü orod-nuγud oγuγata arılγan :

1) PLB 142 を除き :

(b)

A dalai metü<sup>1)</sup> amitan-i<sup>2)</sup> teyin büged tonılγasuγai :

大海のような衆生を完全に解脱させたい。

1) Mong 382 metü 2) K 731 amitan-nuγud-i

B dalai metü amitan-nuγud-i tonılγasuγai ::

C dalai metü amitan-i tonılγasuγai :<sup>1)</sup>

D dalai metü amitan-nuγud-i sayitur tonılγasuγai :

E dalai metü amitan-nuγud-i teyin büged tonılγaγu :

F dalai metü amitan-i getülgejü γarγamui :

1) Mong 06.45 ::

(c)

A dalai metü<sup>1)</sup> nom-ud-i sayitur üjeged<sup>2)</sup> :

大海のような諸法をたくみに観じて、

1) Mong 382 metü 2) R üjügülged

B dalai metü nom-ud-i sayitur üjeged :

C dalai metü nom-ud-i sayitur üjeged<sup>1)</sup> :

D = B :

E = B :

F dalai metü nom-ud-i bi oγoγata üjeged :

1) PLB 183 üjer-ün

(d)

A dalai metü<sup>1)</sup> belge bilig-i masida<sup>2)</sup> uqaγu<sup>3)</sup> üiledsügei ::

大海のような智慧を大いに悟ろうとつとめたい。

1) Mong 382 metü 2) R masi 3) K 731 uqan

B dalai metü belge bilig-i masida uqaγu :

C dalai metü belge bilig-i<sup>1)</sup> masida<sup>2)</sup> uqaγu ::<sup>3)</sup>

D = B ::

E = B ::<sup>4)</sup>

F dalai metü belge bilig todorqai-a onumui ::

1) Mong 06.45 bilig 2) Mong 06.45 "syö" 3) K1144, PLB 142,  
183 :: 4) PLB 66 :

「大海のように広大な刹土を清浄にし、大海のように広大な衆生を解脱させたいものだ。大海のように広大な法を観じ、大海のように広大な智慧を悟りたいものだ。」

不空訳 普令清浄刹土海 普能解脱衆生海

悉能觀察諸法海 乃以德源於智海

40 (a)

A dalai metü<sup>1)</sup> yabudal-nuγ-ud-i teyin büged arılγan üiledüged<sup>2)</sup> :: <sup>3)</sup>

大海のような諸行を完全に浄めようとして

1) R metü 2) K 731 üleddüged 3) 他は :

B dalai metü yabudal-nuγ-ud-i ariγun bolγaγad :

C dalai metü yabudal-nuγ-ud ariγun boluγad :

D dalai metü yabudal-i masi ariγun bolγaγad :

E dalai metü yabudal-i sayitur arılγan üiledüged :

F dalai metü yabudal-i ariγun-a üiledün :

(b)

A /dalai metü<sup>2)</sup> irüger-i<sup>3)</sup> oγuγata tegüsken üiledsügei :: <sup>4)</sup>/<sup>1)</sup>

大海のような願を完璧に円満しようとつとめたい。

1) R ø 2) Mong 382 metü 3) Mong 382 irügeri 4) Mong, 382, K731 :

B dalai metü irüger qutuγ-i daγusqaγu :

C dalai metü +<sup>1)</sup> irüger qutuγ-i<sup>2)</sup> daγusqaγu<sup>3)</sup> :

D dalai metü irüger qutuγ-i sayitur tegüskejü :

E dalai metü irüger-i sayitur tegüskejü :

F dalai metü irügel-i bürin tegüs bolγamui ::

1) Mong 06.45 qutuγ-i 2) PLB 183 qutuγ 3) K 1144 tegüskejü

(c)

A dalai metü<sup>1)</sup> burqan-nuγ-ud-ta<sup>2)</sup> ülemji takil<sup>3)</sup> üleddüged<sup>4)</sup> :

大海のような仏に対し一層供養をなして、

1) Mong 382 metü 2) I burqan-nuγ-ud-un, Mong 382 burqan-nuγ-ud-a

3) R takil-i 4) R üiledüged

B dalai metü burqan-nuγ-ud-ta takil üiledüged :

C dalai metü burqan-nuγ-ud-ta<sup>1)</sup> takil +<sup>2)</sup> üiledüged<sup>3)</sup> + <sup>4)</sup>

D dalai metü burqan-nuγ-ud-ta üneker takil üiledüged :

E dalai metü burqan-nuγud-tur takil üiledüged :

F dalai metü burqan-a : bi takil sayitur üiledün :

1) PLB 49 burqan-nuγud-a 2) PLB 183 takil 3) PLB 49 üiled-  
düged 4) PLB 142 を除き :

(d)

A dalai metü<sup>1)</sup> galab-ud-ta<sup>2)</sup> uyidqar ügegüi-e yabusuγai ::

大海のような劫において倦むことなく行じたい。

1) Mong 382 metü 2) I galab-ud-i, Mong 382 galab-ud-a

B dalai metü galab-ud-tur uyidqar ügei yabusuγai ::

C dalai metü galab-ud-ta<sup>1)</sup> uyidqar ügei yabusuγai ::

D = B ::

E dalai metü galab-tur uyidqar ügei yabusuγai ::

F dalai metü galab-ud-tur uyidqar ügei yabumui ::

1) PLB 49 galab-ud-a, PLB 142 galab-ud-un

「大海のように広大な修行を清浄にし、大海のように広大な願を円満したい  
ものだ。大海のように広大な仏に供養し、大海のように広大な劫において倦む  
ことなく修行したいものだ。」

不空訳 普令行海咸清浄 又令願海咸円満

諸仏海会咸供養 普賢行劫無疲倦

41 (a)

A basa aliber<sup>1)</sup> γurban čaγ-un ilaγuγsad-un +<sup>2)</sup>

また三世の諸仏の

1) R ali ber, K 731 ali ba 2) 他は :

B ali tere γurban čaγ-un ilaγuγsad-un :

C ali tere γurban /čaγ-un/<sup>1)</sup> ilaγuγsad :<sup>2)</sup>

D = B :

E alin ber γurban čaγ-tur iregsen ilaγuγsad-un :

F ali basa γurban čaγ-tur jalar(a)γči burqad-un :

1) K 1144 čaγ-tur ačaraγsan 2) PLB 142 ø

(b)

A bodi<sup>1)</sup> yabudal-un irüger-ün ilγal-nuγud<sup>2)</sup> +<sup>3)</sup> :

菩提行の願の分別を,

1) K 731 bovadhi 2) R ayimaγ-nuγud 3) I ba

B bovadhi yabudal-daki irüger-ün ilγal-nuγud :

C bodi<sup>1)</sup> yabudal-daki irüger-nügüd-ün : <sup>2)</sup> ayimaγ-a +<sup>3)</sup>

D bovadhi yabudal-daki irüger-ün ilγal-nuγud-i :

E bovadhi-yin<sup>4)</sup> yabudal-un irüger-ün ilγal-nuγud :

F bodi-yin tula yabun büküi irügel-ün ilγal-i :

1) K 1144, PLB 49 bovadhi 2) PLB 49, Mong 06.45 を除き ø

3) K1144: 4) PLB 66 bodi

(c)

A sayin yabudal-un<sup>1)</sup> bodičid-iyar<sup>2)</sup> burqan bolju :

普賢行の菩提心によって成仏し,

1) Mong 382, K 731 yabudal-iyar 2) Mong 382 bodi, K 731 bovadhi-dur

B sayin yabudal-iyar burqan-u qutuγ-i olju :

C = B :

D sayin yabudal-iyar yabun burqan-u qutuγ-i olju :

E sayin yabudal-iyar bovadhi-dur burqan bolju :

F buyan üilesün yabudal-bar buri burqan bolju bi :

(d)

A tede bügüde-yi biber<sup>1)</sup> qoçurli ügei tegüskesügei ::

それら全てを私は余すところなく円満したい。

1) 他は bi ber



- B tede ele bügüde-yi qoçurli ügei tegüskesügei ::  
 C tede ele bügüde-yi bi qoçurli ügei tegüskesügei<sup>1)</sup> ::<sup>2)</sup>  
 D tede bügüde-yi bi qoçurli ügei tegüskesügei ::  
 E tere bükün-i biber qoçurli ügei tegüskesügei ::  
 F tedeger-i qoçurliügei bürin tegüs bolγ(a)mui ::

1) PLB 183 tegüskuesübei (*sic*) 2) PLB 49 :

「普賢行によって修行し悟りを開き成仏して過去、現在、未来の仏の菩提行の願の差別を全て余すところなく私は実現したいものだ。」

不空訳 所有三世諸如来 菩提行願衆差別  
 願我円満悉無余 以普賢行悟菩提

42(a)

A qamuγ ilaγuγsad-un köbegüd-ün aqamad anu<sup>1)</sup> +<sup>2)</sup>

一切諸仏の息子のうちで最年長の

1) Mong 382 inu, K 731 ø 2) 他は :

B qamuγ ilaγuγsad-un aqamad köbegün : anu :

C qamuγ ilaγuγsad-un aqamad köbegün anu : <sup>1)</sup>

D = C :

E qamuγ ilaγuγsad-un aqamad köbegün :

F qamuγ ele ilaγuγsad-un köbegüd-ün aqamad :

1) PLB 142, 183 ø

(b)

A ken-ü ner-e inu samantabadari<sup>1)</sup> kemegdekü +<sup>2)</sup>

名は普賢と言われるもの

1) K 731 samantabadra 2) 他は :

B ken-ü ner-e samanta badr-a kemegdekü bügesü :

C ken-ü ner-e<sup>1)</sup> samantabadari<sup>1)</sup> kemegdekü bügesü :

D ken-ü ner-e samantabadr-a kemegdekü bügesü :

E ken-ü ner-e<sup>2)</sup> inu /samanta badari/<sup>8)</sup> kemegdekü :

F ken-ü ner-e küntüsangbo kemegdekü bügesü :

1) K 1144 PLB 49 samantabadr-a, PLB 183 samanta'n (*sic*)

badari 2) PLB 66 nere 3) PLB 66 samanta-badari

(c)

A tere mergen-luγ-a<sup>1)</sup> adali yabuquyin<sup>2)</sup> tula :

あの知者と同様に行ずるため、

1) K 731 mergen-lüge 2) Mong 382 yabuqui-yin, 他は yabuqu-yin

B tere mergen-lüge adali yabuqu-yin tulada :

C tere mergen-luγ-a<sup>1)</sup> adali yabuqu-yin tulada :

D = B :

E tere mergen-lüge adali yabuquyin<sup>2)</sup> tula

F tere mergen-lüge sača yabun aqu-yin tulada :

1) K 1144, PLB 49, 183 mergen-lüge 2) PLB 66 yabuqu-yin

(d)

A edeger бүгүде buyan-nuγud-i sayitur jorin irügemüi ::

これら全ての福德をたくみに回向せんと願う。

B ede ele buyan-nuγud-ıyan maγad jorimui bi ::

C ede ele +<sup>1)</sup> buyan-ıyan masida<sup>2)</sup> /irügen jorimui/<sup>8)</sup> ::

D ede buyan-nuγud-ıyan maγad irügen jorimui ::

E edeger buyan бүгүде-yi sayitur jorimui ::

F ene qamuγ buyad-ıyan masi sayitur jorimu ::

1) PLB 183 : 2) PLB 183 を除いて maγad 3) K 1144 jorin  
irügemüi

「一切諸仏の長子で名を普賢という知者と同じ修行をするために、これら全ての福德を回向したいと思う。」

不空訳 諸仏如来有長子 彼名号曰普賢尊

皆以彼慧同妙行 回向一切諸善根

43 (a)

A bey-e<sup>1)</sup> kelen sedkil<sup>2)</sup> ber ari<sub>7</sub>un bolu<sub>7</sub>ad :

身体, 言葉, 心は清浄であって,

1) Mong 382, R beyen 2) K 731 ø

B ari<sub>7</sub>un bey-e kelen kiged sedkil-tü bolu<sub>7</sub>ad :

C ari<sub>7</sub>un bey-e kelen sedkil-tü bolu<sub>7</sub>ad :

D bey-e kelen kiged sedkil masi arilu<sub>7</sub>ad :

E bey-e kelen sedkil ber teyin ari<sub>7</sub>un bolu<sub>7</sub>ad :

F bey-e keln sedkil inu o<sub>7</sub>o<sub>7</sub>ata ari<sub>7</sub>un :

(b)

A yabudal +<sup>1)</sup> ari<sub>7</sub>un bol<sub>7</sub>u :<sup>2)</sup> /orod ber/<sup>3)</sup> o<sub>7</sub>o<sub>7</sub>ata arilu<sub>7</sub>san :

行いも清浄であり, 刹土も完璧に清浄な,

1) 他は ber 2) 他は ø 3) R orod-tur

B ari<sub>7</sub>un yabudal kiged ari<sub>7</sub>un yirtinčü ulus-tur :

C ari<sub>7</sub>un yabudal kiged ari<sub>7</sub>un yirtinčü ulus-tur<sup>1)</sup> :

D ari<sub>7</sub>un yabudal kiged yirtinčü-yin oron-i aril<sub>7</sub>aqui-a :

E yabudal teyin arilu<sub>7</sub>ad oron o<sub>7</sub>o<sub>7</sub>ata ari<sub>7</sub>un :

F yabudal ba oron-nu<sub>7</sub>ud arilu<sub>7</sub>san bülüge :

1) K 1144 oron-dur

(c)

A sayin irüger-tü<sup>1)</sup> bo<sub>7</sub>da mergen yambarčılan bügesü :

良き誓願をもった聖なる知者がどのようなであっても,

1) R irüger-tür

B sayin irüger-tür mergen yambar küküi ber :

C sayin irüger-tü<sup>1)</sup> bo<sub>7</sub>da<sup>2)</sup> mergen yambar büküi ber :<sup>3)</sup>

D sayin irüger-iyer ari<sub>7</sub>ui-a mergen yambarčılan

E sayin irüger-tür mergen ker adali :

F joriqui-dur mergen tere yambar aγsan bügesü :

1) K 1144, Mong 06.45 irüger-ün 2) K 1144 ø 3) PLB 142 ø

(d)

A biber<sup>1)</sup> tegün-luγ-a<sup>2)</sup> adali boltuγai ::

私もかれと同じであるがよい。

1) 他は bi ber 2) K 731 tegün-lüge

B bi ber tegün-lüge kü adali bolqu boltuγai ::

C tegündür<sup>1)</sup> adali /bi ber/<sup>2)</sup> tegün-lüge<sup>3)</sup> adali bolqu boltuγai ::

D bi ber tegün-lüge adali bolqu boltuγai ::

E tere metü biber tegün-lüge adali boltuγai ::

F biber basa tegün-lüge saçalaldun atuγai ::

1) 他は tegün-dür 2) K 1144, PLB 49, Mong 06.45 biber 3) PLB 142 tegün-dür

「身体、言葉、心が清浄で、行いも清浄で、刹土もまた清浄であり、良き誓願をもった聖なる知者、かの普賢と私は同様であるがよい。」

不空訳 身口意業願清浄 諸行清浄刹土浄

如彼智慧普賢名 願我於今尽同彼

44 (a)

A qamuγ-ača sayin buyan-iyan yabuquyin<sup>1)</sup> tulada :

遍く善である福德を行じするため

1) Mong 382 yabuqui-yin, 他は yabuqu-yin

B qamuγ-ača sayin buyan-i üiledkü-yin tulada :

C qamuγ-ača sayin buyan-i üiledkü-yin<sup>1)</sup> tulada : <sup>2)</sup>

D = B :

E qamuγ-ača sayin buyan-iyan yabuquyin tula :

F qamuγ-ača buyan sayin-i edlen aqu-i-yin tula bi :

1) K 1144 yabudal-un, Mong 06.45 üiledküi-yin

2) Mong 06.45 ø

(b)

A mañjusiri-yin<sup>1)</sup> irügeri<sup>2)</sup> üiledsügei<sup>3)</sup> :

文殊師利の誓願を行ないたい。

1) K 731 mañjuśrī-yin 2) R, K 731 irüger-i 3) R üledtügei

B mañjusri-yin irüger qutuγ-i bütügesügei :

C mañjusiri-yin<sup>1)</sup> irüger qutuγ-i bütügesügei<sup>2)</sup> :<sup>3)</sup>

D mañjuśrī-yin irüger qutuγ-i bütügesügei :

E mañjuśrī-yin irüger-iyer yabun üiledüged :

F mañjuśiri bodisadu-yin küsel möri edlemüi :

1) K 1144, PLB 49, 142 mañjuśrī-yin, PLB 183, Mong 06.45

mañjisiri-yin 2) K 1144 yabusuγai 3) Mong 06.45 ::

(c) A irege edüi galab-ud daγustalaber<sup>1)</sup> uyidqar ügegüi-e<sup>2)</sup> :

未来劫が尽きるまでも倦むことなく,

1) 他は daγustala ber 2) Mong 382 ø

B qoyitus galab-ud-tur kürtele uyidqar ügegüi-e :

C = B :<sup>1)</sup>

D irege edüi galab-ud бүкүн-дүр uyidqar ügegüi-e :

E irege edüi galab бүкүн-дүр uyidqar ügegüi-e

F irigedüi galab-ud-tur үлү uyiddun

1) PLB 142, 183 ø

(d)

A tegün-ü üilesi<sup>1)</sup> qoçurli ügei tegüskesügei bi ::

その行いを余すところなく私は円満したい。

1) R, K 731 üiles-i

B tegün-ü üiles-i qoçurli ügei daγusqasuγai bi ::

C tegünü<sup>1)</sup> üiles-i qoçurli ügei daγusqasuyai ::

D = B ::

E tegünü üiles-i<sup>2)</sup> qoçurli ügei tegüskesügei bi ::

F tegünü : üiles-üd-i qoçurliügei bürin tegüs bolγamui :

1) PLB 49, Mong 06.45 を除き tegün-ü 2) PLB 66 üilesi

「遍く善である福德を修行するため、文殊師利の誓願を修行したいものだ。  
未来永劫にわたって倦むことなく、私はその修行を余すところなく円満したい  
ものだ。」

不空訳 普賢行願普端嚴 我行曼殊室利行

於諸未來劫無倦 一切圓滿作無倦

45 (a)

A yabudal-nuγud ber üilil ügei boluγad<sup>1)</sup> :

修行も無量となって、

1) K 731 boluγai

B yabudal-un činege minu ügei boluγad :

C yabudal-nuγud /činegen minu/<sup>1)</sup> ügei boluγad :

D yabudal-nuγud inu kemjiyen ügei boluγad :

E yabudal-nuγud inu kemjiy-e ügei boluγad :

F minu nigen yabudal-ud kemjil ügei boluγai :

1) K 1144 inu kemjiy-e

(b)

A erdem-üd ber /čaγlaju ülü/<sup>1)</sup> bolqu boluγai ::<sup>2)</sup>

功德も量り知れぬようになるがよい。

1) K 731 čaγlasi ügei 2) 他は :

B erdem-üd-i ber činan yadaqu kü boluγai ::

C erdem-üd-i ber /čidaqu kü/<sup>1)</sup> boluγai :<sup>2)</sup>

D erdem-nügüd ber kemjiy-e ügei boluγai :

E erdem-nuγud<sup>89</sup> ber kemjij-e ügei boltuγai :

F erdem-üd ču kemjil baril ügei bolun odtuγai :

1) K 1144 čaγlan bariqu ügei 2) Mong 06.45 :: 3) PLB 66  
erdem-nügüd

(c)

A čaγ ügei yabudal-dur orosiγad :

無量の修行に安住して,

B čaγ ügei yabudal-nuγud-iyar yabuγu bi :

C čaγ ügei /yabudal-nuγud-iyar yabuγu/<sup>13</sup> ber :

D čaγ ügei yabudal-nuγud-iyar yabuγu бүрүн :

E kemjij-e ügei yabudal-dur orosiγu бүрүн :

F kemjil ügei yabudal ba erdem-üd-tür orosin :

1) K 1144 yabudal-nuγud-tur orosibasu

(d)

A teden-ü qamuγ qubilγan-i<sup>13</sup> medesügei bi ::

それらの一切の神変を私は知りたい。

1) I, R qubilγan-u

B = A ::

C = A ::<sup>13</sup>

D tedeger qamuγ araγan-i medesügei bi ::

E tedeger qamuγ qubilγan-i egerin üiledsügei ::

F tedegerin qamuγ ele üile-yi erimüi ::

1) PLB 142 ø, Mong 06.45 ;,

「私のおさめた修行も福德も量り知れぬほどになるがよい。量り知れぬ修行のはてに、それらの神変一切を私は知りたいものだ。」

不空訳 所修勝行無能量 所有功德不可量

無量修行而住已 尽知一切彼神通

46 (a)

A oγtarγui-yin<sup>1)</sup> kijaγar anu<sup>2)</sup> kedüi činegen bolbasu<sup>3)</sup> :

虚空の辺際はいかほどであっても,

1) R oγtarγu-yin 2) K 731 toroγ 3) Mong 382, K 731 bügesü

B oγtarγui-yin kijaγar anu kedüi bolbasu ele :

C oγtarγu-yin<sup>1)</sup> kijaγar anu kedüi bolbasu ele :<sup>2)</sup>

D = C :

E oγtarγui-yin kijaγar kedüi činegen bolbasu :

F köke möngke-yin jiq-a turuγ kedüi aγsan bügesü :

1) PLB 142 oγtarγui-yin 2) PLB 142, Mong 06.45 ø

(b)

A qoçurli ügei amitan-u kijaγar ber tegünčilenkü<sup>1)</sup> bui :

無余の衆生の辺際もそれだけである。

1) 他は tegünčilen kü

B qamuγ amitan-u qoçurli ügei kijaγar ber tegünčilen kü bui :

C qamuγ amitan-u kijaγar ber tegünčilen kü bui :

D amitan-u kijaγar ber tegünčilen kü bui :

E qamuγ amitan-u kijaγar ber tegünčilen büged :

F amitan-u jiq-a turuγ tegünčilen bülüge :

(c)

A jayaγan nisvanis-un kijaγar kedüi činegen bolbasu<sup>1)</sup> :

業, 煩惱の辺際がいかにあつてあれ,

1) Mong 382 bügesü

B kilinče nisvanis-un kijaγar inu kedüi bolbasu :

C kilinče<sup>1)</sup> nisvanis-un kijaγar anu kedüi bolbasu :

D ulin kiged nisvanis-un kijaγar anu kedüi bolbasu :

E ulin kiged : nisvanis-un kijaγar kedüi bolbasu :



F üile kiged nisvanis-un jiq-a kedüi bügestü :

1) K1144 jaya<sub>7</sub>an kiged

(d)

A minu irüger-ün kija<sub>7</sub>ar anu tedüi kü boltu<sub>7</sub>ai<sup>1)</sup> ::

私の誓願の辺際はそれだけあるがよい。

1) K 731 bolai

B minu irüger-ün kija<sub>7</sub>ar inu ber kedüi kü boltu<sub>7</sub>ai ::

C minu irüger-ün<sup>1)</sup> kija<sub>7</sub>ar anu ber tedüi kü boltu<sub>7</sub>ai ::

D minu irüger-ün kija<sub>7</sub>ar anu tedüikü boltu<sub>7</sub>ai ::

E minu irüger-ün kija<sub>7</sub>ar ber tedüi činegen boltu<sub>7</sub>ai ::

F minu küsel mörün jiq-a tedüi bolun odu<sub>7</sub>ai ::

1) PLB 142 irügerün

「虚空のはてがどれほどであれ、無余の衆生も同様にはてしが無い。業、煩惱のはてがどれほどであれ、私の誓願も同様にはてしが無い。」

不空訳 乃至虚空得究竟 衆生無余究竟然

及業煩惱乃至尽 乃至我願亦皆尽

47 (a)

A basa<sup>1)</sup> aliber<sup>2)</sup> arban жүг-үн kija<sub>7</sub>alal ügei orod-taki<sup>3)</sup> :<sup>4)</sup>

またあらゆる十方の無辺の刹土にある、

1) R, K 731 ø 2) R ali ber, K 731 ali ba 3) R orod-taki K 731 orod-i

4) K 731 ø

B ked ba kija<sub>7</sub>alal ügei arban жүг-үн orod-i

C ken ba kija<sub>7</sub>alal ügei arban жүг-үн yirtinčüs-i<sup>1)</sup> :<sup>2)</sup>

D alimad kija<sub>7</sub>alal ügei arban жүг-үн orod-i :

E alimad arban жүг-үн kija<sub>7</sub>alal ügei orod-i :<sup>3)</sup>

F ken ber ene arban жүг-үн kija<sub>7</sub>ar ügei orod-i :

1) K 1144 orod-i 2) PLB 49, 183, Mong 06.45 ø 3) PLB 66 ø

(b)

A /erdeni čimeg-üd-i ber<sup>2)</sup> qamuγ/<sup>1)</sup> ilaγuγsad-ta<sup>3)</sup> /ergügsen ba/<sup>4)</sup> :

宝や莊嚴をも一切衆仏にささげたことや,

1) K 731 erdenis-iyer čimejü 2) R ø 3) Mong 382 ilaγuγsad-a

4) R, Mong 382 ergümüi, K 731 ergüged

B erdeni-ber čimejü ilaγuγsad-ta öggüged :

C erdeni-ber čimejü ilaγuγsad-ta<sup>1)</sup> öggüged :<sup>2)</sup>

D erdeni-ber čimejü ilaγuγsad-a ergüged :

E erdeni-ber čimejü ilaγuγsad-tur ergüged

F erdeni-ber čimeglejü ilaγsad-tur ergüged

1) PLB 49 ilaγuγsad-a 2) PLB 49 ø

(c)

A tngri +<sup>1)</sup> kümün-ü degedü jirγalang-ud-i ber :

天や人の最勝の安樂をば,

1) 他は kiged

B = A :

C = A :<sup>1)</sup>

D = A :

E tngri kümün-ü degedü jirγalang-ud-i ber :

F kümün kiged tngri-ün erkim jirγal-nuγud-i :

1) Mong 06.45 ø

(d)

A ulus-un<sup>1)</sup> toγosun-u<sup>2)</sup> toγatan<sup>3)</sup> galab-ud-tur ergügsen-eče<sup>4)</sup> ::

刹土の塵の数の劫においてささげたことから,

1) K 731 orod-un 2) I, Mong 382 toγosun 3) Mong 382 toγa-tan

4) R ergügsen-iyer

B ulus-un baramanus-un toγa-bar galab-ud-tur öggügsen-eče ber ::

C ulus-un<sup>1)</sup> baramanus-un<sup>2)</sup> toγ-a-bar<sup>3)</sup> galab-ud-tur öggügsen-eče  
ber +<sup>4)</sup>

D orod-un baraman-u toγ-a-bar galab-ud-tur ergügsen-eče ber ::

E orod-un toγosun-u toγatan galab-tur ergügsen-eče :

F siroi metü olan galab ergün aγ-san-ača ču ::

1) K 1144 orod-un 2) PLB 142 baramad-un 3) Mong 06.45  
toγabar 4) PLB 49 :, 他は ::

「またあらゆる方角のはてしない刹土にある財宝、莊嚴を一切衆仏に寄進したことや、天や人の最上の安樂を刹土の塵の数にも等しい無限の劫において寄進したことによって」

不空訳 若有十方無辺刹 以宝莊嚴施諸仏

天妙人民勝安樂 如刹微塵劫捨施

48 (a)

A ken<sup>1)</sup> irüger-ün ene qaγan-i sonosuγad :

誰か誓願のこの王を聴聞したものが、

1) R ken-ü

B ken tere irüger-ün ene qaγan-i sonosču :

C ken +<sup>1)</sup> tere irüger-ün ene qaγan-i sonosču :<sup>2)</sup>

D ken ene irüger-ün qaγan-i sonosču :

E ken ber ene irüger-ün qaγan-i sonosču :

F ken ber ene irügel-ün qaγan nom-un sonosču :

1) K 1144, Mong 06.45 ber 2) K 1144, PLB 142 ø

(b)

A degedü bodiçid-i<sup>1)</sup> daγan<sup>2)</sup> ülemji bisireged :

最勝の菩提心にしがって一層信心して、

1) Mong 382 bodi-çid-i, K 731 bovadhiçid-i 2) R, K 731 daγan

B degedü bovadhi qutuγ-i daγan bayasun taγalaγad :

C degedü qutuγ-i<sup>1)</sup> daγan<sup>2)</sup> bayasun taγalaγad : <sup>3)</sup>

D degedü qutuγ-i daγan bayasun taγalaγad

E bovadhī-yin<sup>4)</sup> degedü-yi daγan sayitur bisireged :

F erkim bodi-yin qutuγ-ača oγoγata bisiren :

1) Mong 06.45 qutuγ 2) K1144 daγan 3) K 1144 ø 4) PLB66  
bodi-yin

(c)

A nigen /tedüi ken/<sup>1)</sup> ber bisirel-i törögülbesü + <sup>2)</sup> :

一度でも信仰心を生じるならば、

1) K 731 tedüyiken 2) K 731 ele

B nigen-dekin-e ber süsüg törögülbesü ele :

C nigen-deken-e<sup>1)</sup> ber süsüg törögülbesü ele : <sup>2)</sup>

D nigen-te ber süsüg törögülbesü ele :

E nigen tedüyiken ber süsüg törögülügsen inu :

F nigen üy-e tedüiken ču süsüg törön abasu :

1) Mong 06.45 dekin-e 2) PLB 49, 142 ø

(d)

A degedü buyan-u<sup>1)</sup> erkin anu ene boluyu ::

最勝の福德のきわみはこれである。

1) I buyan-i

B sayin buyan-u degedü inu ene boluyu ::

C sayin buyan-u degedü anu ene boluyu ::

D = B ::

E degedü buyan-u manglai ene boluyu ::

F buyan inu ene büged erkim manglai boluyu ::

「この普賢行願讃を聴聞したものが、最勝の菩提心にしたい一層信心して、  
一度でも信仰心を生じるなら、これこそ最勝の福德のきわみである。」

不空訳 若人於此勝願王 一聞能生勝解心  
於勝菩提生渴仰 獲得殊勝前福聚

49 (a)

A ken ene +<sup>1)</sup> sayin yabudal-un irüger-iyer irügebesü :

誰かこの普賢行の願によって誓願するならば、

1) I irüger-ün

B ked ba ene sayin yabudal-iyar qutuγ γuyubasu :

C ked ba ene sayin +<sup>1)</sup> yabudal-iyar qutuγ γuyubasu +<sup>2)</sup>

D = B

E ken ber sayin yabudal-un irüger egüni irügegsen :

F ken ber ene bhadraçiri-yin irügel-i talbiγçi

1) K 1144, Mong 06.45 buyan-u, PLB 183 enen 2) PLB 142 :

(b)

A tere ber qamuγ maγui jayaγan<sup>1)</sup> бүгүдеyi<sup>2)</sup> tebçikü<sup>3)</sup> boluyu :

かれこそ一切の悪趣全てを遠離するものとなる。

1) K 731 jayaγad 2) 他は бүгүде-yi 3) Mong 382, K 731 tebçiküi

B tere qamuγ maγui jayaγan-nuγud-i tarqaγsan boluyu :

C tere :<sup>1)</sup> qamuγ maγui jayaγan-nuγud-i tarqaγsan boluyu :<sup>2)</sup>

D tere : qamuγ maγui jayaγan-nuγud-i tarqaγsan boluyu :

E tegüber inu maγu jayaγan бүкүн-i tebçiged :

F tere kümün qamuγ maγu jayaγan-i tebçibei :

1) PLB 49, 183 : 以外は ø 2) Mong 06.45 ::

(c)

A tere ber maγui nökör-i tebçiküi<sup>1)</sup> bolju<sup>2)</sup> :

かれこそ悪い友を遠離するものとなり、

1) R tebçikü 2) K 731 boluyu

B tere maγui nökör-i ber tebçiküi boluγad :

C tere maγui nökör-i<sup>1)</sup> ber gegegsen boluγad +<sup>2)</sup>

D = C :

E tegüber maγu nökör-i tebčijü bürün :

F tere kümün maγu nökör tebčigsen ču bolumui :

1) PLB 49 irüger-i 2) K 1144, Mong 06.45 :

(d)

A abida burqan-i<sup>1)</sup> +<sup>2)</sup> tereber<sup>3)</sup> ödter +<sup>4)</sup> üjekü boluyu ::

阿弥陀仏をかれこそすみやかに見るものとなる。

1) K 731 burqan 2) R ber 3) R tere ber, K 731 tegüni ber tere

4) K 731 :

B tegün-iyer amindau-a burqan-i ber tere ödter üjekü boluyu ::

C tegün-iyer :<sup>1)</sup> abida burqan-i tere ödter üjekü boluyu ::

D abida burqan-i tere ödter üjekü boluyu ::

E tegüber amindau-a burqan-i tere ber qurdun-a üjeyü ::

F amindau-a burqan-i ču tere ödter üjemüi ::

1) PLB 49 を除き ø

「この普賢行願讃にしたがい誓願するものは一切惡趣の全てを遠離し、惡友を遠離し、阿弥陀仏をすみやかに見ることになる。」

不空訳 彼得遠離諸惡趣 彼皆遠離諸惡友

速疾得見無量壽 唯憶普賢勝行願

50 (a)

A tedeger oljayi<sup>1)</sup> sayitur oluγsad amuγulang-a amiduraju<sup>2)</sup> :

かれら利益をたくみに得たものらは、安樂に暮し、

1) 他は olja-yi 2) R amiduraju

B tedeger sayin olja oluγad jirγalang-iyar amiduraju :

C tedeger sayin-i olju oluγsan jirγalang-iyar ayu<sup>1)</sup> :

D tedeger sayin olja oluγsan jirγalang-iyar : amiduraju

E tedeger olja-yi masi oluγ-san-u sayin amidural :

F tere olja-yin sayin-i olju amuγ-ulang jirγamui

1) Mong 06.45 aju

(b)

A /ene ber/<sup>1)</sup> jayaγan-dur /tede ber/<sup>2)</sup> sayijiduyu ::<sup>3)</sup>

この世においてかれらこそ向上する。

1) I ene ber-e, K 731 tedeger kümün-ü ene 2) R, K 731 ø 3) 他は :

B kümün-ü jayaγan-dur tede sayitur irejü :

C ene ber jayaγan-dur tede sayijiduyu :<sup>1)</sup>

D ene ču jayaγan-dur tede sayijiduyu :

E kümün-ü ene nasun-dur ber edeger sayitur ireyü :

F ene nasun degere ču tere sayitur iremüi :

1) PLB 142 ø

(c)

A samantabadari<sup>1)</sup> tereber<sup>2)</sup> yambar<sup>3)</sup> bügsen bügesü :

普賢, 彼がいかなうであつたにせよ,

1) R samanta bari, K731 samantabadr-a 2) R, K 731 tere ber

3) R yambarčılan

B samanta badr-a bovadhi saduva yambar bügsen bügesü :

C samantabadari<sup>1)</sup> bodisdv<sup>2)</sup> yambar bügsen bügesü :

D samantabadr-a bovadhi saduva yambar metü bügesü :

E samantabadari tere yambar metü bügesü :

F kü(n)tü sangbo bodisadu yambar aγsan bügesü :

1) K 1144, PLB 49 samantabadr-a 2) K 1144, PLB 49 bovadhi  
saduva

(d)

A tedeger ber öni<sup>1)</sup> üü udan teyimü kü boluyu ::

かれらも遠からずそのようになるのである。

1) R öin-i

B tedeger öni ülü udan teyimü kü boluyu ::

C = B ::

D = B ::

E tedeger öni udal ügegü-e tegünçilen boluyu ::

F tere öni udal ügei tegünçilen bolumui ::

「かれら、利益を得たものたちは安楽に暮し、この世において向上し、遠からずしてあの普賢と同様になるのである。」

不空訳 得大利益勝寿命 善来為此人生中

如彼普賢大菩薩 彼人不久当獲得

51(a)

A tabun jabsar ügei kilinçe-nuγud-i<sup>1)</sup> :

五無間の罪を

1) K 731 kilinçe-nügüd

B tabun jabsar ügei nigül kilinçe-nügüd-i :

C = B :<sup>1)</sup>

D = B :

E tabun jabsar ügei kilinçe-nügüd-i :

F jabsar ügei tabun kündü kili(n)çetü üiles-i :

1) PLB 142, Mong 06.45 ø

(b)

A ked ber ülü /meden mungqaγ-un/<sup>1)</sup> erkeber<sup>2)</sup> üiledügsed :

誰であれ、知らずに、無知のために犯したものたち

1) K 731 medekü-yin 2) 他は erke-ber

B ked ba mungqaγ-un siltaγ-a-bar üiledbesü ber :

C ked<sup>1)</sup> ber mungqaγ-un siltaγabar<sup>2)</sup> üiledbesü ber :<sup>3)</sup>



D ked ba mungqaγ-un siltaγabar üiledbesü ber :

E ken ber ülü medekü-yin erkeber üiledügsed :

F ali kümün ese meden üiledügsen bügestü :

1) K 1144 ken 2) K 1144, PLB 142, Mong 06.45 siltaγan ber,  
PLB 49 siltaγ-a-bar 5) Mong 06.45 ø

(c)

A tede ber sayin yabudal-un ene irügeri<sup>1)</sup> ügülebesü :

かれらも普賢行のこの願を語るなら,

1) 他は irüger-i

B tere kümün ene sayin yabudal-i uribasü :

C tere kümün<sup>1)</sup> ene sayin yabudal-i uribasü<sup>2)</sup> :<sup>3)</sup>

D tere kümün ber ene sayin yabudal-tu-yi uribasü :

E tere ber sayin yabudal-un irügel egüni ügülebesü :

F tere kümün irügel-ün qan-i ungsin abasü :

1) PLB 142 bümün (*sic*) 2) K1144, Mong 06.45 ügülebesü  
3) Mong 06.45 ø

(d)

A ödter qočurli ügei oγoγata arilqu boluyu ::

速かに余すところなく完璧に清浄なものとなるのである。

B ödter büged bügüde sayitur ariluyu ::

C ödter büged bügüde teyin büged ariluyu ::<sup>1)</sup>

D ödter büged oγoγata ariluyu ::

E türgen-e qočurli ügei oγoγata ariluyu ::

F qočurliügei büri türgen ariγudqu boluyu ::

1) PLB 142 ø

「無知ゆえに五無間の罪を犯したものたちもこの普賢行願讃を誦するなら、  
速かに余すところなく清浄となるのである。」

不空訳 所作罪業五無間 由無智慧而所作  
彼誦普賢行願時 速疾消滅得無余

52 (a)

A belge bilig kiged bey-e<sup>1)</sup> aldar<sup>2)</sup> ba :

般若智と相好, 名声や

1) Mong 382 beyen-tü 2) K 731 belges

B belge bilig-ün bey-e bildar belges kiged :

C belge bilig bildar belges kiged :<sup>1)</sup>

D belge bilig ba bey-e bildar belges kiged :

E belge bilig-lüge dürsü kiged lagšan-nuγud ba :

F belge bilig-nügüd-lüge dürsü kiged lagsa ba :

1) PLB 183 ø

(b)

A ijaγur kiged sayin öngge-luγ-a<sup>1)</sup> tegülder<sup>2)</sup> boluyu :<sup>3)</sup>

種姓と良き容色が完璧にそなわるものとなるのである。

1) K 731 öngge-lüge 2) Mong 382 tegülder-i 3) 他は :

B ijaγur-tu kiged sayin üjesküleng-tü boluyu :

C ijaγur kiged sayin üjesküleng-tü<sup>1)</sup> tegüs boluyu :

D ijaγur kiged öngge üjeskülen tegüskü boluyu :

E ijaγur kiged obuγ-nuγud-luγ-a tegüskü boluyad :

F ijuur-luγ-a öngge-nügüd tegüs-iyer boluyu

1) PLB 142 üjeskülengtü

(c)

A simnus<sup>1)</sup> kiged :<sup>2)</sup> olan tersüd<sup>3)</sup> tegün-i<sup>4)</sup> ültü čidayu :

悪鬼や多くの敵は彼にかなわないのである。

1) Mong 382 simlus 2) 他は ø 3) 他は ters-üd 4) I tegün-e, R  
tegüni

- B simnus kiged olan ters-üd tegüni ülü çidayu :  
 C simnus kiged olan ters-üd tegün-i<sup>1)</sup> ülü çidayu :<sup>2)</sup>  
 D = B :  
 E simnus kiged olan ters-üd ber tegüni ülü çidayu :  
 F olan ter-üd simnus-ud-tur tere ülü deyildeyü :  
 1) Mong 06.45 tegüni 2) PLB 142 ø

(d)

- A γurban yirtinçü bögüdede<sup>1)</sup> ber takiγdaqu<sup>2)</sup> boluyu ::

三界の全てにおいても供養されるものとなるのである。

- 1) 他は bögüde-de 2) K 731 takiγdaqui  
 B γurban yirtinçü qotala-da ber takiγdaqu boluγad ::  
 C γurban yirtinçü-dür qotala-da ber takiγdaqu boluγad ::<sup>1)</sup>  
 D γurban yirtinçü-dür qotalada ber takiγdaqu boluγad ::  
 E γurban yirtinçü-dekin qotala ber takiqu boluyu ::  
 F бүкү γurban yirtinçüde takiγdaqu boluyu ::  
 1) PLB 142, 183 : , K 1144, Mong 06.45 ø

「般若智，相好，名声，種姓，容色が完備し，惡鬼や多くの敵もかなわず，  
 三界の全てにおいて供養されるのである。」

不空訳 智慧容色及相好 族生品類得成就  
 於魔外道得難摧 当於三界得供養

53(a)

- A +<sup>1)</sup> bodi<sup>2)</sup> modun-u dergede tere ber ödter oduyu<sup>3)</sup> :

菩提樹の下にかれこそ速かにおもむくのである。

- 1) K 731 erketü 2) K 731 bovadhi 3) Mong 382 odduyu  
 B bovadhi modun-u dergede kü tere ödter oduyu :  
 C ödter oduyu +<sup>1)</sup> erketü bodi<sup>2)</sup> modun-u dergede :<sup>3)</sup>  
 D erketü bovadhi modun-u dergede kü qurdun-a oduyu :

E erketü bovadhi modun-u dergede tere qurdun-a oduyu :

F bodi modu-yin qan-u tende tere ödter oduyu :

1) K 1144, PLB 183 ::, PLB 142, Mong 06.45 : 2) K 1144, PLB 49 bovadhi 3) PLB 49 を除き ø

(b)

A oduγad amitan-u tusa-yin tulada tende saγun :

おもむいて衆生の利益のためそこに坐し,

B odču amitan-u tusa-yin tula tende saγuju :

C oduγad +<sup>1)</sup> amitan-u tusa-yin tula tende saγuju :<sup>2)</sup>

D = C :

E oduγad amitan-u tusayin tula tende saγuju :

F amitan-u tusa-yin tula tere tende saγuju :

1) K 1144, PLB 142, 183 : 2) PLB 142, 183 ø

(c)

A bodiçid-iyar burqan bolju +<sup>1)</sup> nom-un kürdün-i sayitur orçiγuluγad :

菩提心によって成仏し法輪をたくみに転じて,

1) R :

B toγuluγsan burqan bolju : kürdün-i sayitur orçiγulju :

C toγuluγsan burqan bolju +<sup>1)</sup> nom-un kürdün-i sayitur orçiγul-un<sup>2)</sup> :

D toγuluγsan burqan bolju nom-un kürdün-i sayitur orçiγulun :

E bovadhi-dur<sup>3)</sup> burqan bolun kürdün-i sayitur erkegölüged<sup>4)</sup> :

F bodi olun burqan bolju nom-un kürdü nomlayu :

1) PLB 142, 183, Mong 06.45 : 2) PLB 183, Mong 06.45 orçiγulun

3) PLB 66 bodi-dur 4) PLB 66 erkigölüged :

(d)

A simnus-un<sup>1)</sup> ayimaγ selte bögüdeyi<sup>2)</sup> nomoγadqayu ::

悪鬼の群を一挙に全て調伏するのである。

1) R simnus-ača 2) 他は bügüde-yi

B simnus-un čirig selte bügüde-yi nomoꝥadqayu ::

C simnus-un čerig<sup>1)</sup> selte bügüde-yi nomoꝥadqayu ::<sup>2)</sup>

D = C ::

E simnus-un ayimaꝥ-luꝥ-a selte bügüde-yi nomoꝥadqayu ::

F simuꝥ ayimaꝥ selte-ber-i nomoꝥadqan daruyu ::

1) PLB 183 を除き čirig 2) Mong 06.45 :

「かれは菩提樹の下に速かにおもむき、そこで衆生の利益のために坐して、  
菩提心によって成仏し、法輪を転じ説法して、悪鬼の群を一挙に全て調伏する  
のである。」

不空訳 速疾往詣菩提樹 到彼坐已利有情

覚悟菩提転法輪 摧伏魔羅及從營

54 (a)

A basa ken ba ene sayin yabudal-un irügeri<sup>1)</sup> + <sup>2)</sup>

また誰であれこの普賢行の願を、

1) 他は irüger-i 2) R, Mong 382 :

B ken ba ene sayin yabudal-tu irüger-i :

C ken<sup>1)</sup> ba ene sayin yabudal-tu<sup>2)</sup> irügegsen irüger-i :<sup>3)</sup>

D ken ber sayin yabudal-un irüger egün-i :

E ken ber sayin yabudal-un irügel egüni :

F ali basa ene erkin irügel-ün qaꝥan-i :

1) PLB 142 ked 2) PLB 142 yabudaltu 3) K 1144, PLB 49,  
Mong 06.45 ø

(b)

A baribasu ba ungsibasü ba nekebesü :

受持し、唱え、開示するなら、

B baribasu ba nomlabasu ba daki uribasü ba :

C baribasü ba +<sup>1)</sup> nomlabasü ba +<sup>1)</sup> uribasü ba<sup>2)</sup> :

D baribasü ba nomlabasü ba daki uribasü ber :

E bariqu kiged üjegülkü buyu uriγci :

F bariqu ba üjegülkü ungsiqui-bar bolbaču :

1) Mong 06.45 : 2) K 1144 ber

(c)

A tegün-ü<sup>1)</sup> ači ür-e-yi anu<sup>2)</sup> burqan kü medeyü :

かれの果報をば仏も知るのである。

1) R tegünü 2) K 731 inu

B tegün-ü tusa ači inu burqan kü medemüi j-e :

C tegün-ü<sup>1)</sup> ači tusa inu burqan kü medemüi<sup>2)</sup> j-e :<sup>3)</sup>

D tegünü ači tusa-yi inu burqan ber medemüi j-e :

E tegünü teyin bolbasural-i burqan ber nayiladumui j-e :

F tere üile-yin bolbari-yi burqan baγsi ayiladqu :

1) PLB 49, 183 tegünü 2) PLB 142 medeküi 3) PLB 142 ø

(d)

A degedü<sup>1)</sup> qutuγ-i olqui-dur qoyar sedkil<sup>2)</sup> ülü bariγdaqu buyu ::

最勝の悟りを得ることに疑心を抱いてはならないのである。

1) Mong 382 degedü 2) I ø

B degedü bovadhi qutuγ-i olqui-dur qoyar sedkil buu üiledügtün :

C degedü qutuγ-i olqui-dur buu<sup>1)</sup> büged saγaradqun ::<sup>2)</sup>

D degedü bovadhi qutuγ-i olqui-dur qoyar sedkil buu üiledügtün ::

E degedü-dür sečig<sup>3)</sup> ülü üiledkün ::

F bodi qutuγ degedü-dür sečig ülü üiledkün ::

1) PLB 142 bui 2) Mong 06.45 : 3) PLB 66 sesig

「また仏はこの普賢行願讃を受持し誦唱し開示するものの果報を知るのである。最勝菩提を得ることに疑心を抱いてはならない。」

不空訳 若有持此普賢願 読誦受持及演説  
得如来具知果報 得勝菩提勿生疑

55 (a)

A +<sup>1)</sup> mañjusiri<sup>2)</sup> yambar /biligtü<sup>4)</sup> boluγad<sup>5)</sup> baγatur bolbasu/<sup>3)</sup> :

文殊師利にどれほど智慧があり、勇者であったとしても、

1) K 731 baγatur 2) K 731 mañjuśrī 3) K 731 metü nayiladuγsan

4) 他は bilig-tü 45) R boluiγad

B mañjuśrī yambar bilig-tü boluγad baγatur bolbasu

C manjusiri<sup>1)</sup> yambar bilig-tü boluγad +<sup>2)</sup> baγatur bolbasu : <sup>3)</sup>

D mañjuśrī yambar bilig-tü boluγad baγatur bolbasu :

E mañjuśrī baγatur ber yambar metü ayiladuγsan kiged :

F manjusiri batur yambar ayiladuγsan bügesü :

1) K 1144, PLB 49 mañjuśrī, PLB 142 mañjuśrī, PLB 183,

Mong 06.45 manjusiri 2) Mong 06.45 : 3) PLB 142 ø

(b)

A samantabadari<sup>1)</sup>/tere ber tegünčilen kü buyu :/<sup>2)</sup>

普賢、かれも同様なのである。

1) K 731 samantabadr-a 2) I tereber

B tere samanta badr-a ber tegünčilen kü buyu :

C tere samantabadari<sup>1)</sup> ber tegünčilen kü buyu :

D tere samantabadr-a ber tegünčilen kü buyu :

E tere samantabadari ber tegünčilen buyu :

F küntüsangbo tere basa tegünčilen bülüge :

1) K 1144, PLB 49 samantabadr-a

(c)

A /teden-i ber/<sup>1)</sup> daγan<sup>2)</sup> surulčaju bi :

かれらにこそ私は随い学び、

1) I ø 2) R, K731 daγan

B teden-i daγan bi ber surulçaqu-yin tulada :

C teden-i<sup>1)</sup> ber daγan<sup>2)</sup> surulçaqu-yin tulada bi :<sup>3)</sup>

D tede bükün-i daγan bi ber surulçaqu-yin tulada :

E tedeger bükün-i biber daγan surulçaqu-yin tula :

F tede ele bögüdeyi daγan surqu-yin tula bi :

1) Mong 06.45 tedeni 2) K 1144 daγan 3) PLB 142 ø

(d)

A edeger buyan-nuγud-i sayitur Jorin irügemüi ::<sup>1)</sup>

これらの福德をたくみに回向せんものと願う。

1) R :

B ede ele buyan-nuγud-ıyan sayitur Jorimui bi ::

C ede ele buyan-nuγud-ıyar<sup>1)</sup> sayitur Jorimu<sup>2)</sup> ::<sup>3)</sup>

D ede buyan-nuγud-ıyan sayitur Jorimu ::

E edeger buyan bögüde-yi sayitur Jorimui ::

F ene qamuγ buyad-yin(*sic*) masi sayitur Jorimu ::

1) PLB 142, 183 buyan-nuγud-ıyan 2) PLB 183 urimu

3) Mong 06.45 :

「文殊師利がいかほど智慧があり勇猛であっても、あの普賢も同様である。

私はいかにに随い学んで、これらの福德一切を回向する。」

不空訳 如妙吉祥勇猛智 亦如普賢如是智

我当修学於彼時 一切善根悉回向

56 (a)

A γurban /čaγ-un/<sup>1)</sup> qamuγ ilaγuγsad bögüdeger :

三世の一切諸仏全てが、

1) K 731 čaγ-tur iregsen

B γurban čaγ-tur ačıraγsan qamuγ ilaγuγsad bögüdeger :



- C γurban čay-un qamuγ ilaγuγsad bögüdeger :  
 D γurban čay-tur iregsen qamuγ ilaγuγsad bögüdeger :  
 E γurban čay-tur iregsen qamuγ ilaγuγsad ber :  
 F γurban čay-tur jalar(a)γči ilaγuγsad bögüde :

(b)

A alimad irüger-i<sup>1)</sup> degedü<sup>2)</sup> kemen /maγtaγsan bügesü/<sup>3)</sup> :

あらゆる誓願を最勝と讃えたのなら,

1) I irüger-e 2) Mong 382 degedü 3) K731 sayisiyaγdaγsan  
 tegün-iyer

B = A :

C = A :

D = A

E irüger alin-i degedü<sup>1)</sup> kemen sayisiyaγsan tegüber :

F ali joril manglai kemen sayisiyaγsan tegüber :

1) PLB 66 degedü

(c)

A minu ede<sup>1)</sup> ele buyan-u<sup>2)</sup> ündüsün-i<sup>3)</sup> ber +<sup>4)</sup>

私のこれらの善根をも

1) I ed, K 731 edeger 2) R buyan 3) I ündüsün 4) K 731 :

B = A :

C = A :<sup>1)</sup>

D minu edeger buyan-u ündüsün-i ber :

E minu edeger buyan-u ündüsün bükün-i ber :

F minu ene üiledügsen ündüsütü buyad-i :

1) PLB 142, Mong 06.45 ø

(d)

A sayin yabudal-un tulada sayitur jorin irügemüi ::

普賢行のためたくみに回向する。

B sayin yabudal-un tulada jorin irügemüi ::

C = B :<sup>1)</sup>

D = B ::

E sayin yabudal-un tula sayitur jorisuyai ::

F bodisadu-yin yabudal-un tula masi jorimu ::

1) 他は全て ::

「過去、現在、未来の一切諸仏の全てが最勝と讃えた誓願を、私のこれらの善根をも、普賢行のために回向する。」

不空訳 一切三世諸如来 以此回向殊勝願

我皆一切諸善根 悉以回向普賢行

57 (a)

A minu üküküi çaγ boluγsan-dur-i :

私の死ぬ時となった際には、

B kejiy-e ečülküi çaγ minu boluγsan-dur :

C kejiy-e ečüdküi<sup>1)</sup> çaγ minu boluγsan-dur-i<sup>2)</sup> :

D kejiy-e ečüdküi çaγ minu boluγsan-dur :

E kejiy-e nöğëiküi çaγ minu bolqui-dur :

F keji(i)yebi önggereküi çaγ-tur-iyen kürbesü :

1) K 1144, Mong 06.45 nöğëiküi 2) Mong 06.45 boluγsan-dur

(b)

A qamuγ gem-üd-i qarin basa ber arilγaju<sup>1)</sup> :

一切の罪障を再びまた清浄とし、

1) I arilγayu

B qamuγ tüiddügçi gem-üd-i γadaγsi arilγaγad :

C qamuγ gem-i tüidügsen-iyen<sup>1)</sup> γadaγsi arilγaju +<sup>2)</sup>

D = B :

E qamuγ tüidker-nuγud<sup>3)</sup> γadaγsi ariluγad :

F qamuγ ele tüidker-iyen γadaγsida arilγan :

1) PLB 49 tüiddügsen 2) PLB 183 を除き :

3) PLB 66 tüidker-nügüd

(c)

A /ilete<sup>2)</sup> abida burqan-i/<sup>1)</sup> üjeged +<sup>3)</sup>

眼前に阿弥陀仏を見て

1) K 731 abida burqan tegün-i ilehte 2) Mong 382 ilehte

3) R, Mong 382 :

B ilehte büged tere amindau-a burqan-i üjeγü :

C ilete<sup>1)</sup> büged tere abida burqan-i üjeγü :<sup>2)</sup>

D = C ::

E amindau-a burqan-i tere ilete üjeγü бүрүн :

F amindau-a itegel-i ilerkei-e üjeγü :

1) K 1144, PLB 49 ilehte 2) PLB 142 ø

(d)

A sükeveti-yin<sup>1)</sup> ulus-tur<sup>2)</sup> sayitur odçu<sup>3)</sup> ::<sup>4)</sup>

極樂の国土にたくみにおもむき,

1) K731 sukavati-yin 2) K 731 oron-dur 3) K 731 odsuγai 4) R :

B sukavati-yin oron-dur maγad odqu boltuγai ::

C sükeveti-yin<sup>1)</sup> ulus-tur<sup>2)</sup> maγad odqu boltuγai ::

D = B ::

E sükeveti-yin<sup>3)</sup> tere oron-dur sayitur odqu boltuγai ::

F sukavati-yin tere γajar maγad-iyar oduγai :

1) K 1144 sukavati-yin, PLB 142 sükeveti 2) K 1144 oron-dur

3) PLB 66 sukavati

「私の臨終の際には一切の罪障を再び清浄とし、眼前に阿弥陀仏を見ながら、

極楽界へとおもむき」

不空訳 当於臨終捨寿時 一切業障皆得転

親観得見無量寿 速往彼到極楽界

58(a)

A tende oduγad edeger irüger-nuγud<sup>1)</sup> ber :

そこへおもむいてこれらの誓願をも、

1) K 731 irüger-nügüd

B tende kürčü edeger irüger joriγ-nuγud-i ber :

C tende<sup>1)</sup> kürčü edeger irüger joriγ-nuγud-i ber :<sup>2)</sup>

D tende kürčü edeger joriγ-nuγud-i ber :

E tende odču edeger irügel-i ber :

F tende odču ene qamuγ irügeli basakü :

1) PLB 49 tede 2) PLB 142, Mong 06.45 ø

(b)

A qočurli ügei bügüde ilete<sup>1)</sup> bolqu<sup>2)</sup> boltuγai ::<sup>3)</sup>

余すところなく全てが眼前にあることになるがよい。

1) Mong 382, K 731 ilede 2) Mong 382 olqu 3) 他は :

B bügüde qočurli ügei ilede bolqu boltuγai ::

C qamuγ-a qočurli ügei +<sup>1)</sup> ilede<sup>2)</sup> bolγaqu boltuγai :<sup>3)</sup>

D qamuγ-a qočurli ügei ilete bolqu boltuγai :

E bügüde-yi qočurli ügei ilete bolγaqu boltuγai :

F bügüdeyi qočurliügei il(e)dkekü boltuγai ::

1) Mong 06.45 : 2) PLB 142, 183, Mong 06.45 ilete 3) K 1144,

PLB 183, Mong 06.45 ::, PLB 142 ø

(c)

A teden-i qočurli ügei oγoγata dügürgejü bi :

それらを余すところなく完璧に私は成就し、

B   teden-i qoçurli ügei teyin büged dügürgejü bi :

C   teden-i<sup>1)</sup> /teyin büged-tür/<sup>2)</sup> dügürgejü bi<sup>3)</sup> :

D   = B                               :

E   tedeger-i qoçurli ügei biber oγoγata dügürgejü :

F   teden-i bi qoçurliügei oγoγata dügürgejü :

1) K 1144 tedeger-i, PLB 142, 183 tenen-ü 2) K 1144 qoçurli  
ügei bi ber oγoγata 3) K 1144 ø

(d)

A   yirtinçü kejiy-e atala amitan-a<sup>1)</sup> tusa-a<sup>2)</sup> üiledsügei ::

世界が存在する限り衆生に益を施したい。

1) I amitan-i, Mong 382 amitan-u 2) 他は I tusa

B   yirtinçü kejiy-e atala amitan-u tusa-yi üiledsügei ::

C   yirtinçü-dür kedüi amitan-a<sup>1)</sup> tusa-yi üiledsügei +<sup>2)</sup> ::

D   yirtinçü kejiy-e atala amitan-u tusa-yi üiledsügei ::

E   = D                               ::

F   amitan-i edlen bi tan-u tusa kitügei ::

1) K 1144, PLB 142, Mong 06.45 amitan-u 2) K 1144 bi

「極楽界へおもむいて、これらの誓願が余すところなく眼前にあるがよい。

私はそれらを余すところなく成就し、世間がある限り衆生に利益を施したいものだ。」

不空訳 得到於彼此勝願 悉皆現前得具足

我当円満皆無余 衆生利益於世間

59 (a)

A   ilaγuγsad-un<sup>1)</sup> sayin bayasqulang-tu ter-e<sup>2)</sup> mandal<sup>3)</sup> küriyen-dür<sup>4)</sup> :

仏の美しく喜ばしいあの衆会において、

1) Mong 382 ilaγuγsadun 2) 他は tere 3) K 731 maṇḍal

4) R küriy-e-dür, Mong 382, K 731 küriyen-dür-i

- B bayasqulang-tu tere ilaγuγsan-u ulus-un maṇḍal-dur :
- C bayasqulang-tu tere ilaγuγsad-un ulus-tur-i<sup>1)</sup> :<sup>2)</sup>
- D ilaγuγsan-u sayin maṇḍal bayasqulang-tu tere oron-dur :
- E ilaγuγsan-u mandal sayin bayasqulang-tu tegün-dür :
- F ilaγsan-u mandal sayin ba bayasqulang tegün-e :

1) K 1144 oron-dur-i, Mong 06.45 ulus-tur 2) Mong 06.45 ø

(b)

- A masi üjesküling-tü degedü :<sup>1)</sup> linqu-a-dača<sup>2)</sup> töröjü :

きわめて美しい最勝の蓮華から生まれ,

- 1) 他は ø 2) K 731 lingqu-a-dača

- B üjesküling-tü sayin lingqu-a-ača töröjü bür-ün :
- C üjesküling-tü sayin linqu-a-dača<sup>1)</sup> töröjü bür-ün<sup>2)</sup> :<sup>3)</sup>
- D üjesküling-tü sayin lingqu-a-dača töröjü bürün :
- E masi üjesküling-tü degedü lingqu-a-ača töröged :
- F masi erkim üjesküling badma-ača töröged :

1) PLB 183を除き lingqu-a 2) Mong 06.45 bürün 3) PLB 142 ø

(c)

- A /ilaγuγsan abida aba/<sup>1)</sup> burqan-ača ilete<sup>2)</sup> :<sup>3)</sup>

大覚たる阿弥陀仏の眼前で,

- 1) Mong 382 ilaγuγsan amindau-a, K 731 amindau-a 2) Mong 382, K 731 ilede 3) Mong 382, K 731 ø
- B amindau-a burqan-ača ilede büged :
- C abida burqan-ača ilete<sup>1)</sup> büged +<sup>2)</sup>
- D ilaγuγsan abida burqan-i ilete büged :
- E ilaγuγsan amindau-a burqan-u ilete :
- F ilaγuγsan amindau-a-yin emüne-eče bi büged :

1) K 1144, PLB 49 ilede 2) K 1144 :

(d)

A vivangkirid-i<sup>1)</sup> /bi ber/<sup>2)</sup> tende olqu boltu<sub>7</sub>ai ::

授記を私はそこで得るものとなるがよい。

1) R yivangrid-i, Mong 382 viyakirid-i 2) I bi, K 731 ber bi

B vivangkirid-i ber tende olqu minu boltu<sub>7</sub>ai ::

C viyangkirid-i<sup>1)</sup> tende büged olqu minu boltu<sub>7</sub>ai ::

D vivangkirid-i bi ber tende büged olqu boltu<sub>7</sub>ai ::

E = A :

F vivangkirid ögdeküi-yi tende olqu boltu<sub>7</sub>ai ::

1) PLB 142, 183 yivakirid-i, 他は vivangkirid-i

「私は極楽の諸仏の美しく喜ばしい衆会において美しく最勝の蓮華から誕生し、大覚たる阿弥陀仏の眼前で授記をさずかるがよい。」

不空訳 於彼仏会甚端嚴 生於殊勝蓮華中

於彼獲得受記別 親對無量光如來

60 (a)

A tende<sup>1)</sup> biber<sup>2)</sup> vivangkirid-i<sup>3)</sup> sayitur olju bürün<sup>4)</sup> :

そこで私は授記をたくみに得たのちに、

1) I tede 2) 他は bi ber 2) R yivangrid-i, Mong 382 viyakirid-i

3) K 731 bür-ün

B tende bi ber vivangkirid-i sayitur olju bür-ün :

C viyangkirid-i<sup>1)</sup> ber sayitur olju bür-ün<sup>2)</sup> :

D tede vivangkirid bi ber sayitur olju bürün :

E tende vivangkirid-i biber sayitur olju bürün :

F tende biber vivangkird ögdeküi-yi olu<sub>7</sub>ad :

1) PLB 142, 183 viyakirid-i, 他は vivangkirid-i 2) PLB 49, 142, Mong 06.45 bürün

(b)

A jaγun kōlti +<sup>1)</sup> qubilγad-iyar :

百俱胚の化身を通じて、

1) 他は olan

B olan jaγun kōlti ridi qubilγan-nuγud-iyar :

C /bi olan/<sup>1)</sup> jaγun kōlti ridi qubilγan-nuγud-iyar :<sup>2)</sup>

D olan jaγun kovalti qubilγan-nuγud-iyar :

E olan jaγun kovalti toγatan qubilγan-iyar :

F olan jaγun kolti bolun qubilγsan beyeber :

1) Mong 06.45 ø 2) K 1144 ø

(c)

A oyun-u küčün-iyer arban jüg-üd-tür ber :

智慧の力により十方においても、

B oyun-u küčün-iyer arban jüg-üd-tür

C = A :<sup>1)</sup>

D = A :

E = A :

F minu oyin-u küčün-iyer bükü arban jüg-üd-tür :

1) PLB 49, 142 ø

(d)

A qamuγ amitan-a olan tusayi<sup>1)</sup> üiledsügei ::

一切衆生に多大の利益を施したい。

1) R, K 731 tusa-yi

B qamuγ amitan-u olan tusa-yi üiledsügei bi ::

C qamuγ amitan-a olan tusa-yi üiledsügei bi ::<sup>1)</sup>

D = B ::

E = B ::

F qamuγ ele amitan-a olan tusa kitügei ::



1) Mong 06.45 :

「私はそこで授記を得たのちに、百俱胝にも及ぶ無数の化身に身を変じ、智慧の力によって十方において一切衆生に多大の利益を施したいものだ。」

不空訳 於彼獲得受記已 變化俱胝無量種

広作有情諸利樂 十方世界以慧力

61 (a)

A sayin yabudal-un irügeri<sup>1)</sup> irügegsen-iyer :

普賢行の願を誓願したことにより、

1) R, K731 irüger-i

B sayin yabudal-tu irüger jori<sub>7</sub>-i ungsi<sub>7</sub>san-u :

C sayin yabudal-tu irüger-i jorin irügegsen :<sup>1)</sup>

D = C :

E sayin yabudal-un irüger-i ungsi<sub>7</sub>san-u :

F masi sayin-u yabudal-tu irügeli talbiju :

1) PLB 49 を除き ø

(b)

A minu aliber<sup>1)</sup> öcük<sup>2)</sup>en quriya<sub>7</sub>san buyan :

私の何にせよいささかながら積んだ功德、

1) R, K 731 ali ber 2) 他は öcügük<sup>en</sup>

B minu kedüyiken quriya<sub>7</sub>san tere buyan-iyar :

C minu tedüyiken<sup>1)</sup> quriya<sub>7</sub>san tere buyan-iyar :

D = B :

E buyan öcük<sup>en</sup> tedüi biber kedüi quriya<sub>7</sub>san :

F öcügük<sup>en</sup> buyan kedüi quriya<sub>7</sub>san tegüber :

1) PLB 183 kedüiken

(c)

A tegün-iyer amitan-u irügekü<sup>1)</sup> buyan-nu<sub>7</sub>ud :

それによって衆生の誓願する福德が、

1) 他は irüger

B amitan-u irüger joriγ-un qamuγ buyan anu :

C amitan-u irüger joriγ-un qamuγ buyan inu :<sup>1)</sup>

D = B :

E tegüber amitan-u buyan irügel-nuγud<sup>2)</sup> :

F amitan-u irügel ba buyan-nuγud bügüde :

1) PLB 142, 183 2) PLB 66 irügel-nügüd

(d)

A nigen gšan-dur büged bügüde<sup>1)</sup> bürüdkü<sup>2)</sup> boltuγai ::

一刹那において全て成就することになるがよい。

1) I, Mong 382 ø 2) I bürün kü,

B nigen gšan-dur büged bütükü boltuγai ::

C nigen gšan-dur<sup>1)</sup> büged bügüde<sup>2)</sup> bütükü boltuγai ::<sup>3)</sup>

D nigen gšan-dur büged bügüde bütükü boltuγai ::

E nigen gšan-iyar bügüde-yi olqu boltuγai ::

F nigen nige agšam-iyar bürü neyilen odtuγai ::

1) PLB 49, Mong 06.45 gšan-dur 2) K 1144 ø 3) PLB 142 :

「普賢行願讃を誓願したことを通じて、ささやかながら私の積んだ福德により、衆生の誓願する福德が一刹那に実現するがよい。」

不空訳 若人誦持普賢願 所有善根而積集

以一刹那得如願 以此群生獲勝願

62(a)

A sayin yabudal-un irüger-i irügegsen-iyer :

普賢行の願を誓願したことによって、

B ali tere sayin yabudal-tu ene irüger-ün :

C ali tere sayin yabudal-tu ene irüger-i irügebesü :

D ali tere sayin yaudal-tu ene irüger-i irügegsen :

E sayin yabudal-un irügel-i irügegsen-eče +<sup>1)</sup>

F masi sayin-u yabudal-tu irügel ber joriγad

1) PLB 66 :

(b)

A ali kijaγalal ügei degedü buyan-i oluγsan tegün-iyer<sup>1)</sup> :<sup>2)</sup>

あらゆる無辺の最勝の功德を得たかれにより,

1) R ø, Mong 382 tegüs-iyer 2) R, Mong 382 ø

B kijaγalal ügei ali tere degedü buyan-iyar :

C kijaγalal ügei ali tere degedü buyan-iyar<sup>1)</sup> :<sup>2)</sup>

D = C :

E kijaγalal ügei oluγsan ali tere degedü buyan-iyar :

F oldaγsan-u ali tere kijar ügei buyad ber :

1) K 1144 buyan-i oluγsan-iyar 2) Mong 06.45 ø

(c)

A jobalang-un mören-e baγdaγsan<sup>1)</sup> amitan +<sup>2)</sup>

苦の大河に溺れた衆生が,

1) R baγdaγsan 2) 他は :

B jobalang-un yeke usun-a baγdaγsan amitan :

C jobalang-un yeke usun-a baγdaγsan<sup>1)</sup> amitan :

D jobalang-un yeke usun-a čibbügsen amitan-nuγud :

E jobalang-un mören-e čibbügsen amitan-nuγud :

F jobalang-tu mören γoul-dur čibükün aγči amitan :

1) K 1144 baγdaγsan, PLB 72 bandaγdaγsan

(d)

A abida burqan-u /oron-i sayitur/<sup>1)</sup> olqu boltuγai ::

阿弥陀仏の境界をたくみに得るものとなるがよい。

1) K 731 sayin oron-i

B abida burqan-u oron ɣajar-i olqu boltuɣai :

C = B ::

D = B ::

E = A ::

F ilaɣuɣsan amindau-a-yin oron maɣad oltuɣai ::

「普賢行願讚を誓願したことを通じて果しない最勝の福德を得たものによつて、苦の大海に溺れた衆生は阿弥陀仏の界を得るがよい。」

不空訳 我獲得此普賢願 殊勝無量福德聚

所有群生溺惡習 皆往無量光仏宮

結 語

(a)

A irüger-ün qaɣan ene ber degedü-yin erkin +<sup>1)</sup>

願の王、これは最勝のきわみにして

1) 他は :

B erkin degedü ede irüger joriɣ-un qaɣan :

C = B :

D erkin degedü ede irüger-ün qaɣan :

E irüger-ün qaɣan edeger degedü-yin erkin :

F erkim-ece erkim ene irüger-ün qaɣan ču :

(b)

A kiɣaɣalal ügei qamuɣ amitan-u<sup>1)</sup> tusa-yi üiledüğü :

無辺の一切衆生の利益を施すものであり、

1) R amitan-a

B kiɣaɣalal ügei qamuɣ amitan-a tusa boluɣad :

C = B :

D = B :

E = B :

F kijar ügei amitan-a tusalaqu boluγad :

(c)

A samantabadari-yin<sup>1)</sup> čimegsen /törü bütüged/<sup>2)</sup> :

普賢の莊嚴した中心が成就して,

1) K 731 samantabadr-a-yin 2) I tere büged, R törü-e, K 731 γoul  
yosun-i bütüjü

B samanta badr-a-da čimegdegsen γoul bütüjü :

C /samanta badari-da/<sup>1)</sup> čimegdegsen γoul bütüjü :<sup>2)</sup>

D samantabadr-a-da čimegdegsen γoul bütüjü :

E samantabadari-bar čimegsen γoul bütüjü :

F küntü sangbo-yin čimeglegsen γoul-ud-iyar bütüjü ::

1) K 1144 samanta badr-a-da, PLB 49 samantabadr-a-da,  
PLB 142 samantabadara 2) K 1144 ø

(d)

A γurban maγui jayaγan-u ündüsün<sup>1)</sup> qoçurli ügei qoγosun<sup>2)</sup> boltuγai ::<sup>3)</sup>

三惡趣の根が余すところなく空しくなるがよい。

1) R ündüsün-ü, K 731 ündüsün-i 2) K 731 qoγosuraγulqu 3) R :: ::

B maγui jayaγan-u γajar orod qotala qoγosun bolqu boltuγai :: :

C maγui jayaγan-u γajar oron<sup>1)</sup> qotala<sup>2)</sup> qoγosun bolqu boltuγai ::<sup>3)</sup>

D = B :: : ::

E maγu jayaγan-u ündüsün-nuγud<sup>4)</sup> qoçurli ügei qoγosudaqu  
boltuγai :: : ::

F maγuduγsan oron-nuγud qoγosun-a kürtügei : ::

1) K 1144, PLB 142, 183 orod 2) PLB 142, 183 qotala 3) PLB  
142, 183 :: : :: 4) PLB 66 ündüsün-nügüd

A /qutuγ-tu sayin yabudal-un irügerün<sup>2)</sup> qaγan tegüsbei<sup>3)</sup> + <sup>4)</sup> :: : :/<sup>1)</sup>

「聖普賢行の願の王」が終った。

1) R ø 2) Mong 382, K731 irüger-ün 3) Mong 382 tegüsbe

4) K 731 :: maṃ gha lam

B qutuṭ-tu sayin yabudal-tu irüger-ün joriṭ-un qaṭan neretü  
sudur tegüsbe :: : ::

C qutuṭ-tu sayin yabudal-tu irüger joriṭ-un<sup>1)</sup> qaṭan tegüsbe /:: : ::  
mangghalam :: : ::<sup>2)</sup>

D qutuṭ-tu sayin yabudal-tu irüger-ün qaṭan tegüsbe :: : ::

E = D :: : ::

F qutuṭ-tu sayin yabudal-tu irügel-ün qan tegüsbe : ::

1) Mong 06.45 joriṭ-un 2) K 1144, PLB 142, 183 :: : ::,

PLB 49 :: maṃ ghaa lam ::, Mong 06.45 ::

## 注

### 1.

(b) sayibar oduysan「良く行った〔者〕」=Skt. sugata,「善逝；修伽陀」, 仏の異名。獅子は獸王で, 仏は人の王であるから, 獅子に喩えられる。中村 pp. 543~4 を参照。  
E ačara- は「連れて来る」, F jalara- は「進む, いらっしゃる」, なおこの形式はFでは常に l の下に余分の aleph を一本ともなっている。この体系的な「誤刻」の意味するところは不明である。burqan baṛsi-nar は「仏〔である〕師匠たち」。

(c) F tende は誤刻か。

(b) F süsül- は「信仰する, 敬う」。

### 2.

(a) sayin yabudal「良き行い」=Skt. bhadracarya,「普賢行」, 中村 pp. 1179~80を参照。  
なおFは一貫してこれを bodisadu「菩薩」と訳出している。

(b) ilaṭuysad「勝利した(者たち)」=Skt. jina,「大覺；耆那」など, 仏の異名。F iledke- は「明らかにする」。

(c) F toṭ-a kürküi は「數に達する」。

ulus, oron(sg.)~orod(pl.)はいずれも Skt. kṣetra, Tib. zhing にあたる。これらはまた dhātu, bhūmi 等に相当する場合もあり, 多くは意味の差がない。

### 3.

(a) 梵文は jina, 藏文は rdul を各々二度くり返していうのに, 石浜のみ toṭosun が一度

しか使用されていないのは不自然。ただし、第28頌において全く同じ表現が用いられているが、そこでも石浜のみ *toyosun* が一度しか使用されておらず、あるいは特定の方針に基くものである可能性もある。

- (b) *bodisdv*, *bodi saduva* 等全て *Skt. bodhisattva*, 「菩薩」, 中村 pp. 1219~20を参照。  
なお *bodisdv* はウィグル語を経由した形式。
- (c) *nom-un činar*「法の法来的な性質」=*Skt. dharmāta*, 「法性」または *dharmā-dhātu*, 「法界」。E *töb* は「中心」。中村 p. 1249, pp. 1252~3を参照。
- (d) Aのみ *dügür-gen* と使役接尾辞に非分離副動詞語尾が接続して、あたかも後続する動詞の補文を導くかのような機能を果しているが、これは古典期蒙古文語ではまれな用法である。
- 4.
- (a) *dalai-nuγud* は(d)の *sayibar oduysad* と同格。中村 p. 260 を参照。*sayisiya-* は「ほめる」。Bのみ *sayisiya-γul-* と使役接尾辞をとめない、Fを除き他は全て（Aは語幹を異にするが）受動接尾辞 *-γda-* をともなうことが注目される。小沢 1984, pp.264~6を参照。
- (b) *üyes*, *ayımar*, *kesig* とみここでは *Skt. aṅga*, *Tib. yan-lag* 「部分、四肢」に相当する。訳文はなお検討の余地がある。
- (c) A~Eの *sayitur* は文意とは本質的な関わりをもつものではなく、*Tib. rnam-par*, *nye-bar*, *rab(-tu)*, *yongs-su*, *yong-tan*, *nges-par* 等に相当し、梵語の接頭辞 *vi-*, *upa-*, *pari-*, *nir-* 等の訳語にあてられるもの。同種のものとして、*mayad* 「確かに」、*oγoyata* 「完全に」、*masi* 「多いに」、*teyin (büged)* 「そのように」等がある。
- (d) F *üges-iyer* は「言葉によって」
- 5.
- (a) *erike* 「飾りもの」=*Skt. māla*, 「華蔓」, Fの *erke* は誤刻か。
- (b) *činggilja-~čanggilja-* とみ「(金属性の)音を出す」, *sürči-* は「ふりかける」, Fの *sürčilge* は名詞形, Fの *kögjim* は「楽器、音楽」。石浜のみ *sikür-e* と与・位格形であるのは不自然、*-i* の誤記と見る。B~D冒頭の *sonosqu metü* に相当する語句は梵文、藏文のいずれにもない。この句の解釈も難解であるが、『普曜經』における類似の表現 *sonosqu metü sayıqan daγun-iyar* に対する Poppe 1967 の訳は *with beautiful sounds pleasant to the ear* (同 p. 21)である。なお検討したい。
- 6.
- (a) A, C *takil* 「供物」に対しB, D~Fは *debel*, *qubčid~qubčad* 「衣服」と際立った対照を示している。梵文 *vastra*, 藏文 *na-bzah* はいずれも「衣服」の意。*debel* の異形 *degel* は蒙古文字で表記すれば *takil* とよく似た形になるから、*degel* の誤りとも考えられるが、一律に *takil* となっているのは不可解。旧訳各本の成立事情の一端を物語るものか。
- (b) *sümir*, *sümer*~*sümbür* とみ *Skt. sumeru* に遡る。*sümir* はウィグル語經由の後二者はその蒙古語内部における発展形式である。A~Dの *čam(b)uljaγu(l)i*, E *önggömel* の一般的な形式は 各々 *jambuljaγui*, *önggeimel* 特に前者に関しては検討すべき点がある。

(c) *nayiraγul*-は「調合する」, *jokiyaqu* は「創造する」, *nayiraγuluγsan*, *jokiyaysan* とも梵文 *vyūha*, 藏文 *bkod-pa* 「莊嚴」に相当する。中村 pp. 717~8を参照。B, D *čimeg* は「飾り」。E, F *ilangγui-a*は「特別に」, F *erkim* は「最上の(もの)」。

(b) K 1144 *tende* は誤刻か。

7.

(a) *tengsel ügei* は「無類の」, *deger-e ügei* は「無上の」。なお, *ali*, *ali... teden-i*, *alimad ...tedeger*, *ali...tedeger* 等に限らず, 疑問詞と指示代名詞から成るこの種の表現法は, 梵語の関係節表現 *yat...tat*, あるいはチベット語におけるこれに対する翻訳語法 *yang... de* に相当するもので, 特に仏典類では頻繁に使用されるが, おそらくは蒙古語本来のものではなく, 一種の翻訳語法と考えられる。疑問詞は全く形式的なもので, 疑問詞としての意味, 機能を果さない場合が多い。ここでは一応, 不自然ながら不定代名詞化したものと見なして, あえて忠実に訳出した。以後の諸例も同じ。

(b) *küsemü* 「望む」の補文の動詞語尾の差に注意。3 (d)を参照。

(d) F *mörgül-iyer* は「礼拝を以って」。

8.

(a) F *γurban qour-a* は「三悪」。

(c) Eは「罪過を私が犯したあらゆるものを」。

(d) C, D *arılγan öčimüi* 「浄めようとして語る」。

9.

(b) *bradikabud*=Skt. *pratiyekabuddha* 「縁覺; 辟支仏」, *surqun* 「学ぶ(べき)者たち」= Skt. *śaikṣa* 「有学」, いずれも修行者としてはまだ未熟の境地。 *ülü surqun* 「学ばざる者たち」=Skt. *asaikṣa* 「無学」, もはや学ぶべきものを残していない境地, 阿羅漢もしくは仏のこと, 中村 p. 1317を参照。

(c) *amitan* 「生命ある者たち」= Skt. *sattva* 「衆生, 有情」, 中村 p. 631を参照。 *buyan* 「福德」=Skt. *punya*, 中村 pp. 1187~8を参照。 *ali* 等は7 (a)を参照。Fは「一切衆生の福德がいかにようであれ」。

(d) *bayasu(lča)n daγaqu* 「喜び(合って)したがう」, *daγan bayasu(lča)n* 「したがって喜(び合)う」=Skt. *anumodanā*, 「隨喜」, 中村 p. 808を参照。B *nököčekü*は「親しむ」。

10.

(a) *yirtinčü*=Skt. *loka*-(*dhātu*), *sarga* 等, 「世間, 世界」。中村 p. 816を参照。Fで *jula* に相当するのは(c)の *geyigülügči* 「照らすもの」。 *aliba* 等は7 (a)を参照。

(b) *bodi*, *bovadhī*=Skt. *bodhi*, 「菩提」, 中村 pp. 1221~2を参照。 *jerge* 「順序」は通例 Skt. *krama*, 「次第」, 中村 p. 538を参照。ただし, 藏文には *jergeber* に対応する形式 *rim-par* があるが, 梵文にはない。 *tačiyangγui ügei* 「欲がないこと」=Skt. *asaṅgha* 「無著」, 中村 p. 1327を参照。E, F *torqu(i)*は「妨げ」。

(c) *itegel* 「救い手」=Skt. *nātha* 「救世尊」, 仏の異名, 中村 pp. 271~2を参照。



- (d) 「法輪」とは「真実の教え」の意、中村 p. 1239 を参照。これを転ずるとは「説法する」の意、中村 p. 990 を参照。E erkigülküi も「転じる」。duradqu「願う」=Skt. adhīṣṭhā「勧請」、中村 p. 192 を参照。duradqau は「念じる」。E は「無類の法輪を念じて乞う」。

11.

- (a) 石浜 tende-dür は tende がすでに「そこに」の意味であり、格語尾は接続し得ない形式であるから、誤写と見る。nirvan = Skt. nirvāṇa「涅槃」、中村 p. 1076 を参照。tayalaqu は「お望みになる」。üjegülsügei は「教示したいと」。A ~ D で küsegčid tenen-e と数の一致が観察される。また B küsegčin の -gčin は行為者形動詞複数数の古形。aliber 等は 7 (a) を参照。
- (b) 石浜は amitan-i と対格語尾をとるが不自然、誤写と見る。F amitan-i tusalad は「衆生を益して」の意、tusalah は正しくは tusalahad とあるべきもの、また jiry(a)γulqu (āleph を一個欠くのは誤刻)は「幸福にする」。C bolγaqu, D bolqu は各々「あらしめる」「ある」、B bolur-un では、古典期蒙古文語では化石化した表現のみで用いられる準備副動詞 -run が観察できる。
- (c) galab=Skt. kalpa「劫」、中村 p. 392 を参照。B, C galab-tur kürtele は「劫に至るまで」、F は「塵の数に及ぶ劫に至るまでとどまれ」。
- (d) F qabsurqu は「(手を) 合わせる」。

12.

- (a) C gšanti~gsanti=Skt. kṣānti「忍辱」。gšanti öči- という表現は未詳。F takil ergün namančilal üiledün は「供養をささげ懺悔を行い」。
- (c) A はそれ以外のものと大きく構成を異にしている。例えば B は「私の、いささかではあれ、福德を積んだことを」。
- (d) bodičid=Skt. bodhicitta「菩提心」、中村 pp. 1222~3 を参照。B~F、梵文、藏文とも全て「菩提」。同様の現象が 37(b) にも見られる。irügekü は「祈る、祝福する」、joriqu は「めざす」、Skt. parināmana (「回向」、中村 p. 97 を参照) の訳語としては後者が通例。とりあえずこの二語について総訳は B~F の形式に基いた。

13.

- (b) ali 等は 7 (a) を参照。B~D edüge は「現在」。F boturai は誤刻。
- (c) C irektüi čay-un は「来る(べき)時の」。E, F masi türgeṇ-e は「きわめて速く」。
- (d) B, D sedkigsen-iyer dügürü は「思いがかなって」、E, F sanal は sedkil と同じ、F güiče- は「充足する」。Jerger「順序」=Skt. krama,「次第」、中村 p. 538 を参照。K 731 bolγučin の -gčin に注意、11(a) を参照。K 1144 ögede bolγuγai は「向上するがよい」。F の burqan bolun kürtügei は「仏に(なって)至るがよい」。

14.

- (a) ali 等は 7 (a) を参照。石浜は ba を欠くが誤記と見る。F は「はるかかの十方のあらゆる刹土全ては」。
- (c) A erketü bodi modun, B~F bodi modun-u qayan, bodi modu-yin qan「菩提樹の王」。

いずれも菩提樹を樹中の王と見たてた表現、中村 p. 176 を参照。F は「菩提樹の王の(いる)そこへいらっしゃった諸仏や」。

(d) ここでの *ilaγuysad-ün köbegün* は「菩薩」の通名、中村 p. 1192 を参照。

15.

(b) B~D *nasu(n) ürgülji* は「常に」、F *aburida* は「いつも」、*emgeg* は「慢性疾患」。*jiry(a)lang-tu* は *āleph* を一本欠く。

(c) 石浜のみ *bügüde ber*、他は *amitan-u*「衆生の」、F *ele* は強調の小詞、総訳は仮りに *amitan-u* に基く。*udqa*「意味」= Skt. *artha*、「義」、中村 p. 218 を参照。石浜、Mong 382 のみ *-luγ-a* と共同格語尾をもつが、これに対応するものは蔵文では *ni* で、これは通常 *inu*, *anu* と訳される形式である。

(d) B, C *Jokistu* は「ふさわしい」、*küsel* は「願い」。F *neyilelčikü*「一致する」、*egerelkü* は未詳であるが、あるいは *egere*「求める」の派生形式か。*bütügegseger atuγai* は「実現させるがよい」。(c)(d)の訳文はなお検討の余地がある。

16.

(b) A の *türül* のうち前者は梵文 *gati*、蔵文 *hgro-ba*、「趣」(中村 p. 635 を参照)、後者は各々 *jati*, *skye-ba*「生」(中村 pp. 705~6)に相当するもの。F *yabuqu*「行くこと」は *gati* の原義に基くもの。*hgro-ba* は「衆生」を意味することもあり E *amitan* はこれに基くものか。20(b)を参照。

(c) PLB 142 *üküd* は *üküged* とあるべきもの。K 731 *-dür-i* に注意。

(d) *toyin*「道人」、(*ger-tečegen*) *maγad γarqu*「(己が家から)出る者」= Skt. *pravrajaka*、「出家」、中村 p. 671 を参照。*-tečegen* は先古典期蒙古文語特有の奪格語尾。

17.

(a) F *γorimaylaγu* は「すすんで、あえて」。

(b) C *teyiken*, *teyin ken* は *teyin* の強調形。

(c) *saγsabad*, *saγšabad* などは Skt. *śikṣāpada* に由来するもの、意味は広く Skt. *śīla*、「戒」にあたる。中村 pp. 162~3 を参照。F *aldal* は「喪失」。

(d) B, D, E *ülü baγuran* は「衰えずに」、F *ülü ebden* は「壊さずに」、F *yabuγsaγar atuγai* は「修行しつづけるがよい」。

18.

(a) *yagša*, *yagsa* 等 = Skt. *yakṣa*「夜叉」、中村 p. 1373 を参照。*čidküd* は *čidkür*「悪魔」の複数形。(c)の *gluus* は Tib. *klu*「竜」によるものか。

(b) *kumbandis* = Skt. *kumbhāṇḍa*、「鳩槃荼」、中村 p. 272 を参照。これはウイグル語経由の形式で、F *kümbe(n)dis* はより蒙古語化したもの。F *büri-yin* は「各々の」。

(c) E, F *daγun* は「声」。旧訳にのみ *bügsen* が出現することに注意。

(d) *üjegül-~üjügül-* は「教示する」。

19.

(a) K 731 *amurlin* は「安んじて」、*amurlingγui boluγad*, *amurlıγad* も同義、*nomoγaduγad*

は「(心を) 鎮めて」。石浜の *maṇad* は特異といえる。 *baramid*=Skt. *pāramitā*, 「波羅蜜」, 中村 pp. 1092~3を参照。

(b) *F ču* に注意。これは古典期になってはじめて登場する形式。 *F martal* 以下は「忘却なくあるがよい」。

(c) *ali*, 等は11(a)を参照。 *B~D nigül kilinče* は「罪過」, *tüidker* 「さまたげ」=Skt. *āvarana*, 「障(礙)」。中村 p. 729 を参照。 *tüid*, *tüidkerle-* はその動詞形。 *B~E* は「罪過, 障礙となったものら」の意。梵文, 藏文にてらす限りはこちらの方が正確といえるが, 総訳はあえてAに基いた。

(d) *F ariyudun oduyai* 「清まていくがよい」。

20.

(a) *A~D* の *jayayan* は通常「(六) 趣」(中村 p. 635を参照), 「(六) 道」(中村 p. 1013) に相当するもの。梵文 *karma*, 藏文 *las* 「業」(中村 p. 406 を参照)の訳語としてはE, *F* の *üile* が通例。 *nisvanis*= Skt. *kleśa*, 「煩惱」, 中村 p. 1273を参照。 *simnu* 「悪魔」はソグド語に遡る形式で, Skt. *māra*, 「魔」に相当する。中村 pp. 1280~1 を参照。なお *n* と *l* が交替した Mong 382 の形式はきわめて珍しいもの。また *nisvanis* と *simnu* の関係はA, B, Dのように限定一非限定の関係とC, E, Fのように並列の関係とに解釈が分かれている。

(b) *tonil-* 「救われる」=Skt. *mokṣa* 「解脱」(中村 pp. 308~9 を参照。 *amitan* が解釈しにくいところである。 *amitan* は藏文 *hgro-ba* に相当し, 後者は *sems can* とともに「衆生」を意味するものではあるが, ここではむしろその本来の意味「行」「道」で使われているのではないかと考えられる。なお検討したい。16(b)を参照。

(c) *yambar (metü)*, *yambarčilan* は関係詞の翻訳語法。 *badma*, *lingqu-a* とも「蓮華」, 前者は Skt. *padma*, 後者は漢語「蓮華」に遡るもの。 *B toyta-* は「落着く」。 *F yosuṛar* は「応じて」。

(d) *E dūrber* は「妨げ」。 *F* は「太陽と月が空かけて進むように行く」。

21.

(a) C は「無尽の国土の広さがいかなるものであっても」, F は「あらゆる国土とあらゆる方角において」。なお *-lus-a* は *-luṣ-a* の誤刻。

(b) *maṛui jayayan* =Skt. *apāya*, 「悪趣, 惡道」, 中村 p. 20を参照。

22.

(a) *F erkim* は「至上の」。

(b) *jokildun oro-*=Skt. *sārūpya*, 「随順」, 中村 p. 810 を参照。 *C adali oroṇad* は「同様に入って」。 *C~F yabudal* は「行為」。

(d) *C qamuy-ača* は「普く」。 *R, K 731*, *B kürtele* は「至るまで」。 *F arügedüi* は *irügedüi* の誤刻。

23.

(a) *ken, ali*は11(a)を参照。

- (d) 石浜のみ *adali* をもつが, *nigedken* と意味が重複し, かえって解しがたい。誤記と見る。C *qamtu* は「ともに」。

24.

- (a) 石浜の *kürgegçi* は「及ぼすもの」, *sedkigçi* との関係から, 誤記と見る。ali(n)は11 (a)を参照。Fは「私に益することを望む師匠たち」。
- (d) 石浜 *tende bi* は「そこで私が」。この句の意味するところはBのように「いつもかれらの心を失望させまい」であるから, 石浜は意味が通じない。本来あるはずの *sedkil* の修飾語が脱落したものか。sedkil-i の後の *bi* は誤記と見た。K 731は非分離副動詞形で文が中断した形になっており不自然。総訳はCに基く。

25.

- (a) *itegel*=Skt. *nātha*, 「救世」, 仏の異名, 中村 pp. 271~2 を参照。
- (b) 梵文, 藏文を含め他は全て見る主体が「私」になっている。総訳はこれらにしたがう。E, F *ilerkei-e* は「明白に」。

- (c) F *ülü uyid(a)n(āleph* を一本欠く) は「倦まず」。

26.

- (a) *bari*-「つかむ」=Skt. *dhārayati*, 「受持」, 中村 p. 638を参照。
- (b) Aのみ他とは表現を異にする。例えば C は「菩提行をいよいよ修行することによって」, Bは「菩提行を四方に輝かせて」など。
- (c) Fは「福德行をまた大いに清浄とすることを」。

27.

- (a) *orçiqu*, *uiçraq*=Skt. *samsāra*, 「輪廻, 流転」, 中村 p. 1431 を参照。sansar はこの音写でウイグル語経由の形式。Fは「一切の生を得る度毎の輪廻において私は」。石浜写本の *-dur-i* に注意。
- (b) *bilig*=Skt. *jñāna* 「智, 般若(智)」, 中村 p. 950, 1115 を参照。belge *bilig* も同義。
- (c) *arya* 「手段」=Skt. *upāya*, 「方便」, 中村 p. 1225 を参照。*diyan*, =Skt. *dyāna*, 「禪定」, 中村 p. 855を参照。*samadi*=Skt. *samādhi*, 「三昧」, 中村 pp. 489~90を参照。両語は同義, いずれもウイグル語経由の音写。F *naiman masi tonilqui* は「八解脱」, 中村 p. 1102を参照。

28.

- (a) Aについては3(a)の註を参照。*baramanu*=Skt. *paramāṇu* 「微塵」, 中村 p. 1294を参照。B, Cの *baramanu* については, これ以外のものと同様に属格語尾があるべきもの。本来の語末の *n* を属格語尾と解して *metanalysis* をおこした *baraman*, さらにこれを複数形にした *baramad* という形式は仏典に散見する。この一例か。
- (b)(c) A以外は全て「諸仏が諸菩薩の只中に坐」していることになっている。梵, 藏文ともこの意。(c)の句末はCを除き全て与・位格語尾となっているが, 藏文は *-la* で終わっており, この場合は必ずしも厳密には対応しない。なお石浜の *-dür-i* に注意。F の(b)は「刹土全てが諸仏が考え尽くせぬ程満ちあふれ」。

- (d) 石浜 ken čī は未詳。訳は K 731に基く。Cは「菩提行を実現すべく修行して私は見たい」の意。

29.

- (b) C ken は「いかに？」の意か。ただし、梵、藏文には該当する形式がない。B～F eng は「広さ」。Cは PLB 49による。PLB 72の čwyk'br は未詳。
- (d) B, D orolduqu は oroqu の co-operative の形。ここでは同義か。以下34まで oroqu, orolduqu が頻出する。これは一般に Skt. praveśa, Tib. hjug-pa, 「入」(中村, p. 1055 を参照)に相当する。梵文では以下の諸例における対応が明確ではないが、藏文では一貫して hjug-pa が使用されている。

なお、この頌全体の意味がやや解し難いが、泉はこれを「多くの諸仏及び国土及び行者の求道歷程を沈思して自らこれに没入せん」と解説する(泉1929, p. 189 を参照)。

さらに検討したい。

30.

- (a) jarliγ は「お言葉」、üy-e は「節、関節」、üge は「言葉」、bölüg は「章、区分」、gesigün は「枝」、dayu(n)は「音」、ayaγu は「発音」。
- (c) B～F yambar, yambarčilan は梵文 yathā 藏文 ji-bzhin に相当するもので、蒙古語としては不定代名詞として解するべきものか。例えばCは「衆生の心において何であれ思うがままにあらしめる(もの)」となる。これを含め、この頌の解釈はなお検討を要する。

31.

- (b) B, D～F yosu(n) は「さだめ、ことわり」。F ču に注意。
- (c) F üyes は翻字すれば 'y'ys であるが、これに該当する語は未詳。誤刻と見なした。

32.

- (a) 石浜写本 -dur-i, Fの ču に注意。
- (b) gsan, gšan=Skt. kṣāna 「刹那」、中村 p. 827 を参照。なお F agšim はきわめて珍しい形式。A tedüyiken-iyer は「～の程を以って」と訳すべきものか。Eは「一つの刹那一つにおいて私は悟入し」、Fは「私はまた一つの刹那で悟入する」。33(b)にも同様の表現がある。
- (c) 悟入する対象を示すとすれば、石浜写本の činegeber 「量を以って」は解し難い。なお検討したい。E, F kemjiiy-e は「尺度」、F kemjiyeltü の kemjiyel は未詳。
- (d) A бүged-iyer に注意。この頌の解釈もなお検討を要する。

33.

- (a) ali 等は11(a)を参照。arslan は1(b)を参照。
- (c) visai=Skt. viśaya 「境(界)」, 「境地」中村 p. 238 を参照。
- (d) 例えばBは「かれらの修行する界に」というようにB以下では visai をいわば分析的に表現している。yelvi = Skt. māyā 「幻(化)」, 中村 pp. 333～4 を参照。

34.

- (a) ali 等は11(c)を参照。Jokiyaqu は6(c)を参照。
- (b) baraman, baramad は28(a)を参照。Fの ilerkei-e は「明瞭に」。
- (d) 石浜写本の -dur-i に注意。
- 35.
- (a) ali 等は11(a)を参照。石浜写本のように jula-nuṛud に対格語尾をしたがえているのは文脈上不自然。なお修飾語 edüi と被修飾語 yirtinčü の間に強調の小詞である ber が割り込んでいるAの用法はめずらしい。
- (b) Fは「やがては成仏し法輪を莊嚴して」。
- (c) B〜D nirvan-u kijayar は「涅槃の境界」, Fは「寂滅し涅槃の極を教示するもの」。  
Cの kijayar-a は文脈上不自然。
- (d) R *bwlw*”yは未詳。B〜D kürge- は「届ける」, F bayud- は bayuda- すなわち bayu-「降りる」の受動形か。なお検討したい。
- 36.
- (a) qamuṛ-a, qamuṛ-ača は蒙古語としてはやや不自然の感はまぬかれないが, Skt. samanta, pari-, Tib. kuntu, kun-nas 等の訳語。ridi=Skt. ṛddhi 「神通」, 中村 p. 794 を参照。qubilṛan「転生, 変化」も同義。
- (b) qamuṛ-ača egüden(〜qayalṛ-a)は「普門」の意。中村 p. 1181 を参照。kölgén「乗り物」=Skt. yāna 「乗」, 中村 p. 751を参照。
- (d) asara-「あわれむ」=Skt. maitrī, karūṇā「慈」, 中村 p. 573 を参照。B〜Dは「遍く行き届いた慈心の力」。
- 37.
- (b) B〜D tačiyangṛui-ača qayačaṛsan は「執着を離れた」, 10(b)を参照。
- (c) Aのみ方便, 般若, 禪定の順序を異にする。
- (d) 10(d)と同じくA「菩薩」に対しB以下は梵文, 藏文とも全て「菩提」。PLB 72 *mwyc*’ は未詳。Fは「菩提力を私は成就するものになるがよい」。
- 38.
- (a) jayayan は「運命」, kilinče は「罪」であるが, 梵文 karma, 藏文 las に対する訳語としてはB, D〜Fの üile が通例。20(a)を参照。
- (b) Eは「煩惱の力全てを抑えて」, Fは「煩惱の力を私は完全に破壊する」。
- (d) Fは「善の福德力を私は全て完全なものとする」。
- 39.
- (b) F getülgejü ṛaryamui は「助け出す」。
- (c) PLB 183 üjer-ün に注意。
- (d) Mong 06, 45 ”syö” は誤刻か。Fは「大海のような智慧を明瞭に理解する」。
- 40.
- (a) B, C ariṛun boluṛad は「清浄となって」。F ariṛun-a üiledün は「清浄をめざしつとめ」。

(b) B~D *irüger qutuγ* は「願(という)聖なるもの」、*daγusqaqu* は *tegüskekü* と同義。

41.

(b) *ilyal*=Skt. *viśeṣa* 「差別」。中村p. 604 を参照。石浜の *ba* は解し難い。C *ayimay* は「区分」。B, Dは「菩提行にある願の区分において」。Cもこれに準ずる。

Fは「菩提のため修行する願の差別を」。なお「差別」は第4句冒頭の *tede* 等と同格であることに注意。

(c) 石浜写本の「普賢行の菩提心によって」は特異、他は梵、蔵本を含めて全て「普賢行によって」、B~D *burqan-u qutuγ-i olju* は「仏の尊さを得て」。Fは「福德行の修行が全て成仏して私は」となるが、*ber* は文脈上明らかに不自然。強調の小詞 *ber* と具格語尾を混同したもので、仏典では散見する現象である。K 731, Eの *bovadhī-dur* は「菩提(を得たこと)において」の意か。総訳はこれに基く。なお検討したい。

(d) Eの *bolγ(a)amui* は *āleph* を1本欠く。

第41頌の後半2句の順序は梵文および漢訳3種では蒙古語訳各本とは逆に(d)(c)となっている。なお蔵本は蒙古語訳と同じ。

42.

(b) *ken* は7(a)を参照。B~Eは直訳すれば「誰か(そ)の名が普賢と言われるものがあるなら」。F *küntüsangbo* は Tib. *kun-tu bzang-po* の音写。

(c) Fは「あの知者と等しく修行してあるために」。

43.

(a) B, Cは「清浄な身体, 言葉, 心をもって」。

(b) B, Cは「清浄な修行と清浄な国土において」、Dは「清浄な修行と国土を清浄にするため」、Fは「修行や利土が清浄となったのである」。

(c) Cは「それと同様に、私もかれと同様になるがよい」。Eもこれに準じる。他に比べこの両者は梵、蔵文に忠実である。Fは「私もまたかれと等しくあるがよい」。

44.

(a) *sayin buyan* 「良い福德」、*buyan sayin* 「福德の善行」いずれも「普賢行」の意。B~Dは「普賢行を修行するため」、Fは「遍く普賢行を活用してあるため私は」。

(b) *manjusiri*, *manjusri*, 等=Skt. *Mañjuśrī* 「文殊, 文殊師利」, 中村 p. 1369 を参照。B~Dは「文殊師利の願の尊さを成就したい」、Eは「文殊師利の願により修行するようつとめたい」、Fは「文殊菩薩の願の道を享受する」。

45.

(a) B, C *činege(n)* は「程度」。K 1144, D, E *kemjiy-e* は「尺度」、Fは「私の一つの行為は測定不能となるがよい」、ただし複数を示す接尾辞-*ud* が解しにくい。

(b) Cは「功德をも可能となるがよい」、ただし K 1144 *čaylan bariqu ügei* 「測りきることのない」であるから、これ以外のものでは何らかの形式が脱落したものと思なし得る。Fは「功德も測定しきれぬものとなっていくがよい」、*ču* に注意。

(c) B~Cは「無量行によって修行して」、Dもこれに準じる。Fは「無量行や功德に安

住し」。

- (d) I, R qubilʔan-u は「神変の」、さらに検討したい。D araqan は Skt. arhan, 「阿羅漢」(中村 p. 11 を参照) か、なお検討したい。E egeri- は「さがす」、F eri- も同義。

46.

- (a) K 731 turuʔ は「大きさ」。F は「青き無窮のはすれの大きさがいかほどであったにせよ」。

- (c) ʔayaʔan, kilinče, üile については 38(a) を参照。D, E ulin は「怒り」。

47.

- (a) aliber, ken 等は 7 (a) を参照。F kijar は正しくは kijayar とあるべきもの。

- (b) K 731 erdenis-iyer čimejü は「宝によって莊嚴し」、B 以下もこれに準ずる。

- (d) F は「土のように多数の劫(において) ささけてあったことから」、ču に注意。

48.

- (a) ken は 7 (a) を参照。

- (b) A のみ「菩提心」、他は梵、藏本を含めて全て「菩提」。B は「最勝の(菩提の) 尊さにしたがい喜び満足して」。

- (c) B ~ E süsüg törögülkü は「信仰を生む」、F は「一度ほどでも信仰が生まれてあるなら」、ču に注意。

- (d) E, F manglai は「先頭」、F 「福德はこれであり、最先端となる」の意か。なお検討したい。

49.

- (a) ken 等は 7 (a) を参照。F bhadračiri は Skt. bhadracari 「普賢行」を音写したもの。

PLB 183 enen は解し難い。ene の誤刻か。B ~ D qutuʔ ʔuyu- は「(菩提の) 尊さを乞い願う」、F irügel-i talbiq は「願をかける」。

- (b) tebčikü 「捨てる」= Skt. varjita, 「遠離」、中村 p. 140 を参照。C tarqayaqu は「散らす」、D tarqaqu も正しくは tarqayaqu とあるべきもの。

- (c) C, D gege- は「失う」。F ču に注意。

- (d) abida, amindau-a, amidu-a = Skt. amitābha, 「阿弥陀」、中村 p. 9 を参照。F ču に注意。

50.

- (a) C は「かれらは善を得て、得た喜びとともにある」、D は「かれらは良き利益を得た喜びをもって暮し」、E は「かれらは利益を多いに得たことの良き暮しを」、F は「かれは利益のよろしきを得て安樂を享受し」。

- (b) 石浜写本の bere は解し難い。ber の誤写と見たい。A, C, D sayijid-, E, F ču に注意。E は「人のこの寿命においてかれらは 善来する」、F は「この寿命の上にもかれは 善来する」。sayitur irekü = Skt. svāgatam, 「善来」、中村 p. 852 を参照。

- (c) samantabadari 等 = Skt. Samantha-bhadra 「普賢」、中村 p. 1179 を参照。A ~ C の bügen に注意。



(d) E öni udal ügegüi-e は「長く経ることなく」、F öni udal ügei も同じ。

51.

(a) tabun ĵabsar ügei=Skt. pañcānantariyāṇi「五無間」、中村 p. 376 を参照。Fは「無間の5種の重罪の行為を」。

(b) ken 等は7(c)を参照。B~Dは「誰であれ無知ゆえに犯したのなら」、Eは「誰であれ知らざるゆえに犯したもののたち」、Fは「どの人であれ知らずに犯したのなら」。

(c) B~D uri-, F ungsi- はともに「唱える」。B, Cは「その人がこの普賢行を唱えれば」、Dは「その人がこの普賢行をもつものを唱えれば」、Eは「かれが普賢行の願、これを語れば」、Fは「その人が願の王を唱えていれば」。

52.

(a) beye「身体」は梵文 rūpa, 藏文 gzugs, 「色」(中村 p. 574を参照)に相当するもの、次の aldar はこれとは別のものであるから、Mong 382のように属格語尾で接続するのはおかしい。C bildar「体つき」、B, D bey-e bildar「体格」とともに梵文 rūpa に相当するが、これにあてられる訳語は E, F dürsü(n) が通例。A aldar「名声」、B~D belges~belged「しるし」とともに梵文 lakṣaṇa, 藏文 mtshan (「相」、中村pp. 863~4 を参照)に相当するもの、E, F lagsa(n)は梵語に遡る音写形式。

(b) iĵayur「素性」=Skt. varṇa「族姓」、中村 p. 890 を参照。F ijuur は口語を反映した形式。öngge は「色」、üjesküleng は「美」、E obuγ は「氏族」。(a)(b)で列挙された5種の美点の最後は梵文 gotra「種姓」(中村p. 634を参照)、藏文 kha-dog「顔色」であるから、敢えて区別するならEは梵文に、他は藏文に忠実ということになるうか。なお検討したい。

(c) Fは「多くの敵たる悪鬼どもにかれは負かされないのである」。F terはters に基く遊形成か。

(d) ġurban yirtinčü=Skt. tri-loka「三界」、中村pp. 456~7 を参照。Eは「三界にいるものの全てが供養することになる」。

53.

(a) Cの倒置に注意。藏文では動詞は文末に置かれている。

(b) Fのみ構成を異にする。梵、藏文ともA~Eに平行している。

(c) B~Dは「超越した仏となり法輪を転じて」、Eは「菩提において成仏し法輪を転じて」、Fは「菩提を得て成仏し法輪を説法するのである」。48(b)を参照。

(d) B~D čirig, čerig は「軍勢」、F simuγ は simnus の誤刻、selte-ber-i の語構成には未詳の点がある。

54.

(a) ken, ali 等は7(a)を参照。B, Cは「誰であれこの普賢行をもった、誓願した願を」、Fは「誰であれまたこの至高の願の王を」。

(b) A neke-「訴える」、B~E uri-「呼ぶ」、F ungsi-「唱える」はいずれも梵文 √diś-「説」(中村 pp. 829~30 を参照)に相当するもの。B, Cは「受持するか、説法するか、

呼ぶならば」, Dもこれに準ずる。Eは「受持するものと 教示するものあるいは宣説するもの」, Fは「受持するものか教示するもの唱えるものとなるならば」。E buyu は一種の接続詞として機能しているが、これは古典期になってから確立された用法である。F -baču も古典期になってから登場する形式である。樋口 1986, p. 018 を参照。ただしここでは譲歩の意味とは見なし難い。

- (c) ači ür-e 「報い(と) 果実」=Skt. vipāka 「果報」, 「異熟」, 中村 p. 150, p. 36を参照。Eは「それがそのように結実するのを仏も 御存知なのである」, Fは「その修行の成果を仏たる師も御存知である」。
- (d) A, C degedü qutur 「最勝の聖なるもの」は「菩提」の意。E degedü 「最勝なるもの」も同義。qoyar sedkil bari- で「二心を抱く」, 石浜写本のように qoyar のみでは意味を弁じ難い。脱落と見る。Cは「菩提を得ることに遅怠すべからず」の意か、なお検討したい。また büged が一種の小詞として機能していることにも注意。B, Dは「菩提を得ることに疑心を生じるべからず」, Eは「菩提において疑心を生じるべからず」, Fもこれに準じる。41(c)を参照。

55.

- (a) bayatur 「英雄」=Skt. śūra 「勇」, 荻原p. 1344を参照。F batur は口語を反映した形式。Eは「文殊師利なる 勇者が どれほどであれ 御存知のことと」, Fは「文殊師利なる 勇者がどれほどであれ御存知のことならば」。
- (b)(c) 石浜写本は tereber 以下から dayan 以前までが明らかに脱落している。他の二者に基き補って訳出した。
- (a) F buyad-iy(a)n はāleph を一本欠く。PLB 183の urimu は Jorimu の誤刻か。

56.

- (b) alimad 等は7(a)を参照。Eは「誓願の何であれ最勝と賛美したものであるそれらにより」, Fもこれに準じる。
- (c) buyan-u ündüsün 「福德の根源」=Skt. kuśāla 「善根」, 中村 p. 849を参照。Fは「私のこれらの実行した根源ある福德を」。
- (d) Fは「菩薩行のため回向する」。

57.

- (a) B~F kejiye は7(a)を参照。A, C -dur-i に注意。B ečül- は「終る, 死ぬ」, C, D ečüd- は「終る」, D nügči- は「過ぎる」, Fは「いつであれ, 私が通り過ぎる時に至ったなら」。
- (b) B, Dは「一切の妨げである罪を体外に(出して), 清浄として」, Cは「一切の罪を, (すなわち) 妨げとなるものを体外に(出して), 清浄として」, E, Fは「一切の妨げが体外に(出て), 清浄となって」。
- (d) sukavati=Skt. sukhāvati 「極楽」, 中村 pp. 414~5を参照。sükeveti はより蒙古語化した形式。K 731は「行きたい」, B以下は全て概ね「行くがよい」で終わっている。

58.

- (a) Fの basakü は「またもや」。
- (b) B, Cは「遍く無余に眼前にあらしめることとなるがよい」, Dは「遍く無余に眼前にあることになるがよい」, Eは「全てを無余に 眼前にあらしめることになるがよい」, Fはこれに準じる。
- (c) C teyin büged-tür に注意。
- (d) kejiye は7(a)を参照。B, Cは「世間においていかほどであれ, 衆生に利益を施したい」。Fは「衆生を活用して私は汝らの利益をなすがよい」。

59.

- (a) mandal=Skt. maṇḍala「曼荼羅」, 中村p. 1285 を参照。K 731, B, Dではガリック字を混用して表記している。Mong 382, K 731の dür-i, Cの -tur-i, -dur-i に注意。B, Cは「喜ばしいあの仏国土において」, Dは「仏の美しい曼荼羅, 喜ばしいあの国土において」, Eは「仏の曼荼羅, 美しく喜ばしいあれにおいて」, Fもこれに準じる。
- (b) lingu-a=Skt. padma「蓮華」, 中村 p. 1439 を参照。badma は梵語の音写。B~D бүр-үн は仏典において多用される形式で, 本来は繫辞 бү- の準備副動詞形であるが, その意味・機能は今後の解明にまつ所が大きい。
- (c) Fは「大覚たる阿弥陀の面前から私は」。この büged の用法は異例, なお検討したい。
- (d) vivangkirid=Skt. vyākaraṇa「授記」, 中村 p. 641 を参照。蒙古語形は窮極的にはむしろ梵語の過去受動分詞形 vyākṛtaに遡るものか。C viyangkirid はよくこれと平行している。vivangkirid は蒙古語内部における著しい改新を示す形式であり, あるいは, 本来はガリック文字で表記していたものを誤って蒙古文字として 解釈したという可能性も考えられるが, なお今後検討したい。Fは「授記を与えられることをそこで得るがよい」。

60.

- (b) költi=Skt. koṭi「俱胝」, 中村 p. 269 を参照。Fは「多くの百俱胝にもなる変化した身体を通じて」。
- (d) Fは「一切衆生に多くの利益をなすがよい」。

61.

- (a) Bは「普賢行をともなう願の回向を 唱えたことの」, Cは「普賢行をともなう願を回向した」, Dは「普賢行をともなうこの願を誓願した」, Eは「普賢行の願を唱えたことの」, Fは「普賢行をともなう願をかけて」。
- (b) ali, kedüi 等は7(a)を参照。B, Cは「私のさほどばかり積んだその福德によって」, Dは「私のなにほどながらも積んだその 福德によって」, Eは「福德を少しばかり私がいささか積んだ」, Fは「わずかばかりの福德をいささかながら積んだそれによって」。
- (c) Mong 382, K 731 は「それによって衆生の誓願である福德が」, B, Dは「衆生の回向の一切の福德が」, Eは「それによって衆生の福德を誓願することが」, Fは「衆生の誓願や福德が」。
- (d) 石浜写本 бүрүн кү は解し難い。Mong 382 に基き訳出する。Eは「一刹那において全てを得るがよい」, Fは「一つの刹那において全て合致してゆくがよい」。

- (a)(b) ali, は7(a)を参照。ただし梵、藏文ではB～Dのように再度これが使用されていない。B, Cは「誰であれ普賢行をともしなうこの願を誓願すれば、無辺の何であれ無上の福德によって」、Dの(a)は「誰であれ普賢行をともしなうこの願を誓願した」、Eは「普賢行の願を誓願したことで、無辺となった至上の福德によって」、Fは普賢行をともしなう願をば回向して得られた何であれ無辺の福德こそ」、F ber は41(c)を参照。
- (c) B～D yeke üsün は「大きな水」、PLB 72 bandaydaysan は baydaydaysan とあるべきもの、āleph を一本欠く。D～F ėib- は「沈む」、F は「苦をそなえた大河の河谷で沈みつつある衆生が」。

### 結 語

- (a) Bは「きわみの至上であるこれら誓願の王が」、Fは「きわみの中のきわみであるこの願の王こそ」、F ėu に注意。
- (b) B～Eは「無辺の一切衆生に益が生じ」、Fは「無辺の衆生に益するものとなって」。
- (c) Mong 382 は「普賢の飾ったさだめが成就して」、K 731は「普賢の飾った中心の教えが成就して」、B～Eは「普賢によって飾られた中心が成就して」、Fは「普賢の飾りたてた中心が成就して」。
- (d) K 731 qoγosurayulqu は「空しいものとする」、Bは「悪趣の境界が完全に空しくなるがよい」、qoγosudaqu は「空しくなる」、Fは「悪化した境界が空虚に至るがよい」。
- このあとさらにB, D, E, Fには奥書が付けられている。これらを順に紹介したい。
- なお、解釈し難い箇所も少なからずあり、また固有名詞とおぼしき名前も登場する。Eの Nom-un Dalai 以外は実在した人物との同定が現状では不可能である等、不備な点も多い。あえて仮訳を付けた。

B masida yeke delgeregsen sndur olangki burqan kemegdekü-eċe  
 bovadhi saduva-nar-un sang nom-un dotor-a-aċa :  
 modun-u ċimeg kemegdekü nom-un jüil-eċe :  
 Mani badr-a sayin irüger bayši-yi ergün kündüleksen kedüi bükü  
 yabudal-i quriyaγsan nigen tedüi tegüşbe :: ::

「『華嚴經』とよばれるものの中の「入法界品」中の「樹の莊嚴」といわれる經典の種類のなかから、Mani bhadra たる普賢師を敬命し信仰する修行を集積したものが終った。」

D olangki sudur-aċa γaruγsan sayin yabudal-tu irüger-ün qayan-u :  
 urida orċiyuluyγsan-i Jasaγtun seilgemü kemen simdayu Jarliγ-i :  
 vċir ayuγuluyċi-yin süme-yin terigün blam-a šaγšabad ber :  
 örċü bayulγγsan-i idqan qariγul-un yadaγu bürtün :  
 törölki ba suduluyγsan bilig ügei bolbaċu ele tügemel-ün ejen blam-a  
 Erdem ilγal ügei-dür dulduyidċu bürtün :  
 türigsen oyun-ıyan kiri-ber sigüşbe kynty bi :

töb orosiγči merged üjebesü jasan soyurq-a :: :: ::

maṃ ghaa lam ::

訳『華嚴經』から発した『普賢行願讃』の以前に翻訳したものを改めるがよい、刻版する、との急なおことばを Včir ayuγuluγči の僧院の筆頭のラマである Šaršabad が、聞き筆写したものを勧めて戻すことあたわずして、生得のあるいは後に学んだ知恵もないにもかかわらず、万能の主たるラマ Erdem ilγal ügei にたよりながら、乏しい知恵の働く限りで、私こと Kynty が検討した。権威ある知者が見たなら、修正し給まわんことを。」

E kemekü ilayusad-un kübegüd-ün yabudal-un yeke irtügel egüni : <sup>1)</sup>

ilγ-a oyutu Nom-un dalai-yin orčiyuluγsan gem büi bükün-i :

merged-e namančilaγad kerbe jöb bui bügesü tegün-iyer :

Erdeni sedkil-ten-nuγud-un<sup>2)</sup> čiyulγan-u Jahu-yin ökin-luγ-a<sup>3)</sup> qamtu nigen-e neyilejü :

ene degedü Jorilγ-a-yin urusqal-iyar yeke arsi-yin dalai-dur oroqu boltuγai :: :: ::

maṃ gha<sup>4)</sup> lam :: :: ::

1) PLB 66 ø 2) PLB 66 sedkil-ten-nügüd-ün 3) PLB 66 ökin-lüge 4) PLB 66 ga

「という仏子の修行の大いなるこの願讃を、無限の知恵ある Nom-un dalai が翻訳したものの欠点の全てを、知者に合掌し、正しいものによって、Erdeni sedkil-ten らの集団の Jahu の娘とともに知って(?)、この至上の願讃の流れに沿って、大師の海に入るがよい。」

F ene bičig künt(üsang)buyin tere γoul mön uu busuu busu bolun odbaču :

ene mön kü irügel-ün qan-u :

baruγ udq-a mön uu busuu sinjilen ::

ülebesü burayγa :

kemen baruγlan :

kitad darayγa kigsen-i ču tegemü :

maγu minu salilayγan ene ču :

baruγ udq-a jokibasū yambar gem :

ker ber ese jokibasū bilig-ten :

čidma-yin qoyina bütügeli soyurq-a:

kerbe jokis kemebesü mörgümü :

qoyitus basa silüg kijü atuγai :: :: ::

「この書があゝの『普賢行願讃』の真髓か否か、否ということになるが、当の『願讃』の概容か否かを調べ、概容ということなら罪も軽からう。もし不適切なら知恵ある賢者の後からの補完を願う。もし適切ならこれを敬まおう。後に付け足しで一頌をなすがよい。」

## 参 考 文 献

泉 芳環, 1929, 「梵文普賢行願讃」, 『大谷学報』10, pp. 370~426.

荻原雲来編纂・辻直四郎協力・鈴木學術財団編, 1979, 『漢訳対照 梵和大辞典』, 講談社。

小沢重男, 1979, 『中世蒙古語諸形態の研究』, 開明書院。

- , 1984, 『元朝秘史全釈(上)』, 開明書院。
- 金岡秀友, 1980, 『金光明經の研究』, 大東出版社。
- 中村 元, 1981, 『仏教語大辞典縮刷版』, 東京書籍。
- 樋口康一, 1980, 「羽田博士旧蔵蒙古仏典写本断片について」, 『アジア・アフリカ言語文化研究』 20, pp. 174~203。
- 樋口康一, 1986, 「『宝徳藏般若』の蒙古語訳について」, 『東洋学報』 68, 1~2, pp. 01~027。
- 山田龍城, 1959, 『梵語仏典の諸文献』, 平楽寺書店。
- Altangerel, C., Cerensodnom, D., 1967, "Turfany cugluuguyn TM8, TIIT662," *Studia Mongolica* VI, pp. 38~42.
- Bosson, J., 1969, *A Treasury of Aphoristic Jewels*, Bloomington.
- Cleaves, F. W., 1954, The Bodistw-a Čari-a Awatar-un Tayilbur of 1312 by Cosgi odsir, *HJAS* 17, pp. 1~129.
- Haenisch, E., 1959, *Mongolica der berliner Turfan-sammlung*, Berlin.
- Heissig, W., 1954, *Die Peking'er lamaistischen Blockdrucke in mongolischer Sprache*, Wiesbaden.
- Heissig, W., 1962, *Beiträge zur Übersetzungsgeschichte des mongolischen buddhistischen Kanons*, Göttingen.
- Heissig, W., 1964, Zur Bestandsaufnahme und Katalogisierung mongolischer Handschriften und Blockdrucke in Japan, *UJb.* 38, 1966, pp. 41~91.
- Heissig, W., 1976, *Die mongolischen Handschriften-Reste aus Olon süme, Innere Mongolei (16. -17 Jhdt.)*, Wiesbaden.
- Heissig, W. - Bawden, C., 1971, *Catalogue of Mongol Books, Manuscripts and Xylographs*, The Royal Library, Copenhagen.
- Lessing, F.(ed.), 1982 *Mongolian-English Dictionary*, Bloomington.
- Lokesh Chandra, 1979, *Multi-Lingual Buddhist Texts*, I, New Delhi.
- Sárközi, A., 1972, Toyin Guiši's Mongol *Vajracchedikā*, AOH 27.
- Poppe, N., 1955, *Introduction to Mongolian Comparative Studies*, Helsinki.
- Poppe, N., 1967, *The Twelve Deeds of Buddha*, Wiesbaden.
- Poppe, N., 1971, *The Diamond Sutra*, Wiesbaden.
- Pooper, N., Hurvitz, L., Okada, H., 1964, *Catalogue of the Manchu-Mongol Section of the Toyo Bunko*, Tokyo and Seattle.